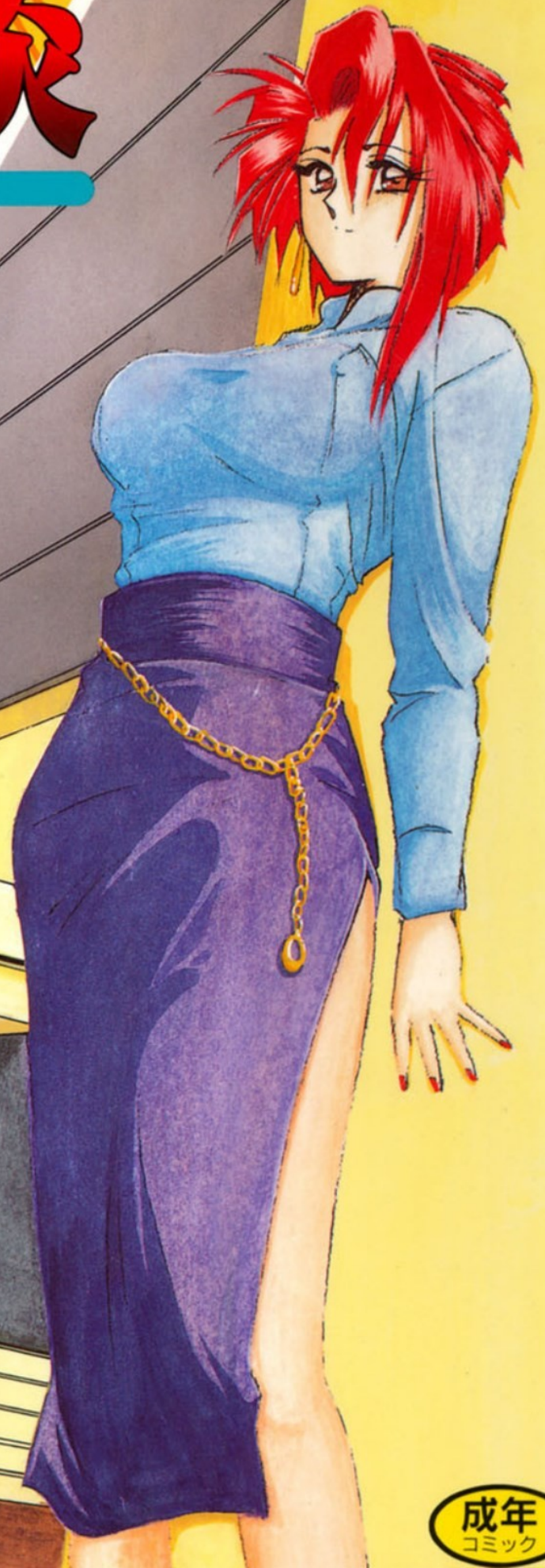


灼熱の炎

しゃくねつのほのお

山文京伝

さんぶんきょうでん



成年
コミック



炎の熱灼

山文京伝

第一章「毘」	5
(1994年・6月号)	
第二章「兆候」	9
(1994年・7月号)	
第三章「策略」	49
(1994年・8月号)	
第四章「恋慕」	69
(1994年・9月号)	
第五章「隷属」	89
(描き下ろし)	
第六章「変貌」	101
(1994年・10月号)	
第七章「昔日」	121
(1994年・11月号)	
第八章「急転」	141
(1994年・12月号)	
最終章「終焉」	161
(1995年・1月号)	
あとがき	185

目【灼熱の炎】次

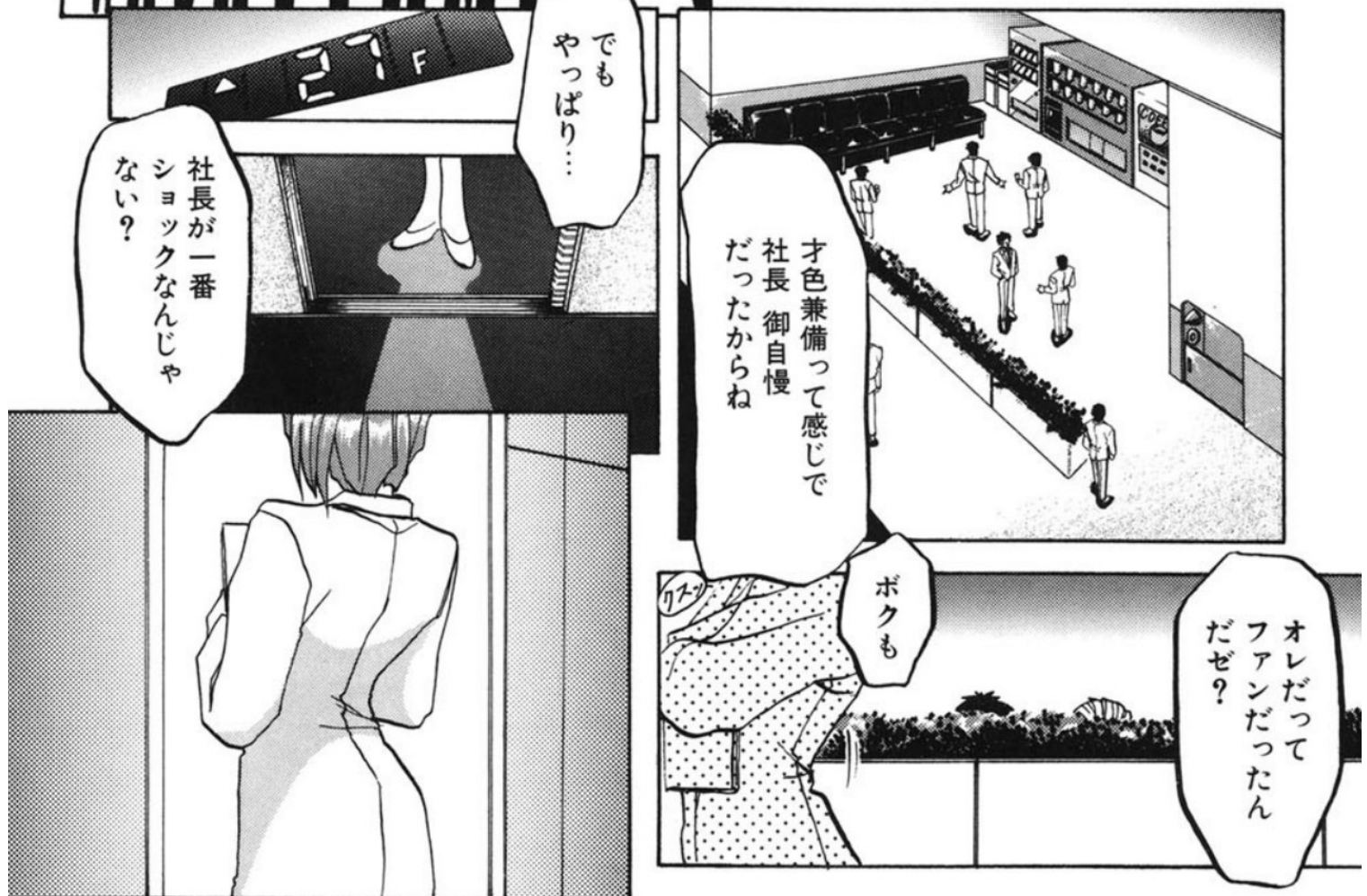
山文京伝

■上記の月号は「漫画ホットミルク」の掲載月号を示します。





WASHIYAMA





第一章「畏」

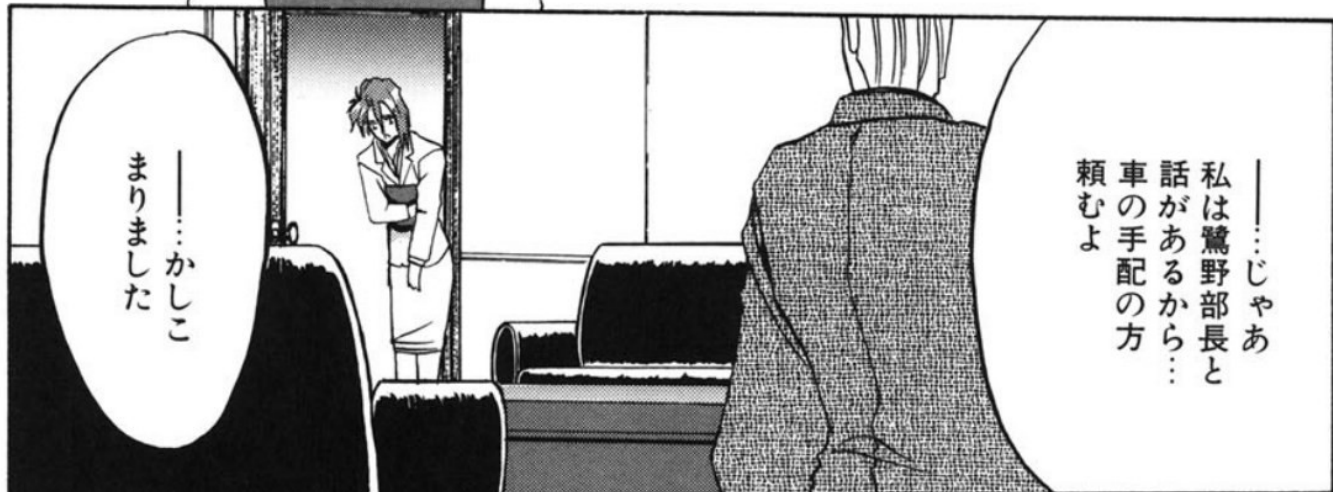
仕方
ないさ

しかしどうかね？
……今からでも
結婚相手を私に
変えてみては…

——しかし
もうじき君を
手離すと思うと
私は寂しいよ……

申し訳
ありません







周囲の嫉みが
イタイよ

—なんて
具合にね



今日も総務の
連中が僕のせいで
君が辞めるってね…

…ホント君の人氣は
知ってたつもり
だったけど…



ごめんなさい…
—…ちよつと
考え事…

今朝
鷺野部長に
会ったのよ…



—…どうしたの
…今日なんだか
暗いね



鷺野部長？
…中東の視察に
行ってた？

ガッ

ええ…
びっくり
したわ…

二年前 鷺野部長の
薬品開発部で発覚した
「用途不明金」事件
それが元になって
部長は仮処分

中東への視察名目での
あの左遷は私が
調査した書類によつて
ですもの……

けっけれどそれは
君の仕事なんだし
作意は無かつたん
だろ？

それは
そうだけど……

まだ気にしている
ようだった？
……部長は……

う……ん……別に
そんな風じゃ……

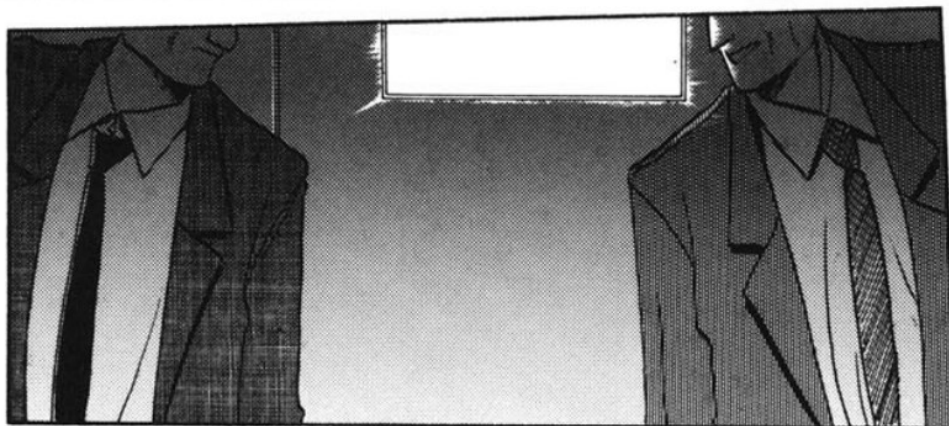
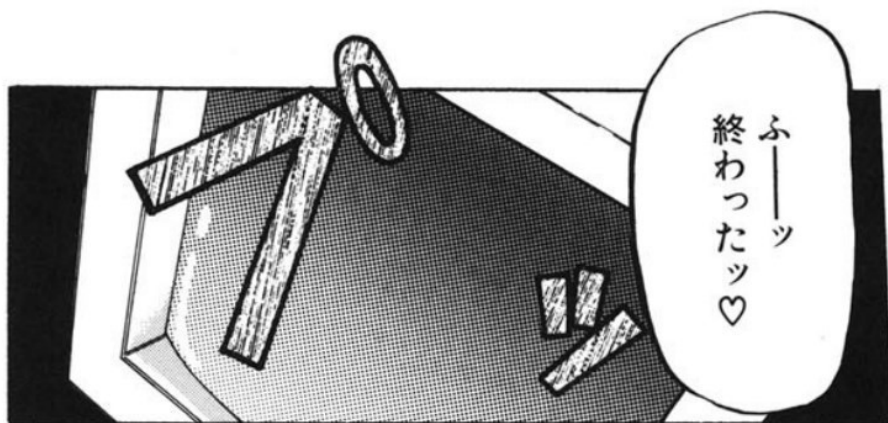
なら構わない
じゃないか
気の回し過ぎだよ

……うん
そう……

そうよねっ

明るく
考えよッ♡

数日後







……気が
ついたかね？



……
やはり社長秘書とも
なると下着も
お上品なモノだな♡



何っ……これ……ッ

あッ……



!!



どういうつもり…？
そうだな……
私から君へのほんの
婚約祝ってヤツさ

私の帰国
祝いも
かねてね…



さっ…鷺野部長…！
いったいどうい
うつもりです…！！



別に思っちゃ
いないよ……

私が泣き寝入り
すると思ったら
大間違いだわッ！！



こッ…こんな事をして
——…これは立派な
犯罪ですよ！？



それに…

後でそんな気が
起こる様な
中途半端なやり方を
する気もないがね



こいつはタイ産の
トボ薬サ
ネンネの生娘でも
一発で発情すると云う
特製だ

一度コレの味を
覚えたらどんな女でも
コレ欲しさに何でもする
メスになる……♡

そう

君みたいなの
貞淑な
レディでもね

そんなに邪険に
しなくとも

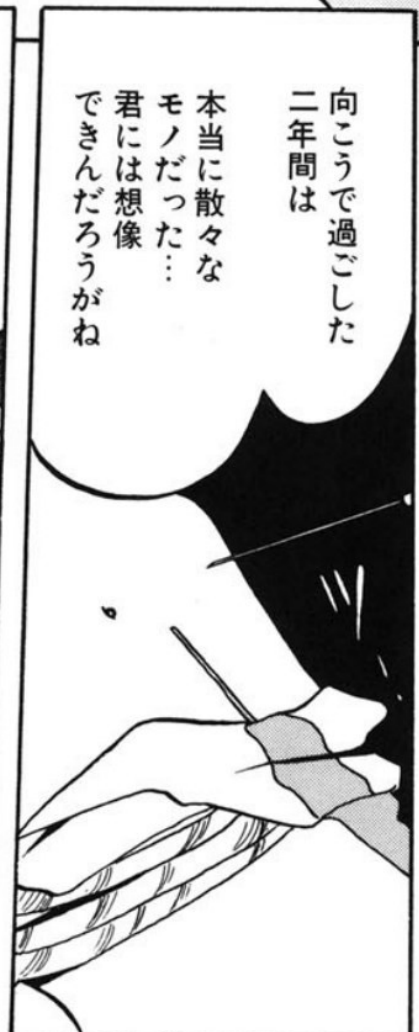
いやあ
お願いッ

あんがい
いいモノだって
思うように
なるぞ？

やッ
許してッ

ククク……
本当に君の
おかげで

苦労させ
られたよ



ひッ…卑怯者…ッ
あなたは…なぜ…
自分がそうなったか
考え…た事…うっ

あちらではもう
日本で通用する
肩書きなど
無い様なものでね

部長だからと云って
デスクワークだけを
させてはくれん

まさに各地を
ドサまわりだよ…
私自身つねづね…

くちゅる

お…おお

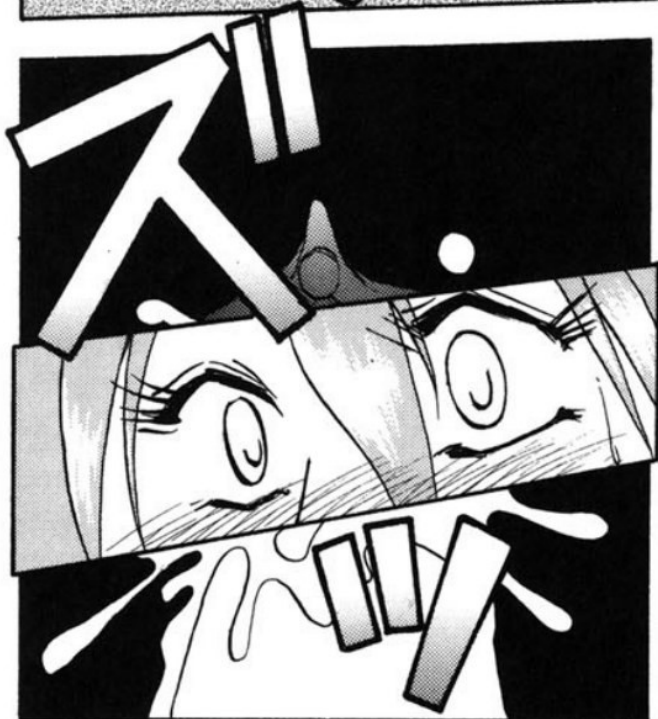
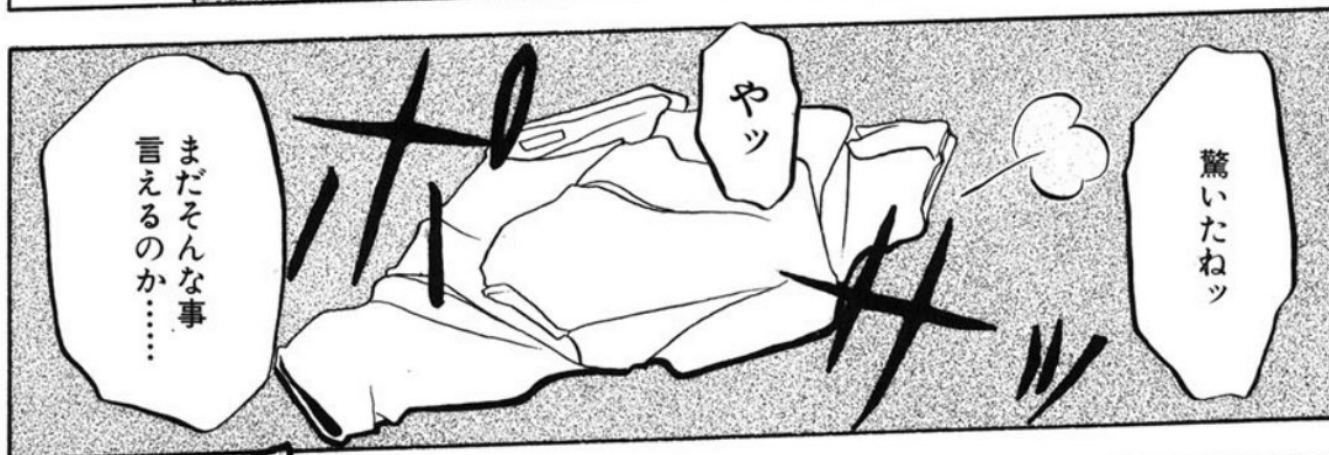
おお…

—…
おやおやッ

聞いている
かね?

ブル
ブル
ブル

カク
カク



へへッ
あ憧れの
白鳥さんの
オマ○コ…

あ…ッ

はう

やッあッ
おお…ッ

あッ…あッ

すっすっげえ
…絡みついてくる
…!!

ダメッ
あッ…

ああん

あんはあん
やああんッ

ひぐッ…
うう…くううッ

すっ…すごい
あの社長秘書の
緋沙子さんが…

こ…こんな
に……♡

ど…どうだッ
へへへ見ろよオレので
グチヨグチヨだぜ！

や
…はあん

ああッ 緋沙子さんが
感じてる…
こんな甘えた声で…♡

あんッ
ああんッ

だ…だめえ
あああ…

ひッ…
緋沙子さん！

うんッ

オ…オレのも
舐めて下さい！！

う…

う…

ド

おッ
あッ



はああ

こんなモノでは
終わらんよ
白鳥クン

安心したまえ
そら大好きなモノだ!

ズ
ズ
ズ

あああ
あああ



違うそうじゃない
お前はただのメス
奴隷だ！

どんな男の
肉棒でも
欲しがり…ッ

快楽に溺れ
自ら腰を振る
淫乱なメス犬だ！

ああはあ
ああ…！



どうだッ
こうされながら
悦んでいるんだ
ろう！？

自分が
欲情しているのが
わかるか！？

そらそらッ
嬉しいんなら
吠いてみろ！

あッ
おおんッ

あいっ…！！
はうッ

あいいいんッ

グンッ

いやらしい腰使いだ…ッ
どこで覚えた
このスベタガッ

吸いついてくるぞ
そんなに嬉しいのか!!
ああん?

はッ

あ もつ

あッ あんッ はッ
もッ もつとおッ
い…ひッ

はッ

ヒッ

もつとお…!!
あああんッ

は

吸いついてくるぞ
そんなに嬉しいのか!!
ああん？

もっとお……!!
あああんッ

はははあッ
これで
どうだッ!!

ふあ あッ

グッ
グッ

あッ
ふああ

イイツ
ちやう

あうすごいいッ
私イツちやうわ♡

はははあッ
これで
どうだッ!!

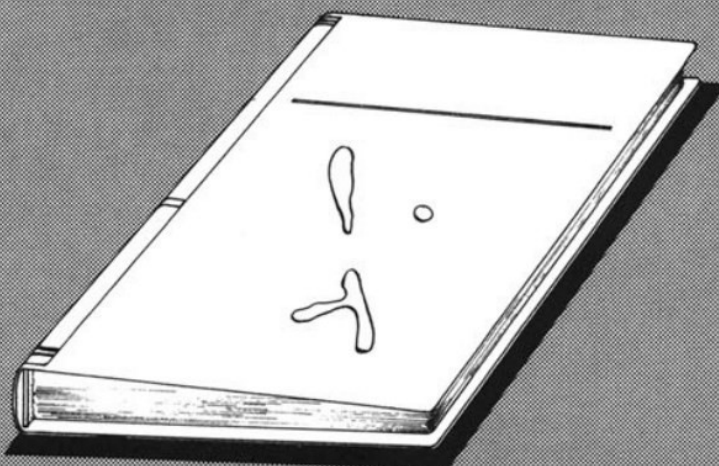
あッ
ふああ

ボム



しかし本当に
大丈夫
なんですか

白鳥さんを…
こんな…して
しまって…



ああ
いいんだ…

まだまだ
こんなもんじゃ
ない……

心配する必要は
何もない……
フフフ…何もな…

これからが
本番サ…♡

第一章 終



あの薬は体内残留
する事こそ無いが
性腺刺激を大きく
催してね…

たった一度でも
一週間は疼きは
抑まりはしないよ…



強い性衝動を
感じるだろう

どうだ？



欲求に正直に
なりたまえ

さあっ



あれはキツカケに
過ぎないさ 今
感じているのは

まぎれもなく
君自身の
性欲だよ



やああ!!

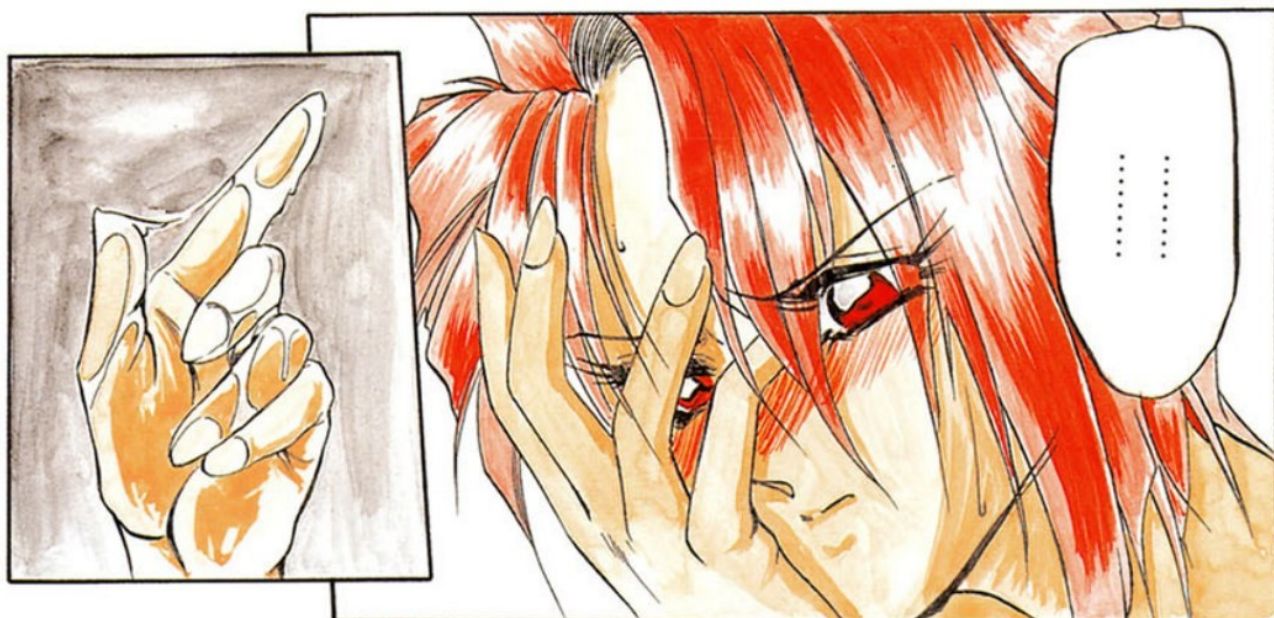
君は犯されて
今また欲情して
いるのだよ!

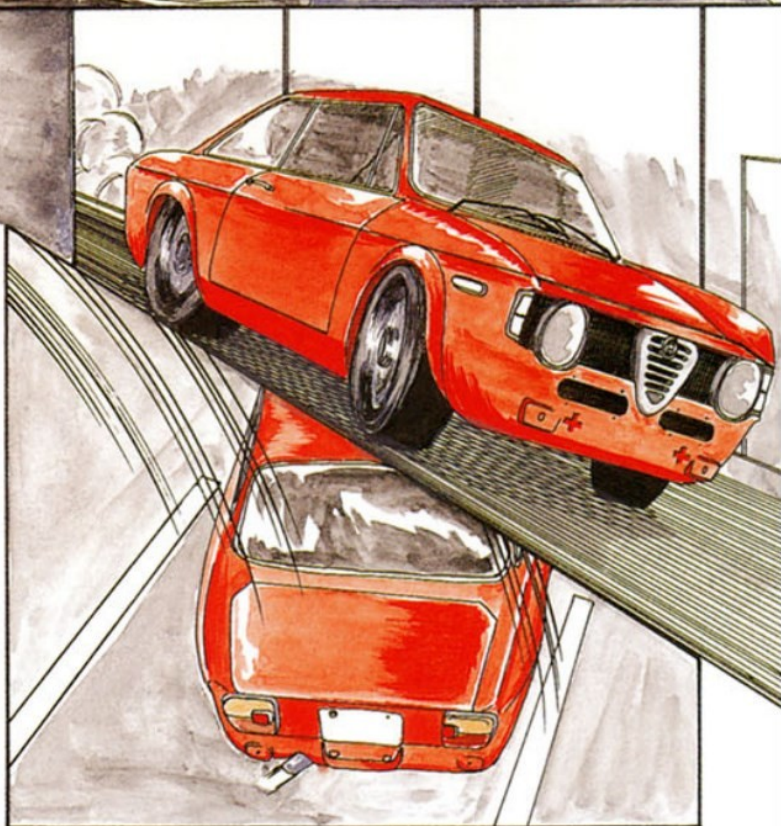
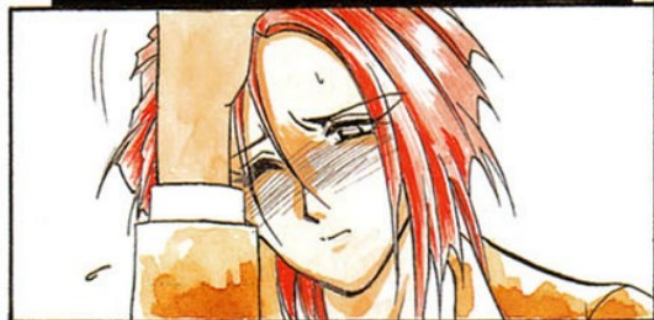
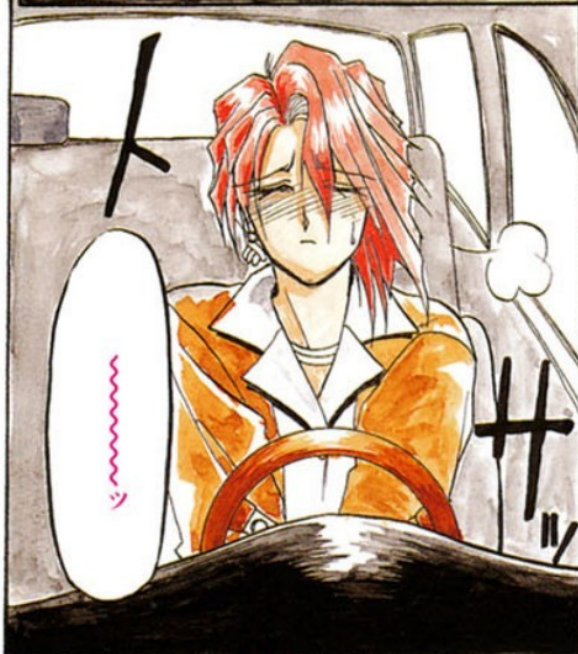
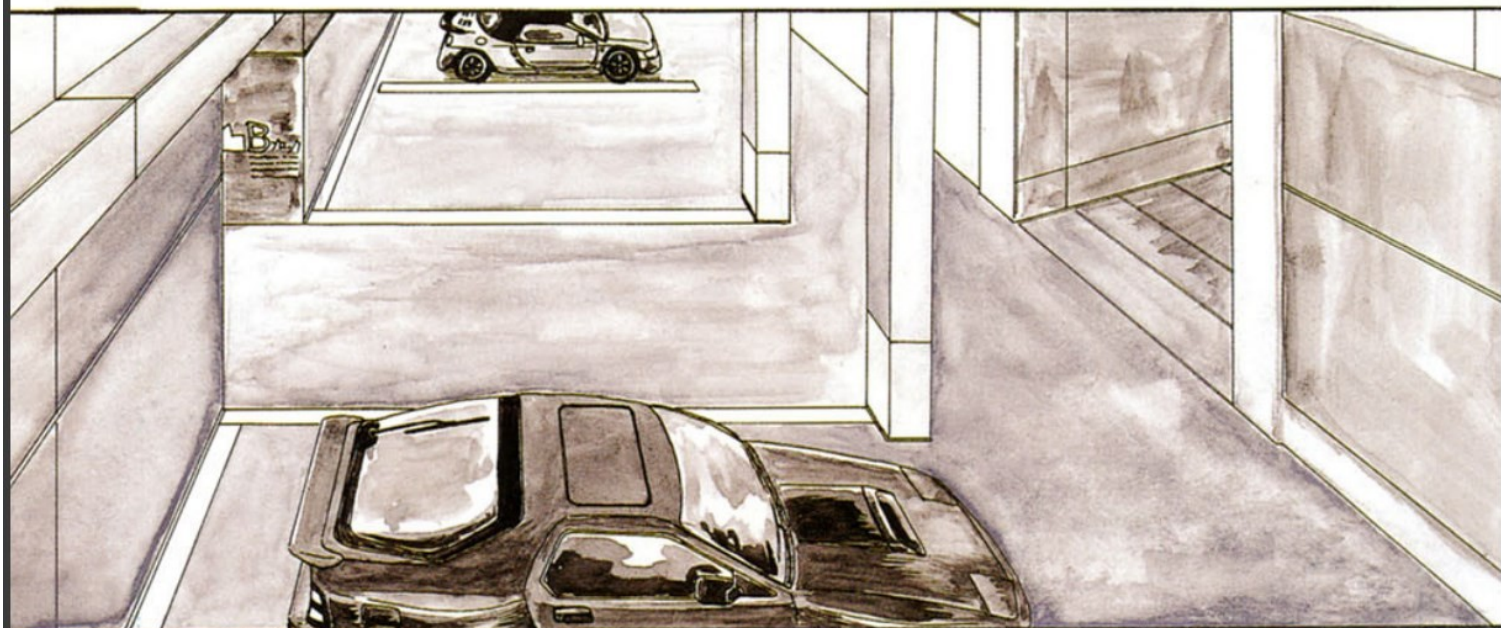


く…
薬で…

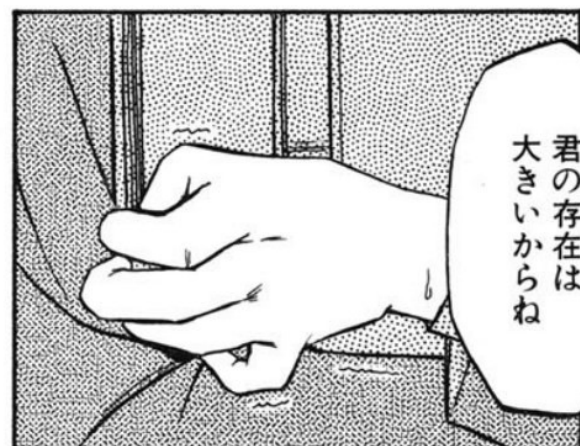
私を淫らにした
くせに…ッ

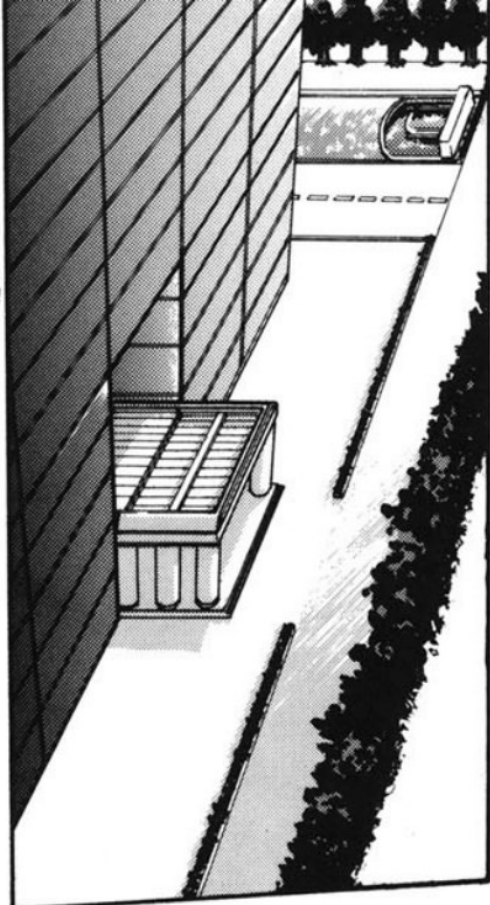
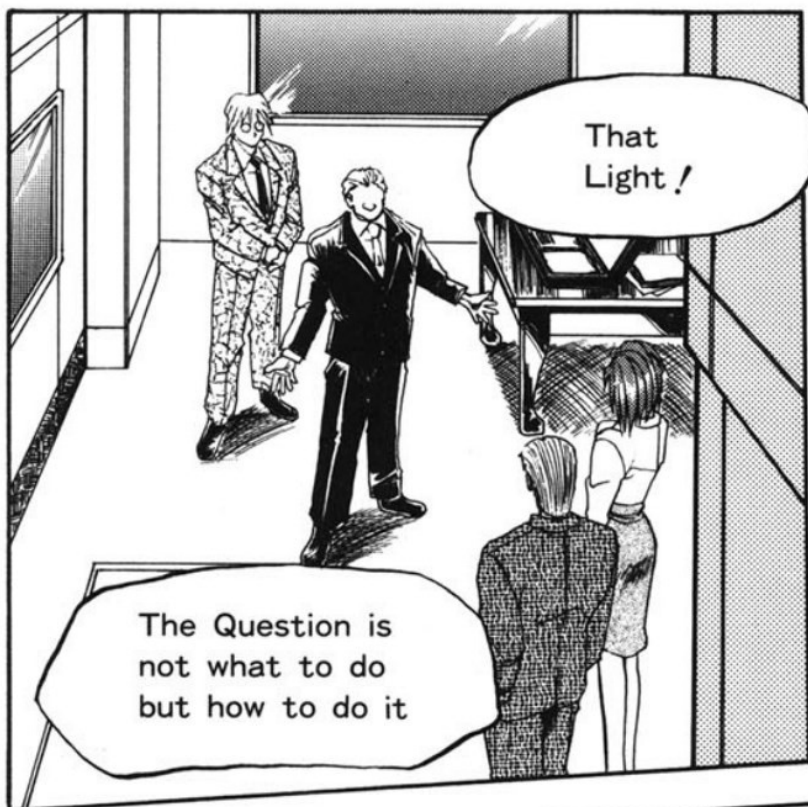
第二章「兆候」

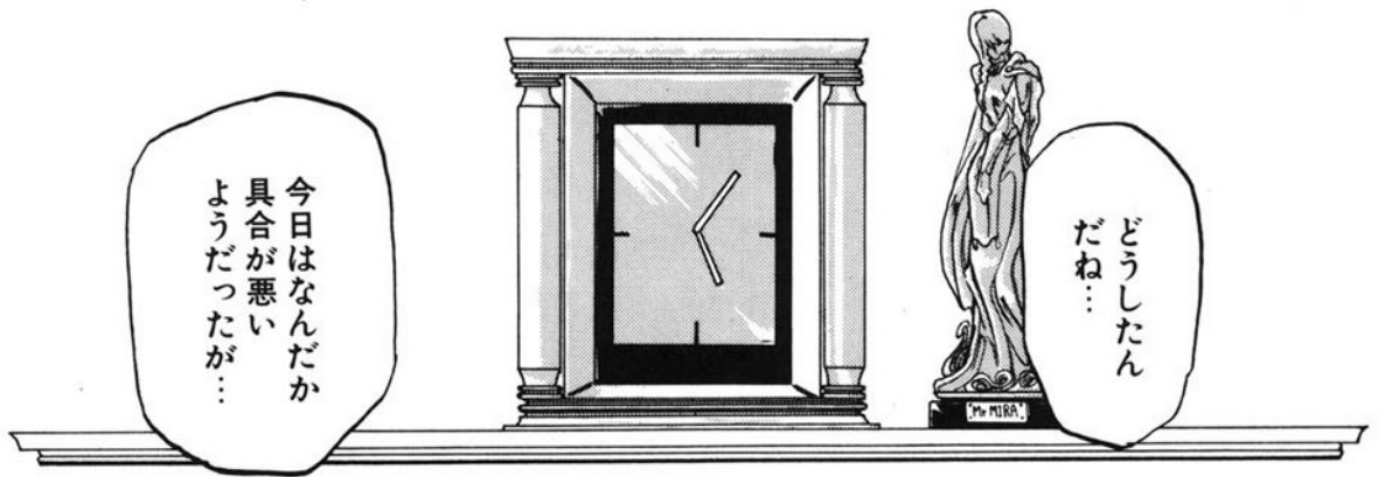


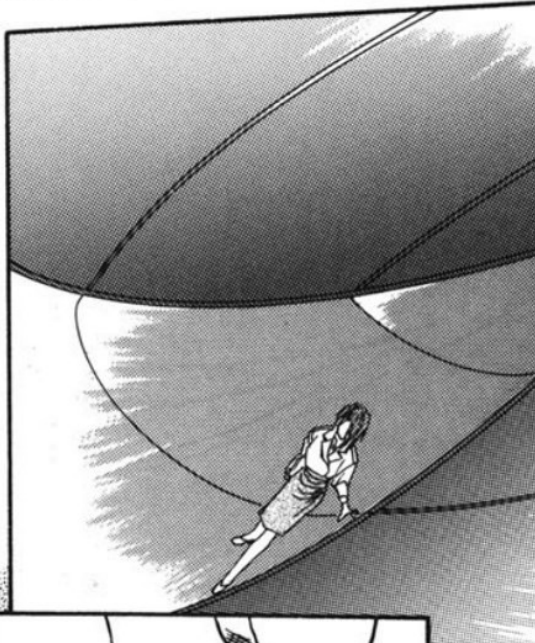


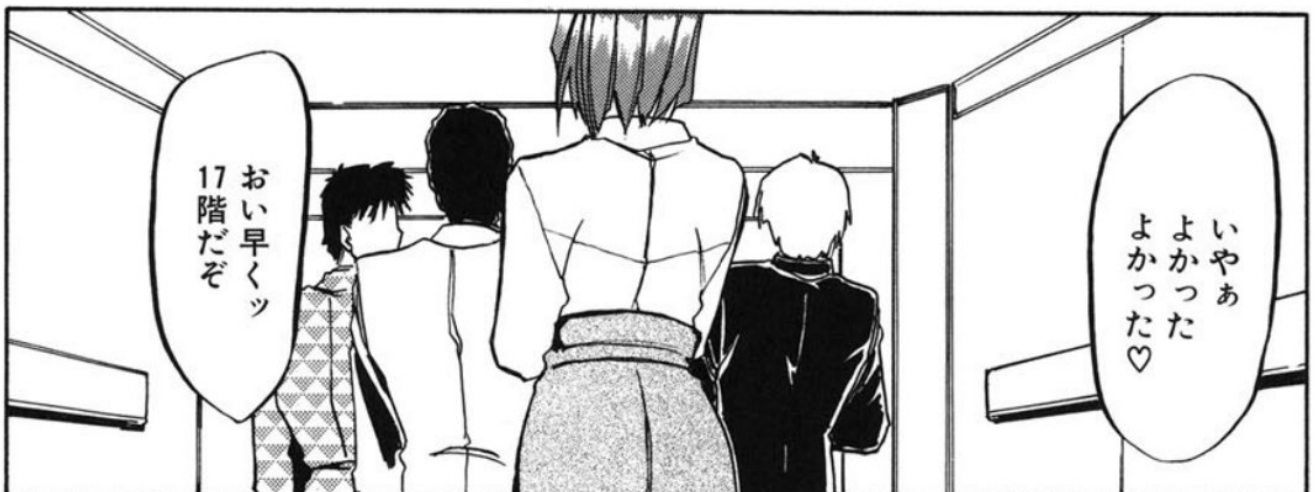
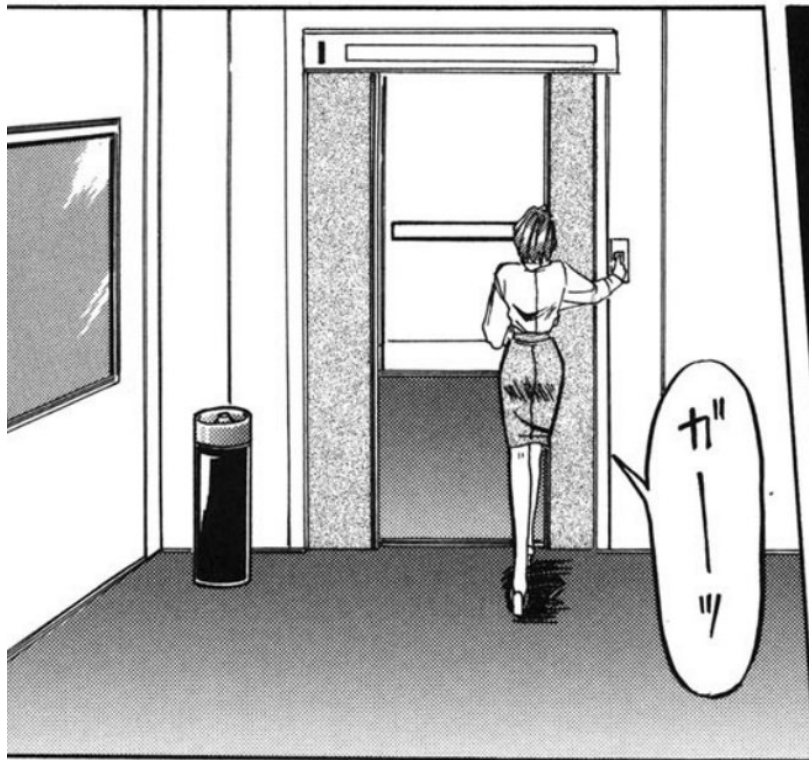






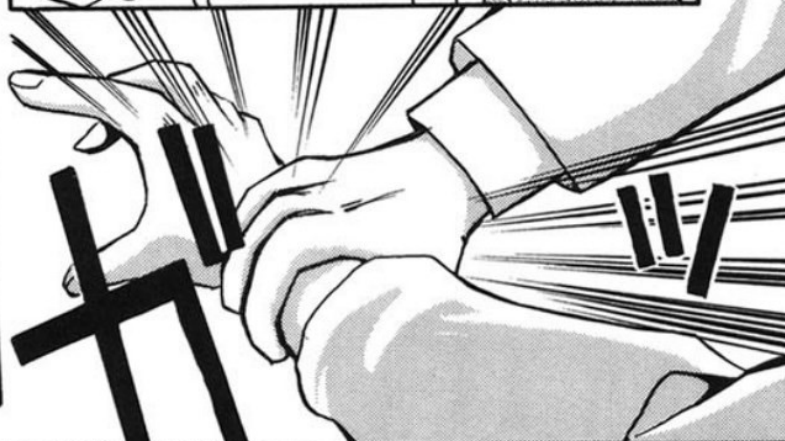














おいすげえ
見ろよこれッ
洪水だぜえ♡

興奮してたの
かよおッハハッ

本当はして
欲しかったんだろ!!

白鳥さんって
本当はすげー
淫乱なんだな♡♡

ち…
ちが…

鷹田との婚約だって
チンポの太さで
選んだんじゃないのか!?

やつ…
やめてッ

いやあッ!!

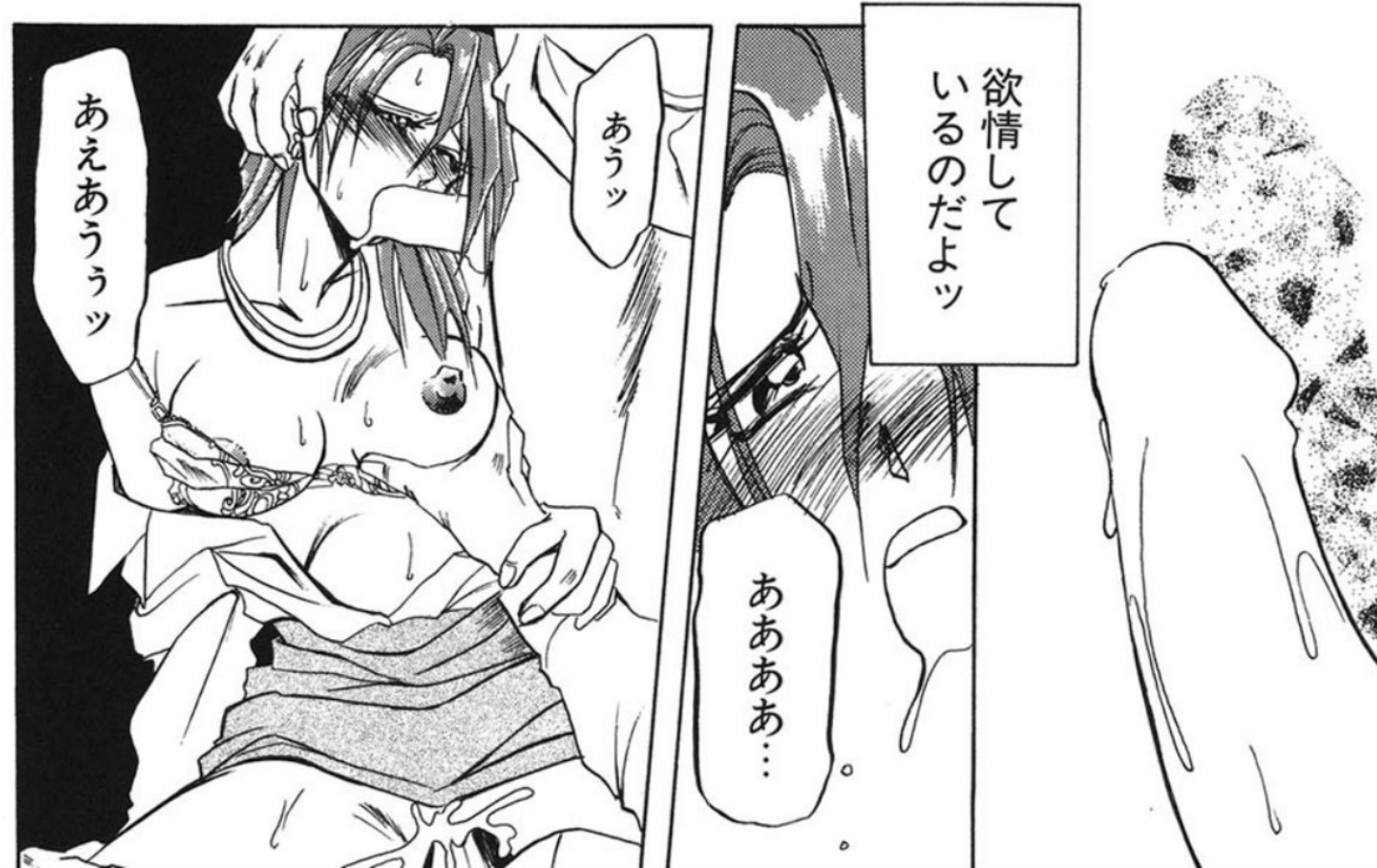
何がイヤだ!

ヤツには嬉んで
股を開くんのだろ!?

こんなに濡らして
強姦願望
あるんだろ♡

いい思いさせて
やるからよッ

やあ!!





はおッ…
おおお…ッ

へへッ
ぬめってるぞッ
こりやいい♡

はうッ



はああんッ

すげー
締めつけたぜッ

あッ
あッ
あッ

うあッ…あ…
すごいッあッ

からみついて
きやがる…!

こんなのッあう
こんなの知らないッ



はひいッ

あひッし…死ぬ
死んじやううッ

ああ
ひああッ

ホラッもつと
奥まで味わいな♡



ダメえ…ッ

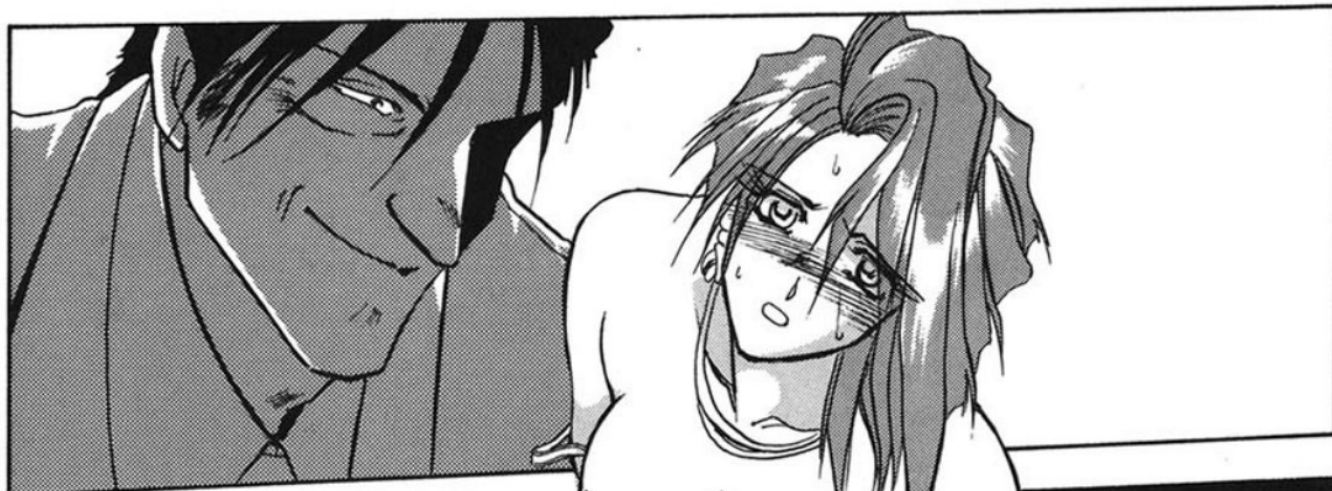




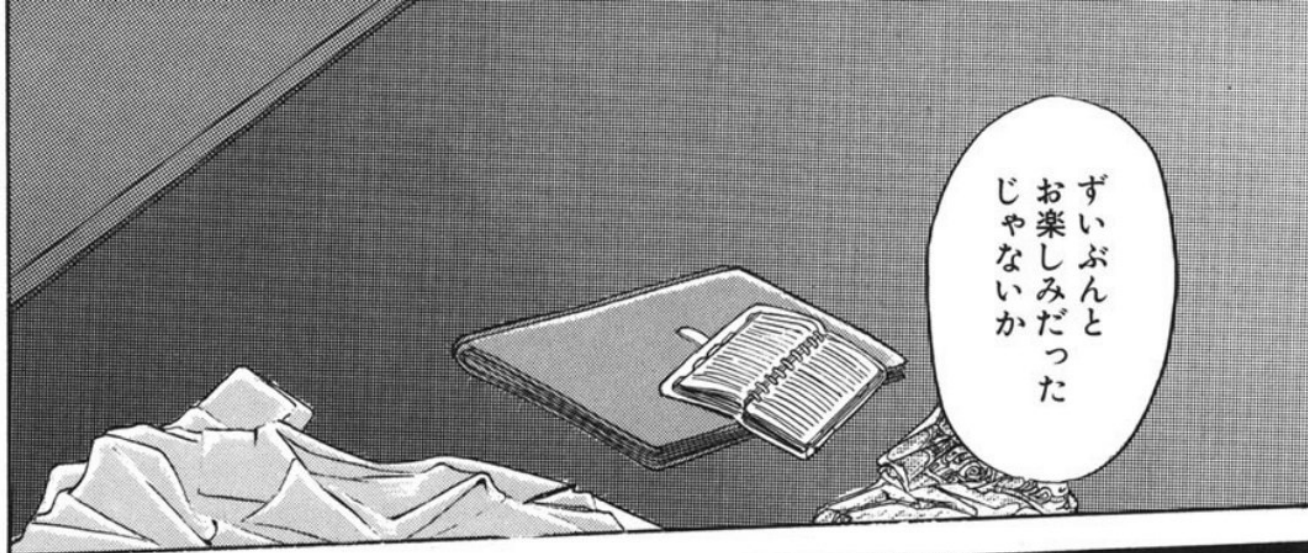
イクツ...

イツ
ちゃううツ!!

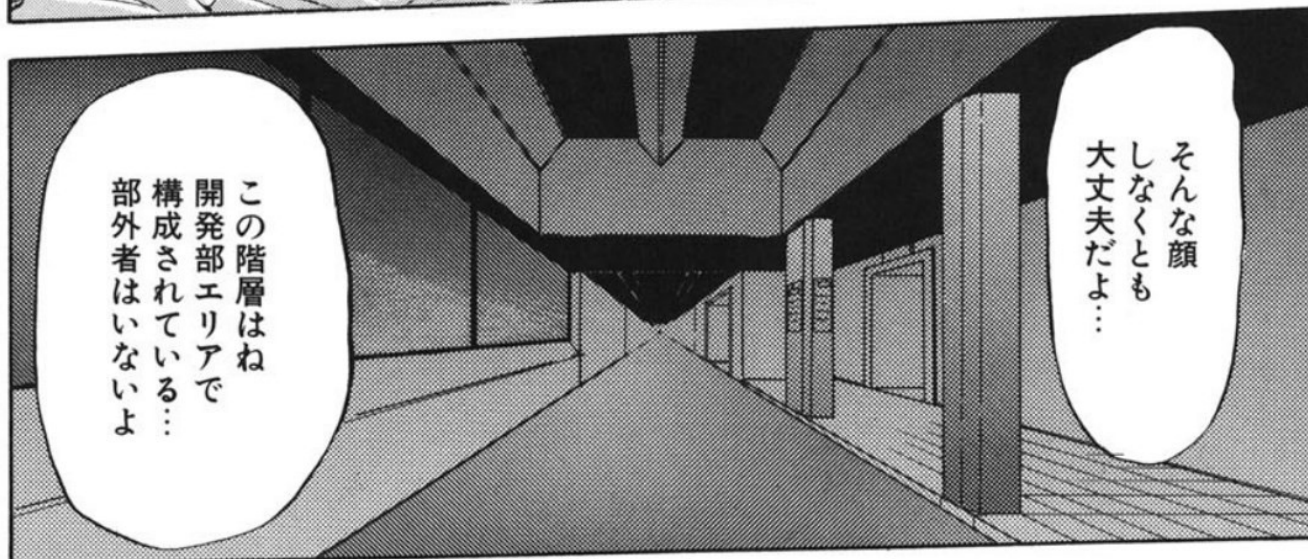
.....



第二章 終



ずいぶんと
お楽しみだった
じゃないか



そんな顔
しなくとも
大丈夫だよ…

この階層はね
開発部エリアで
構成されている…
部外者はいないよ



ククク…それは
君にそのまま
返す言葉だよ…

すべてあなたが
仕組んだ事
だったのね…
あなたには
道徳心と云う物は
存在しないの!!



こうやって
夜の職場を
そんな格好で
いるのも

趣があって
いいだろう



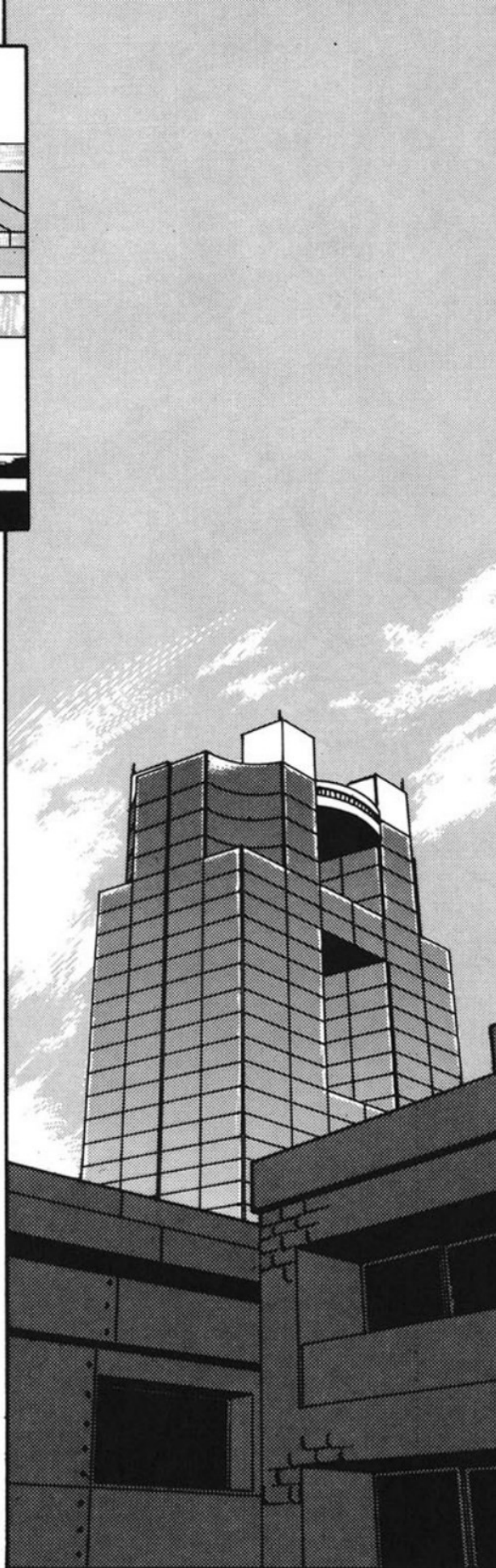
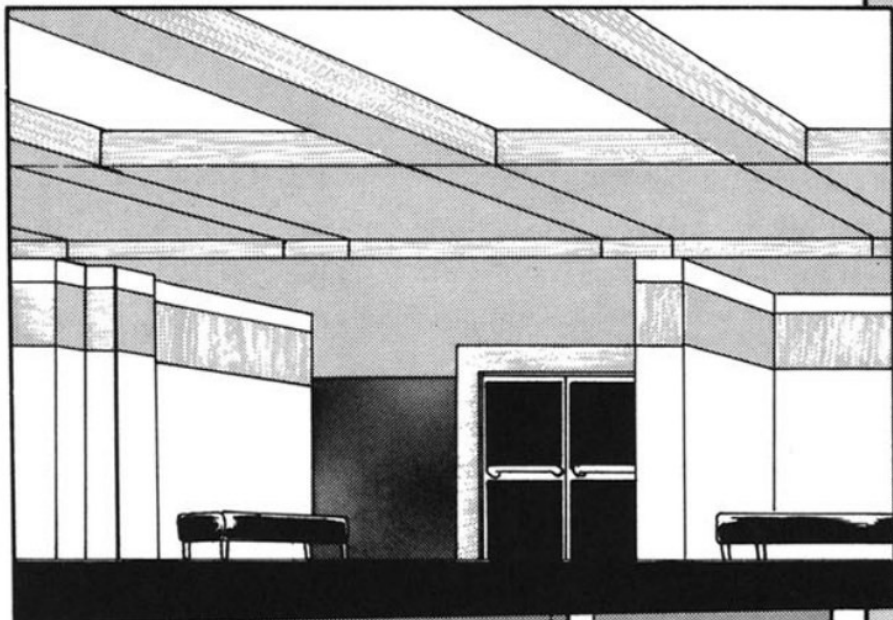
第三章「策謀」













あんなおぞましい事を
されていると云うのに…



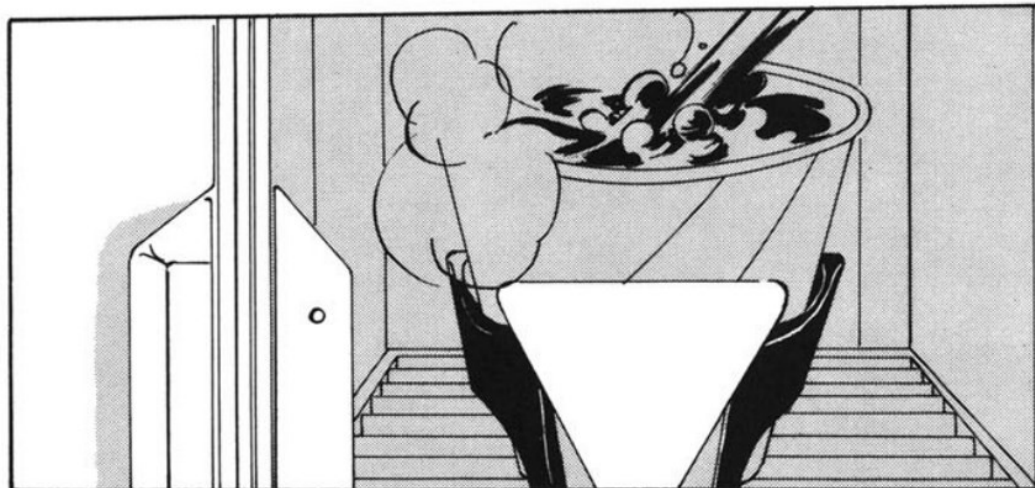
こんな平凡な
日常の中……
あんな事が
くり返されている…



——このままでは本当に
彼等の云う様な女に
なってしまうかも……ッ



その事を思い出す度
私の体に熱い衝動が走る…



それとも
これが本当の
私……?!



鴨川…
主任…

あッ…

どうしたの…
元気ないね…



—…こんな時
気のきいたセリフの
一つも言えれば
いいんだろうけど…



いつもの
君らしくサ

何があつたか
わからないけど
元気出そうよっ



おおっとっ

ガラにもない事
言つてッ…
笑われる前に
退散退散っ!!



ウソでも
元気にしてれば…

自分らしさが
戻ってくると
思うよ♡



そういえば昨日
主任が社長へ
持ちかけた話って…

いえ そう云う事を
言っているのでは
ありません

我が社の製品の
品質の問題です



うちの部署にも
薬品の成分に関して
多少なりとも明るい
者がおりましてっ



先日 販売部に
回された新薬の
成分について
疑問視すべき点が
ございます

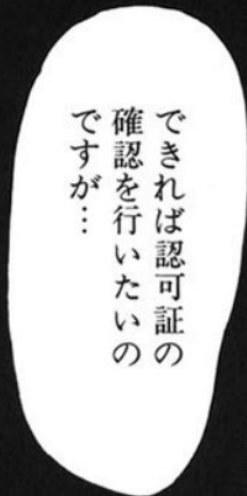


しかしそれは
君の部署が調査する
問題ではないでしょう

それは
そうでしょうか…



できれば認可証の
確認を行いたいの
ですが…



鴨川主任が
問い合わせていた
新薬認可——ッ

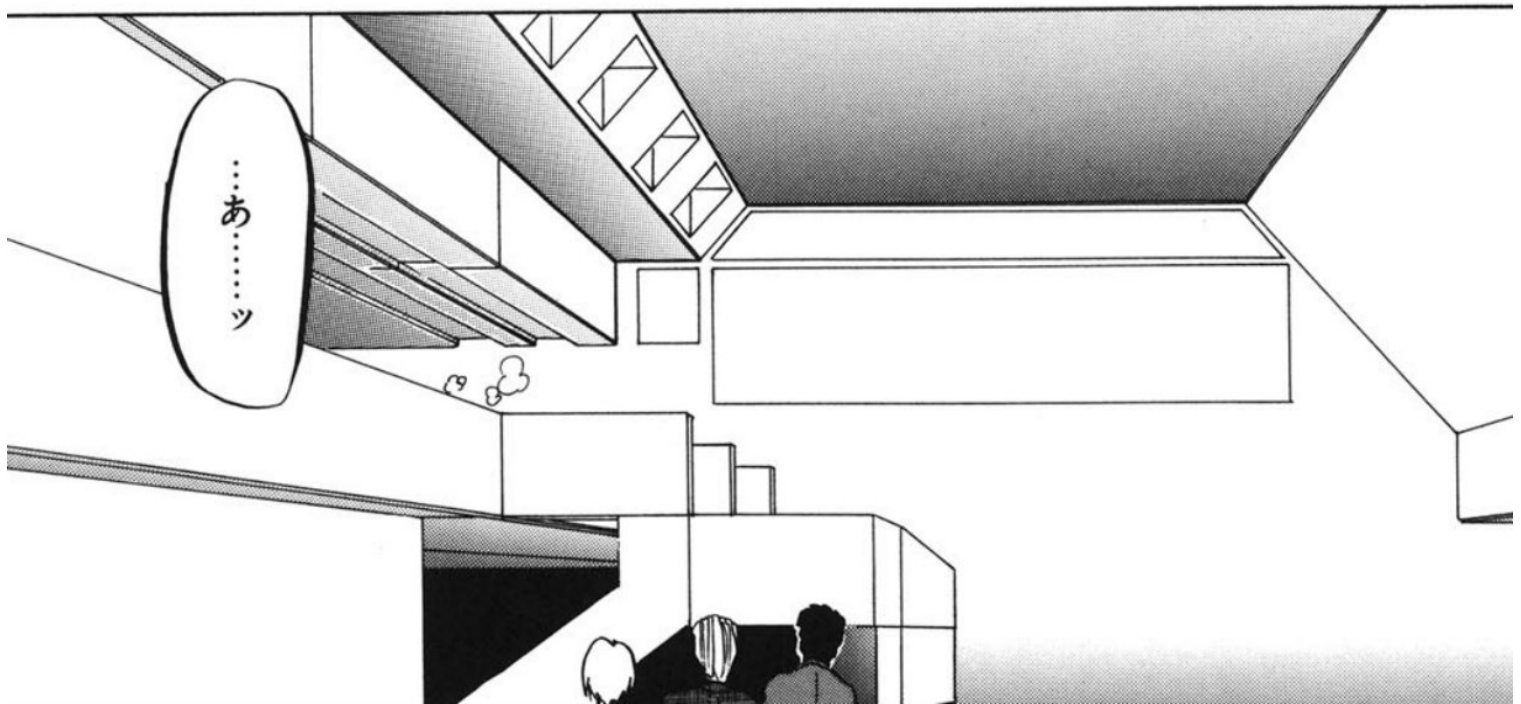
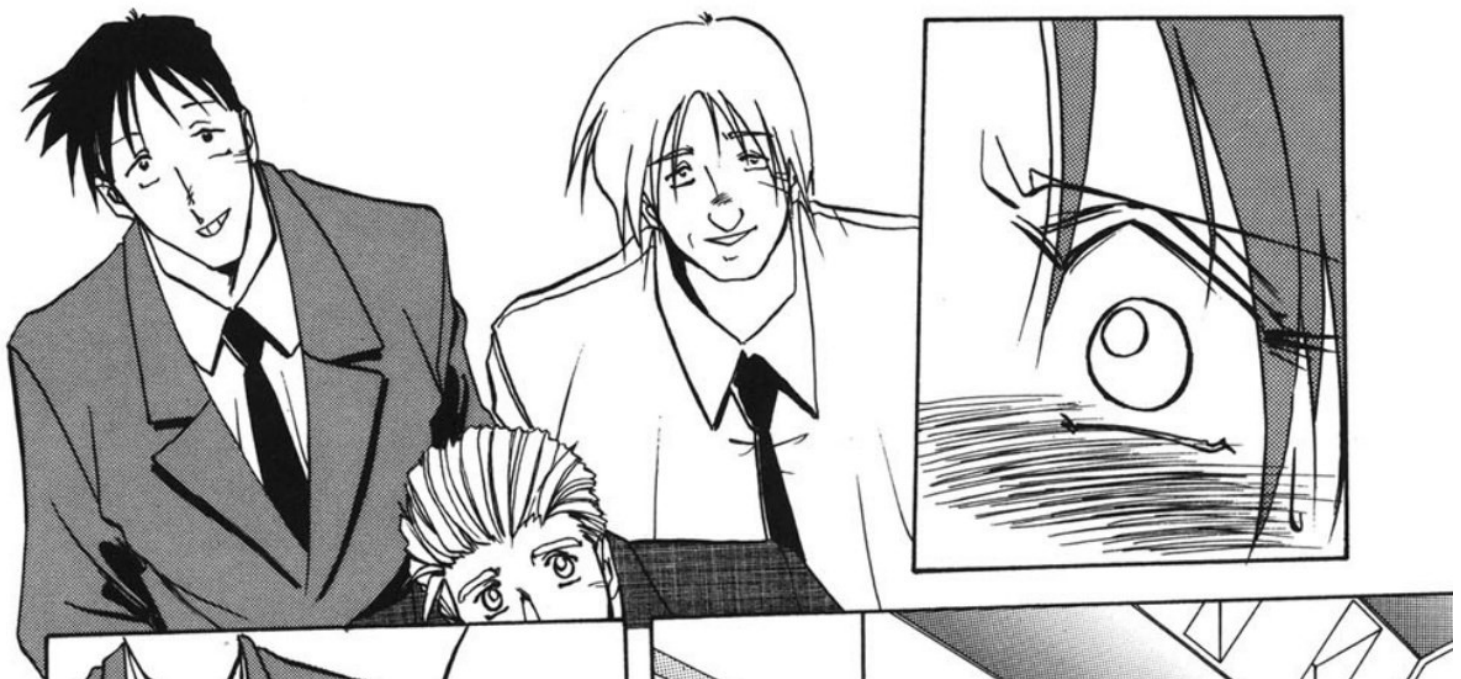
新薬認可には
「臨床実験」のデータが
必要だわ…そして…ッ

そのデータを揃え
厚生省の
認可承諾を
得るのは
「薬品開発部」！

つまり
鷺野部長の
部署だわッ

あッ…緋沙…
…白鳥クン！









鷺野部長が
帰国して来たのが
先月の末
.....

カシヤ
カシヤ
カシヤ



その頃から現在
までの間に
認可申請手続きの
とられた薬品
——ッ

あッ...庶務課ですか？
こちら社長付室
ですが.....!!



厚生省 認可証	
製剤識別コード	
00940703	WT-5000 P117
00940704	WT-7000 P126

この中に何か
問題が出ているの
かも知れない
.....

失礼しまあす
庶務課の者
ですけどお…

呼び出して
ごめんなさいッ

実はコレを
総務の鴨川主任に
届けて欲しいんです

これを…
社長からとお渡し
すればいいんですネ

鵜飼

いいえっ白鳥からと
伝えて下さいっ…
調べて欲しい事柄が
あって…社長にはまだ
お話してないの…

—…失礼
しまあす

お願いします！

あ…ッ
ハイッ
わかりましたあ♡



—…私…
何をやってるの
かしら…



いいえ仕事での
不安材料の
調査だわ…

あてつけ…？



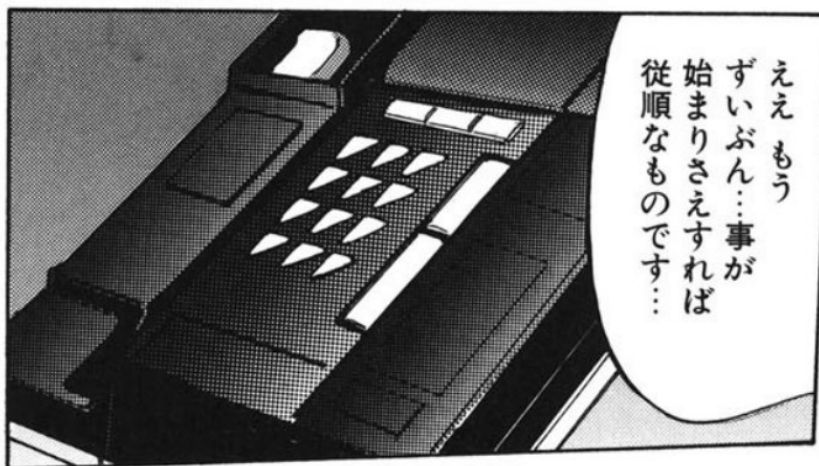
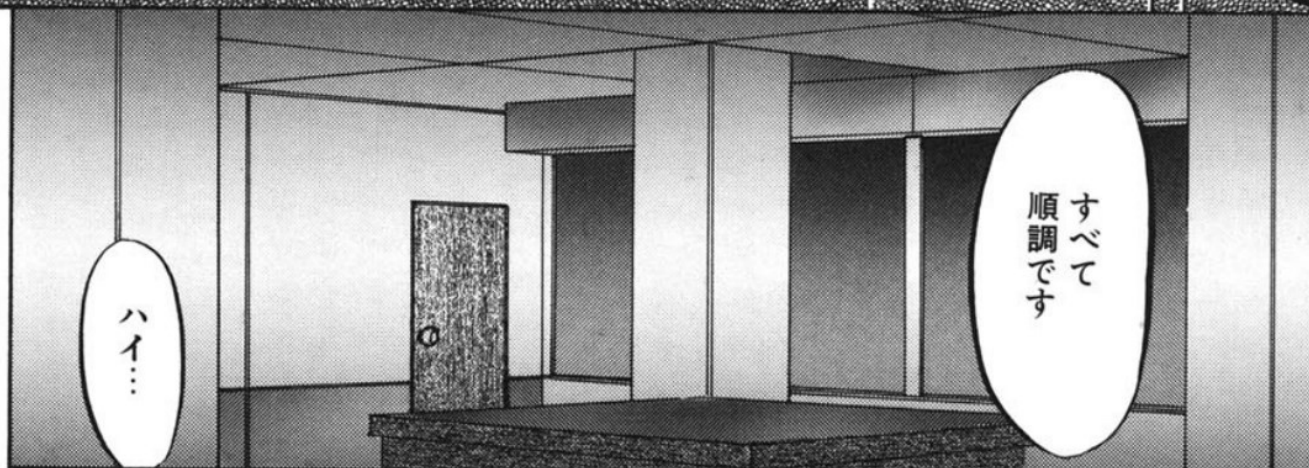
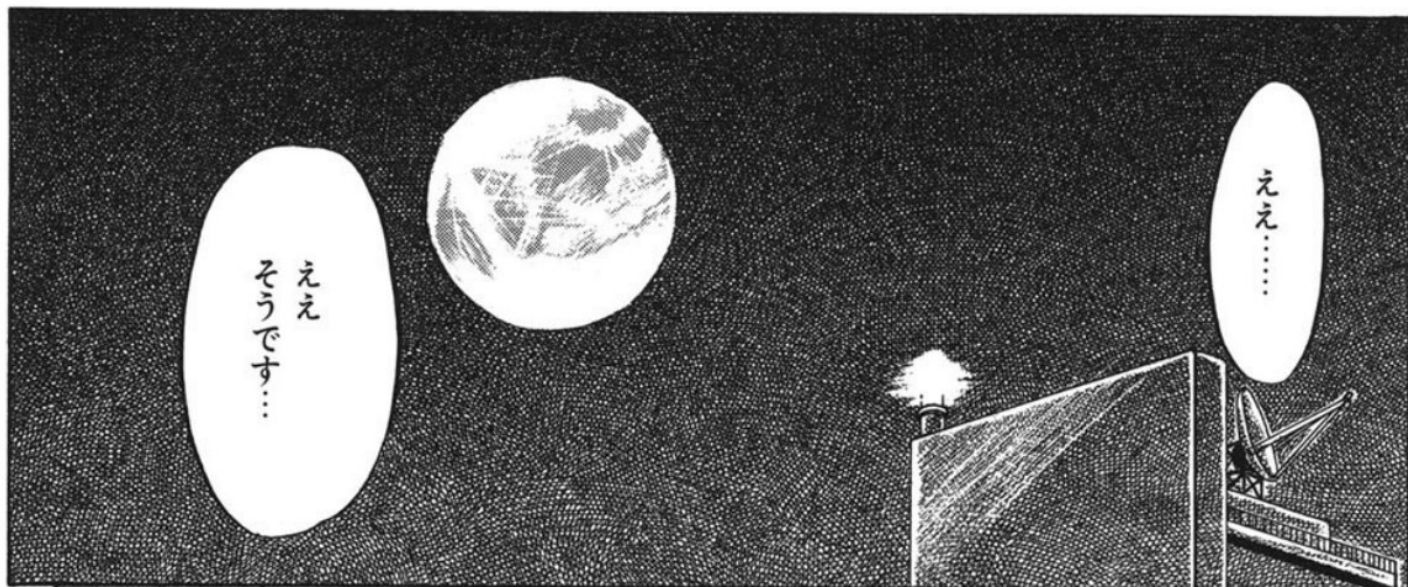
—…私…!!



君のおかげで
ずいぶんと苦労
させられたよ!!



—…個人的な
復讐よっ…これでは
私…ッ





大丈夫だ
そんな事であろうと
考えてな

そうだ…彼女が
単独で資料を洗って
データを調査しようと
していたらしい…

そうだった君の
帰国後の物に
しぼったデータだ
…ああ



ああ
心配いらん…

はッ

はあ



手は打って
あった

はッ

はあ



体をいくら蹂躪
しようとも精神を
堕とさぬかぎり

んんッ

んんん~~~~♡

服従させた事
にはならん…



…それから
調教の方法だが…

コン
コン

精神を破綻させる
つもりでかからんと
彼女は堕ちやせん…

しかし
堕ちる時は
意外にもろい
だろうがな…

おっ…

お願い
しますう…

はッ

あたし…
あたしもうッ

辛抱のない
娘だ…

そらっ…いつもの様に
してみろ!!

あ…あッあたし
あたしはあなた様の
…うッ

くちゅる!

忠実な
下僕ですう…♡
どっとうか…ッ

どうか早く…
オマ○コの中に
ペ○スを入れて

あたしを
悦ばせて
下さい…♡



しょうのないヤツだ！
主人に自分を
悦ばせろとは！！

はあうん♡
ごっ…ごめんなさいッ
ごめんなさいッ



どこがいいんだ！
言ってみろ！

おっ…オ○ンコッ
あたしのいやらしい
オマ○コお♡♡

はああ~~~~♡
気持ちいい~~~~♡



じきに彼女も
こうなるのだ！
そうすぐにッ！！

はあ！

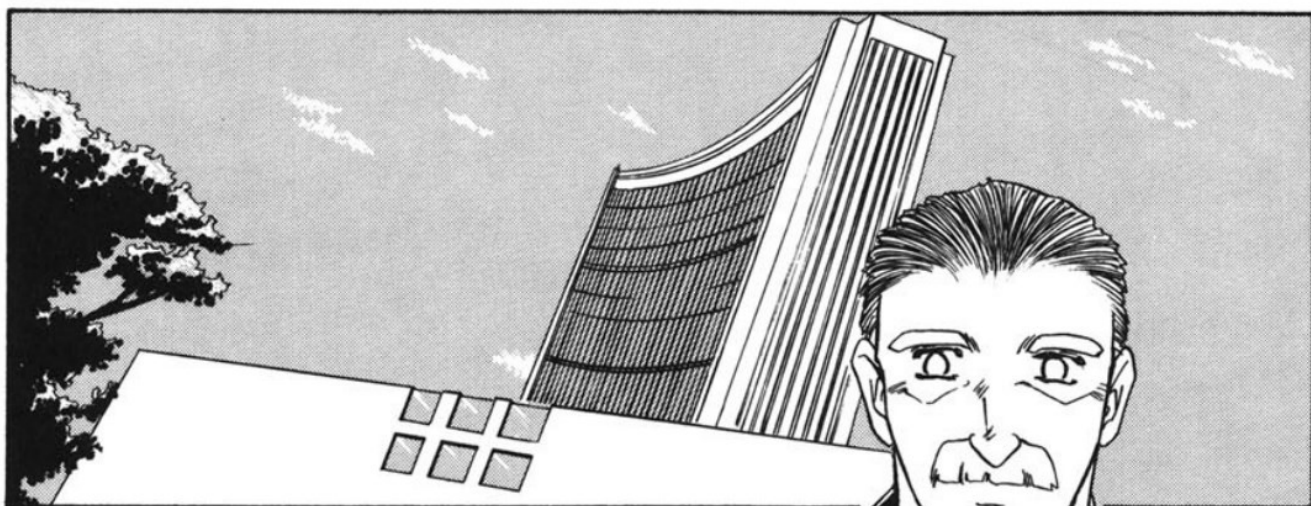
あッイク…
もうイキ
ますう…♡

あッ

社長お〜ッ



第三章 終



第四章「恋慕」



どうしたんだ鷺山
元気がないな…

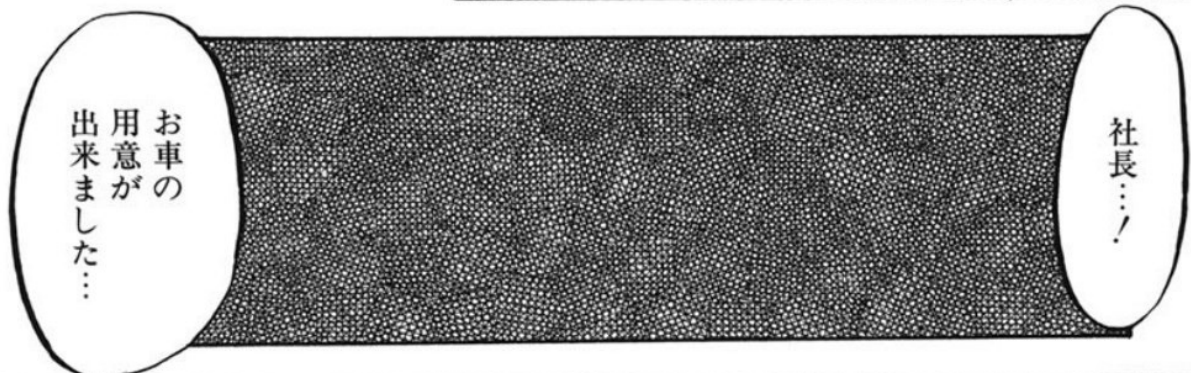
自慢の白鳥クン
今年のパーティーには
欠席だそうじゃないか
…残念だよ

去年の艶姿を
期待して
いたのに……





…去年…



お車の
用意が
出来ました…

社長…!



えっ…

はいっ
…一応…

でも私は
このままで…



ああ…
ん?

白鳥クン…
君

ドレスは持って
来たんでしょう?



たまには
いいじゃないか
堅苦しい印象を
受けてしまうよ…

着替えて
きなさい

はあ…



すみません
...少し手間取って
しまってます!!

あ...

いや...

ー...やっぱり...

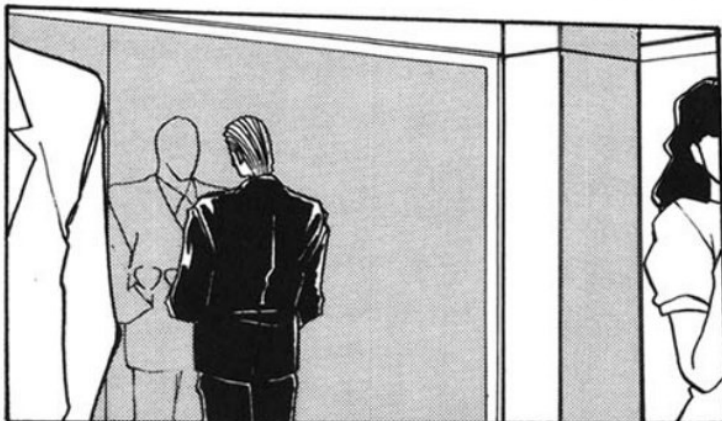
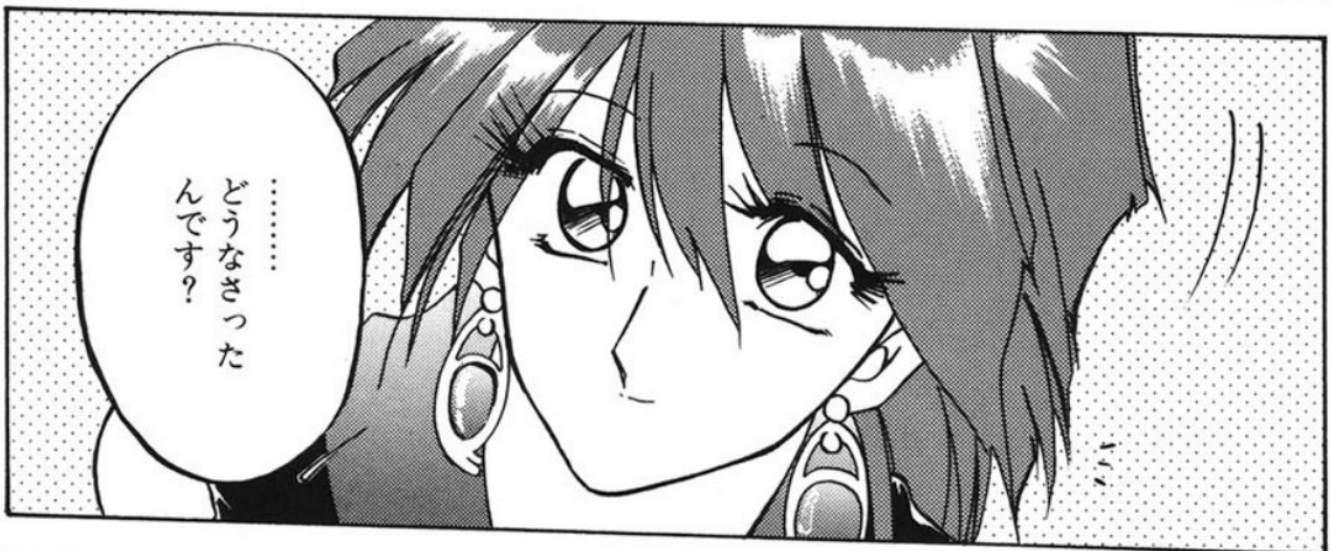
可笑しい
でしょうか...

いつ...いや!

あッ...

あッ

大変ッ!



社長——ッ
私……

総務の鷹田さんと
結婚しようと思うんです…



はあッ

はあ…

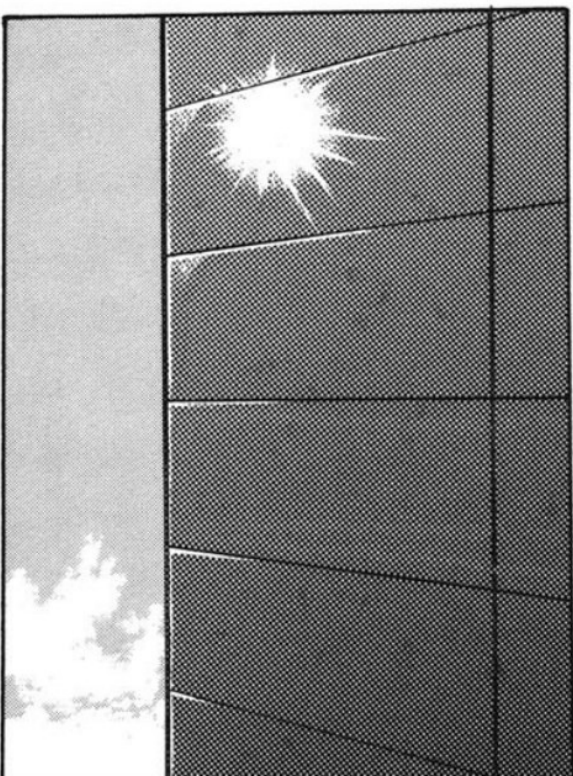
社長付室

はあ…

はあ

はあッ

はあ…





——君は相手が
どんな男だろうと
反応するんだな♡



君は犯されて
欲情しているのだッ



こうされながら
悦んでいるんだろ？

ああそうっ
そうなのッ
私…ああッ



男根は大好き
みてーだな

そうよ好きッ
好きよッ



私を虐めてッ
私をなじって…！

もっとな
もっとな
もっとな



しゃぶりついてる
ぜ！

まるでアホウの
ようなツラだ！

はあ

はあん

あ…

はッ

あッ

感じて
やがる！



犯して!!



私を
めちやくちや
に――



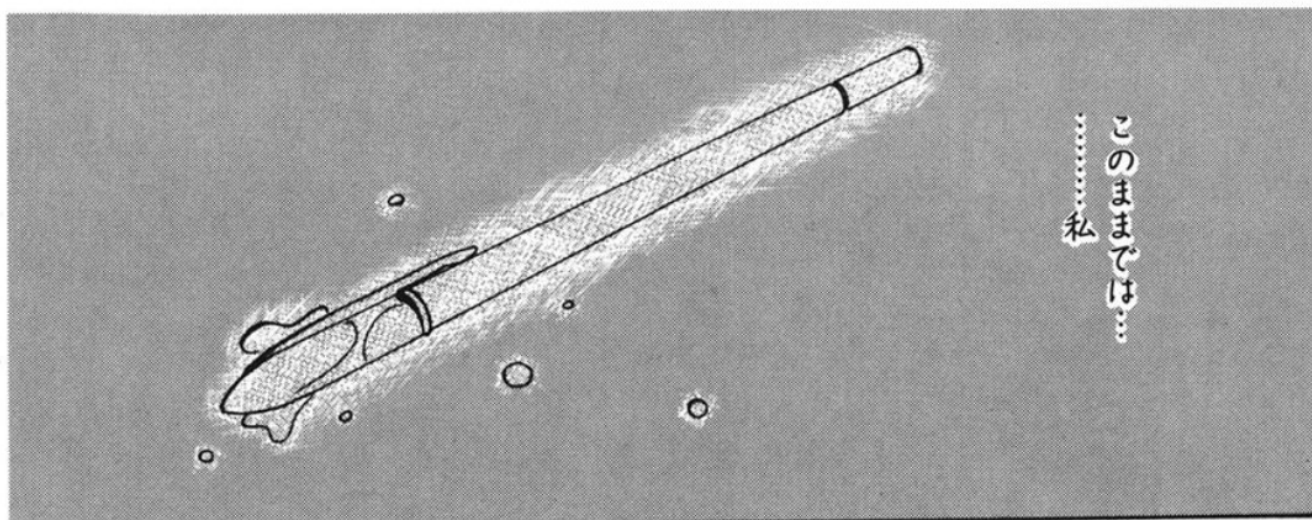
あはッ
あ…ッ

はあ

はあ

はあ

はあ



このままでは……
私



パーティーは
いかがでした？

あッ… おっ…
おかえりなさい
ませ…ッ……



そうですか…

そっ…



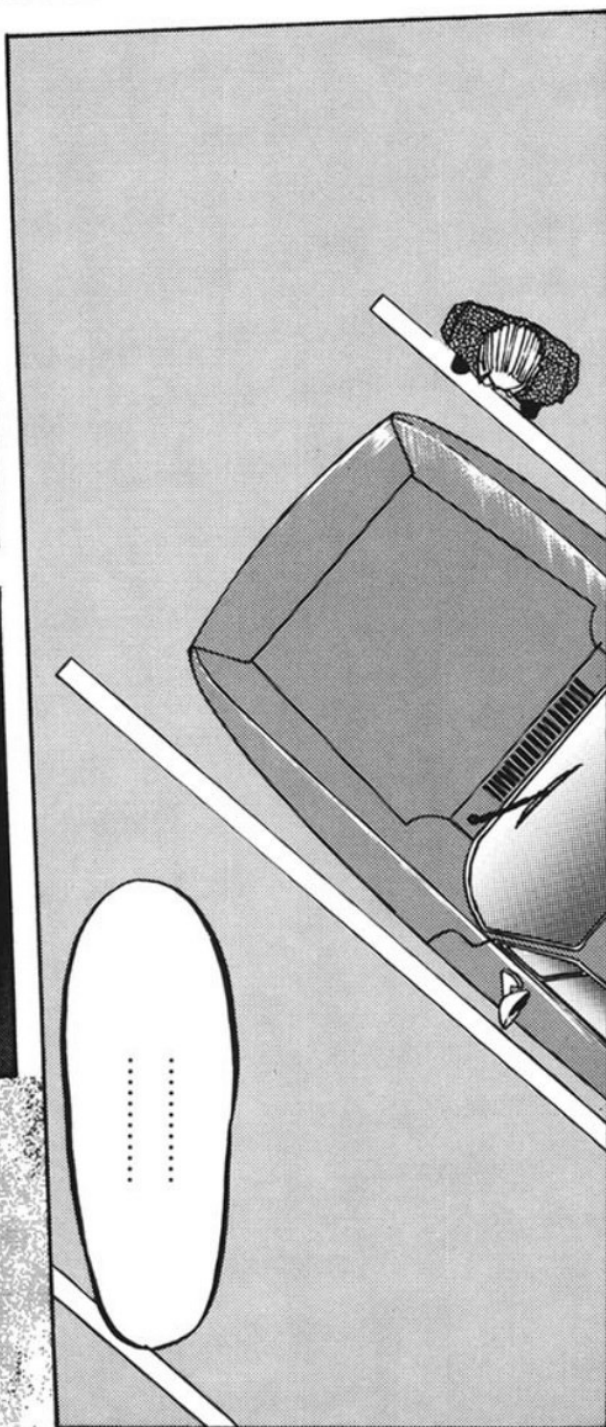
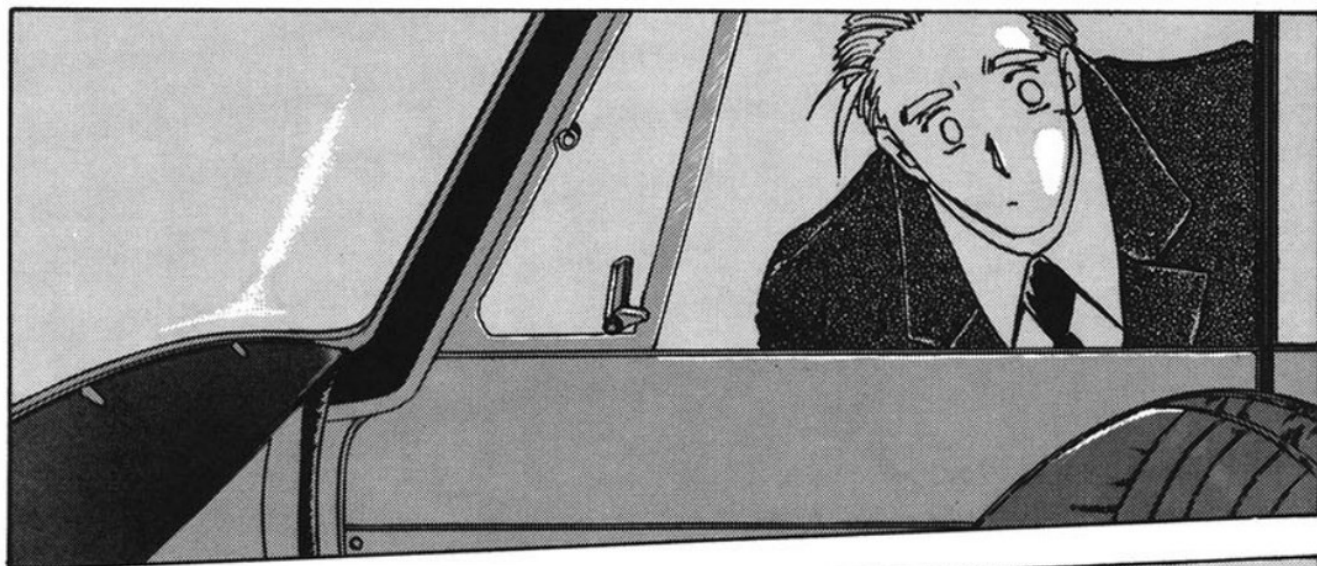
まずまずと
云った所だね

今年は君が
居ないのかと
嘆いていた輩が
多かったよ



……





白鳥さんなら
もうお帰りに
なりましたよっ

えっ……だって
まだ車が
あるし……

今日は気分が
悪いからって
徒歩でしたケド

そっか……
……まいった

ところで……ッ
鷹田サン……
今お時間

あいてますう!?

……えっ?

ああ
まあ

大丈夫
だけど……
なんで?

きや——ッ
良かったあ♡

実は見て欲しい
ものがあるんです♡

……！

見せたいものって
…あの…
こんな所で…ッ

人なんてほとんど
来ないんですヨ♡
ここ……

…鷹田サンが
結婚する事は
知ってる
つもりです

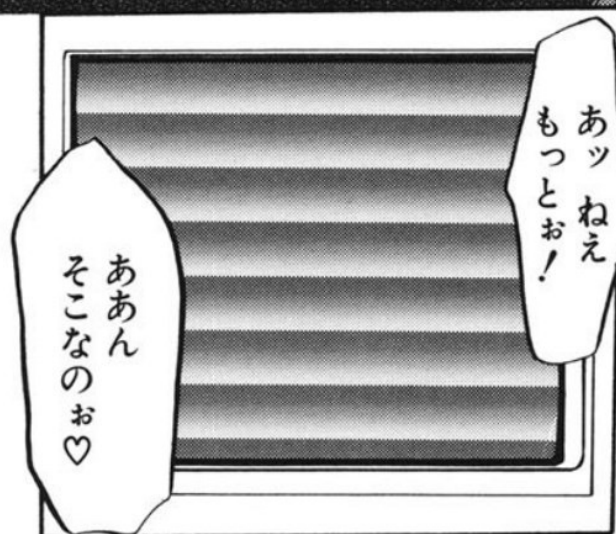
でも…でも
今日は…今
だけでもいい…

……ッ

…だから
大好きな鷹田サンと
来たかったんです♡

あなたの
女にして
下さい♡





ああん
そこなのお♡

あッねえ
もっとお!



感じるう!

あッ...あッ
いい...ッ

もっとなもっとな
深くついてえ♡

君に知らせる
べきか迷ったの
だがね...

いつもこの時間なのだ
二人がこうして
荷物室で会って
いるのは...



あうん!
あん あんッ
ハメてッ



ああん
ささるの!



もつと
ハメてえ♡

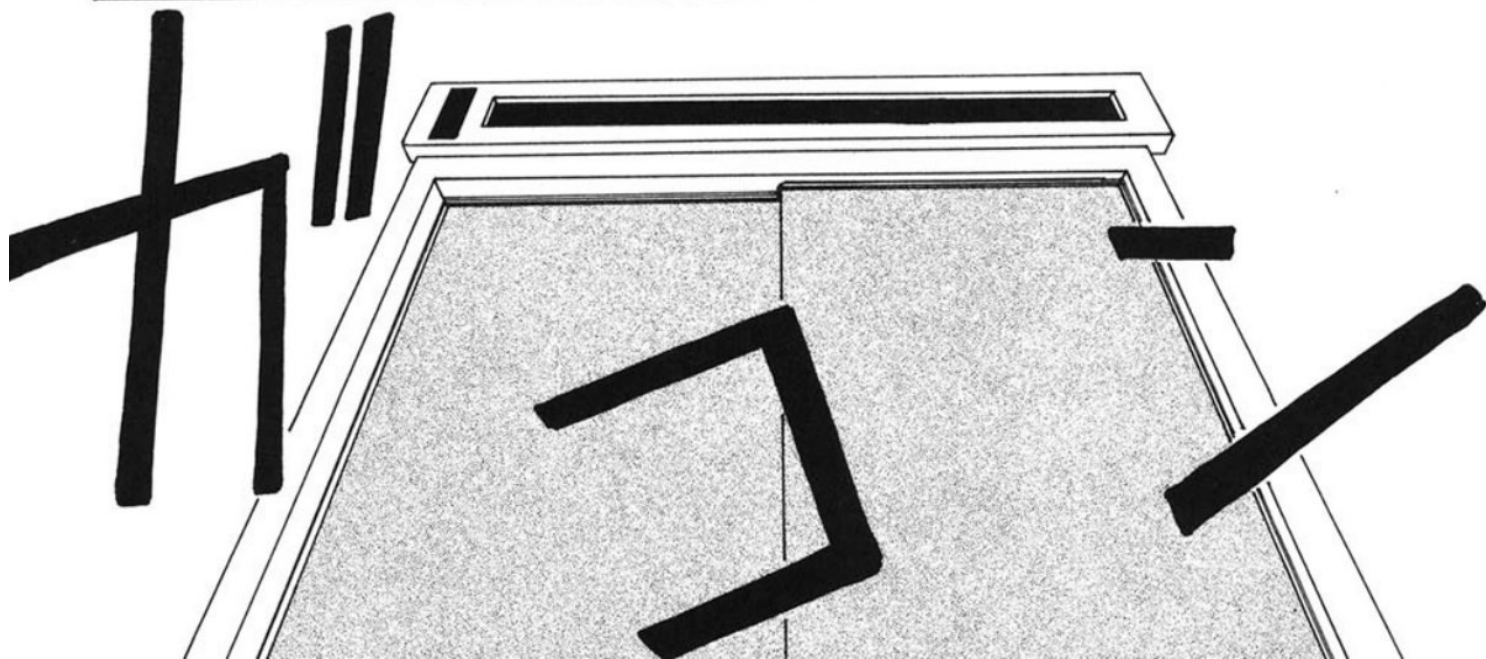


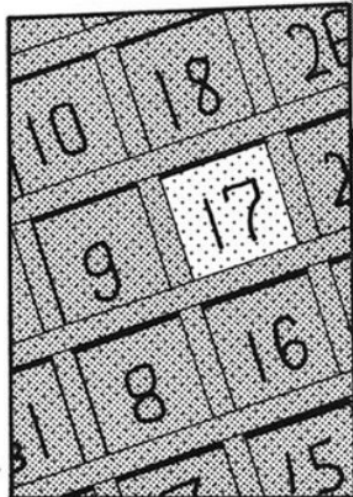
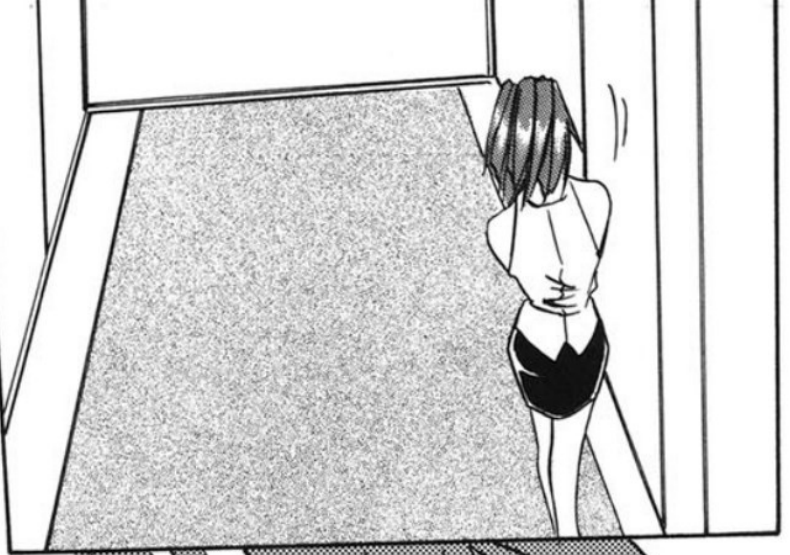
ぐちよぐちよ
してえッ

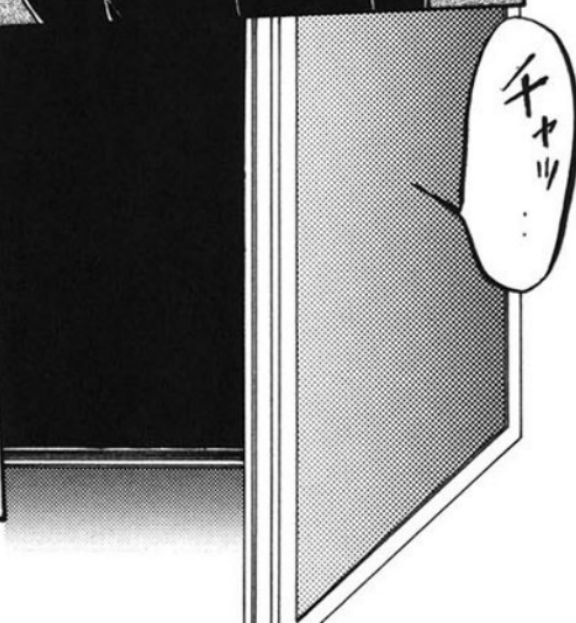
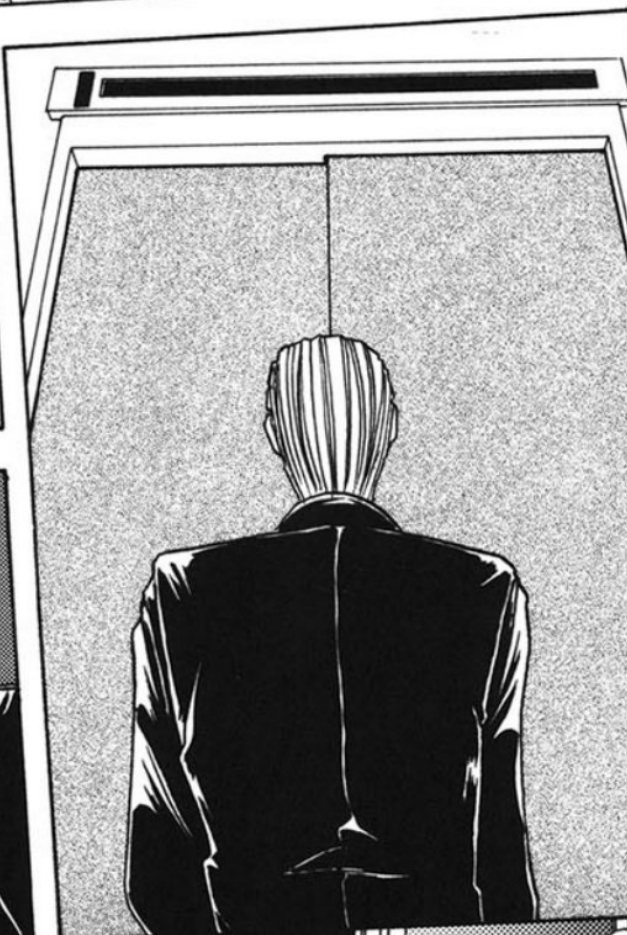
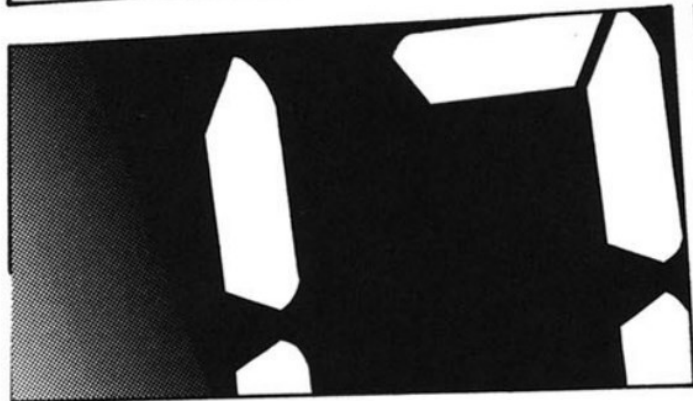
あん
おっきい♡

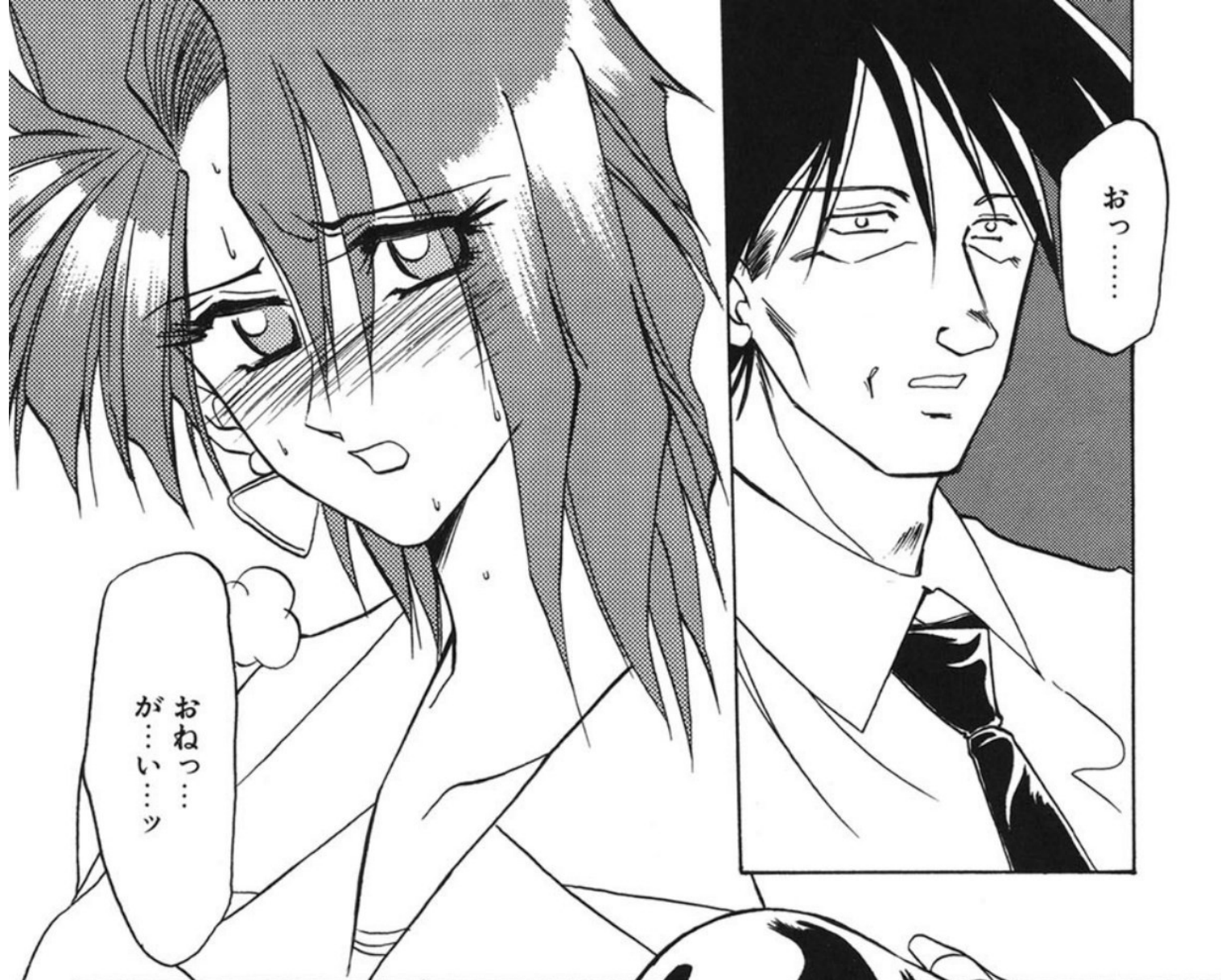
おお…ッ











私も元気な君に
背中を押して
もらわんと調子
が出ないしね♡

ウソでも元気に
していれば…自分
らしさが戻ってくる
と思うよ♡

どうしたの？
今日は元気
ないね…

はあ…

はあ

はあ…

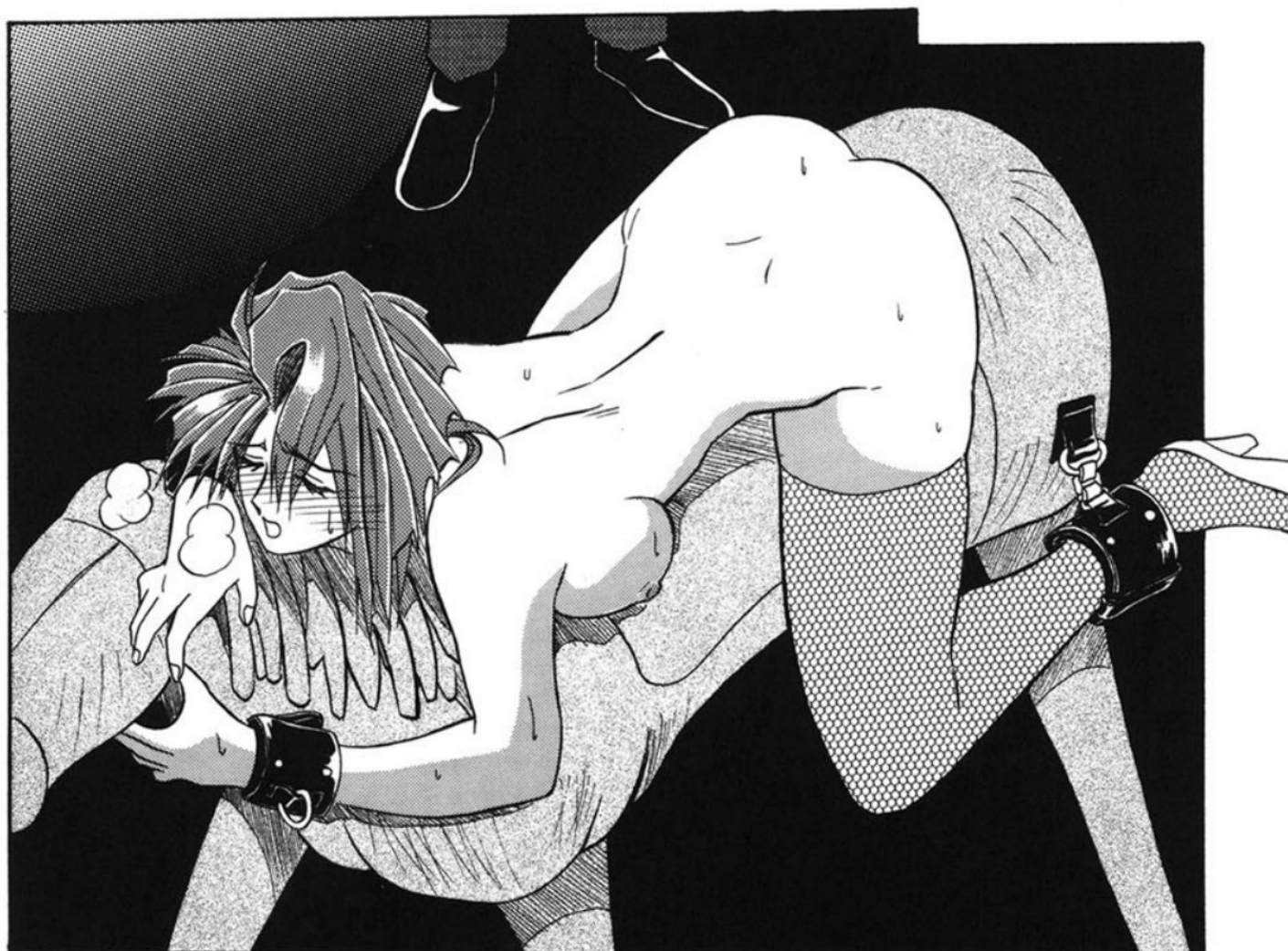
光栄だよ
白鳥くん……

まさか君の方から
我々を訪ねて
来てくれるとは…

我々も用意していた
甲斐があったと
云うモノだ……

はあ

はあ…





あ...ッ



あ...

は...あ...♡



あ...は...



は...あ



私……
何……してる……
の……？

はあ

はあ

こんな所に
……来て……



ダメ……
逃げなきゃ……

はあ

はあ

比処に居たら……
い……いけない……
……つつ

はあ

いけない……
いけない……
どうして……？



こんなに
気持ち
いいのに……



はあ……

7!!

7!!



はあ

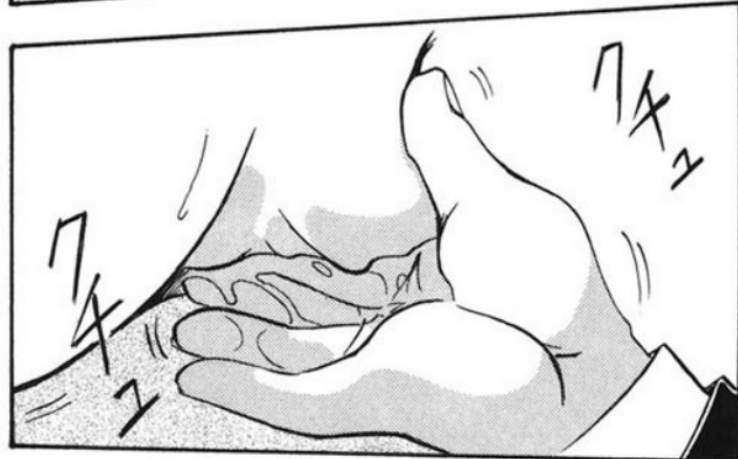
ひんひん

あ……



はあ

はあ





こういう女
だからこそ
自分の心の中に



我々と自分の
関係を認識させる
必要がある…

彼女から求める事は

彼女自身が自分を
我々のメスだと認め

服従を誓うのと
同じ意味が
あるのだ…

ギュッ

おっ…
お願い…

私…も…

もう…







白鳥女史は
ハードなセックスを
御所望の様だぜ？

すげえ
グチヨグチヨ
だ♡

あっ

はあんっ

ヒヒヒ♡

はああっ



あひっ…！



はんっ

あん

すげーすげえ
こりや本物の
好きモノだぜ♡

あん♡

ああん



あっ…

見てみろよ
この顔…！

はあ♡



淫乱女が…！

ああ
あ…っ



へへっ...そう
うまいじゃないの
白鳥さん♡

ホラ前にも
くれてやるぜっ
ありがたく啜えなっ



くっ 締めが
キツくなりやがった

むっ...

うっ

そりや光栄
だなっもっと
感じてくれよっ

ううっ



うっむうっ

ほら
ほらっ!

何もかも忘れ
させてやるぜっ

うぶ...

何も考えられず
わかんなくなる
くらいにな♡

むふうっ!!



欲しいなら我々に
忠誠を誓うのだ…
永遠の奴隷と
して……

はっ…

私……

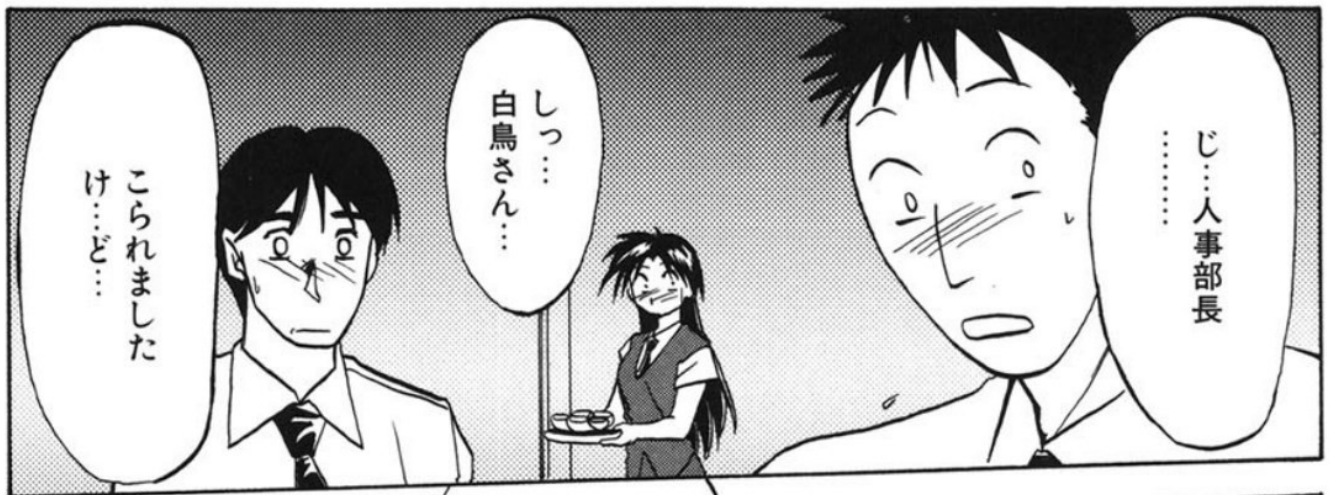
私あ……

あ……あ……

この悦楽は
誓いと共に……

永遠に
お前のモノだ……







私が自分で
進言したんです…
私の希望ですわ



第六章 「変貌」



—あの日から
既に10日余り
経とうとしている…

あれから今まで
私は何をしている
のか…

自分でも
理解出来ない…

以前の様に
すべてを頭の中で
考えまとめ上げて
構築すると云う
思考はなぜ無く

頭の芯の
しびれたまま

私は鷺野部長と
その部下の方々の
元に入り浸り

彼等にすべて…
考える事すら
預けきっている…

それもよく
似合っている…

穿かせてみて
正解だな…♡



はあ

はあ

は...

は...



すごいじゃないか...こんなに濡らして...



は...

あ...

ガッ
ガッ



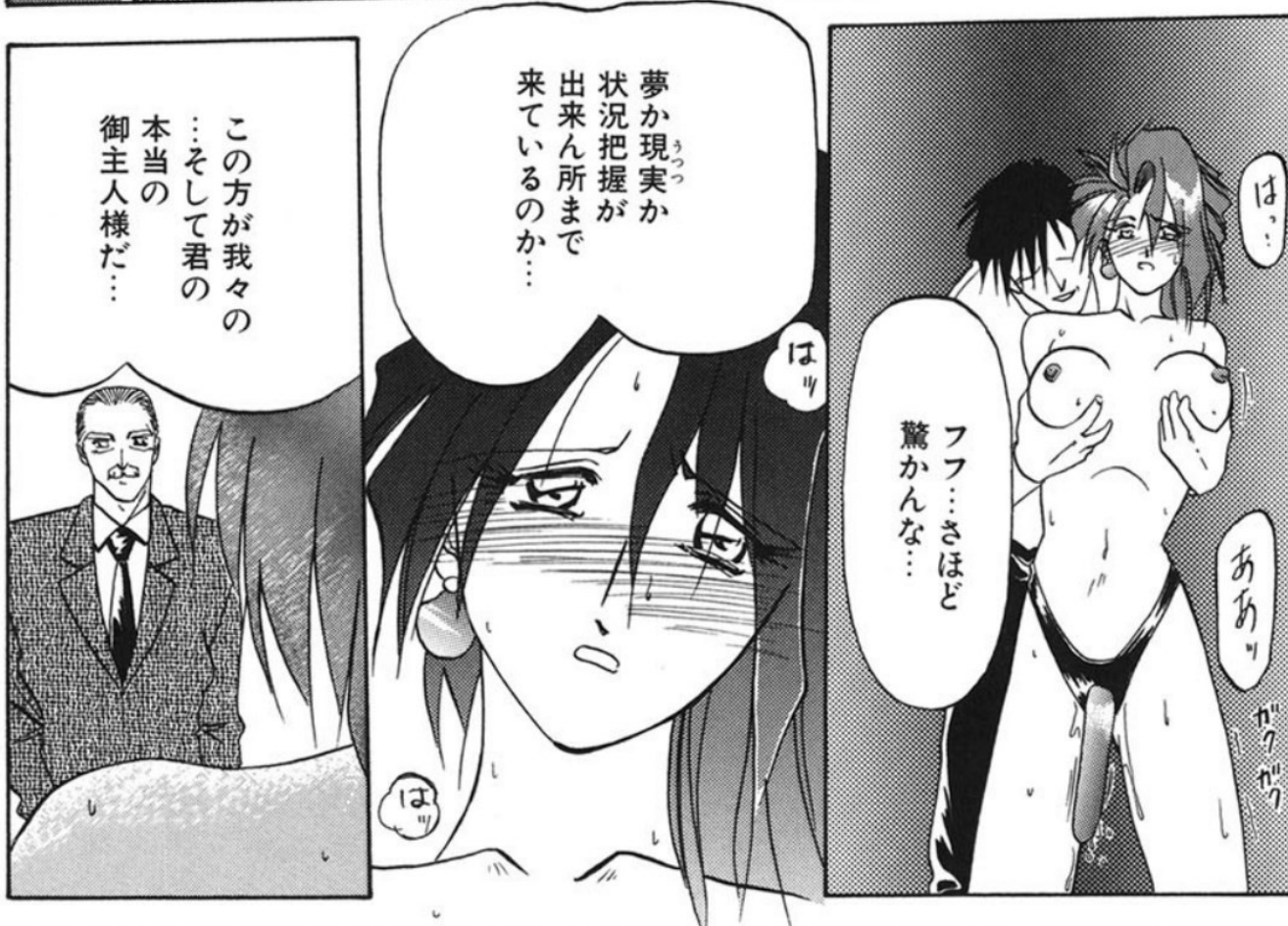
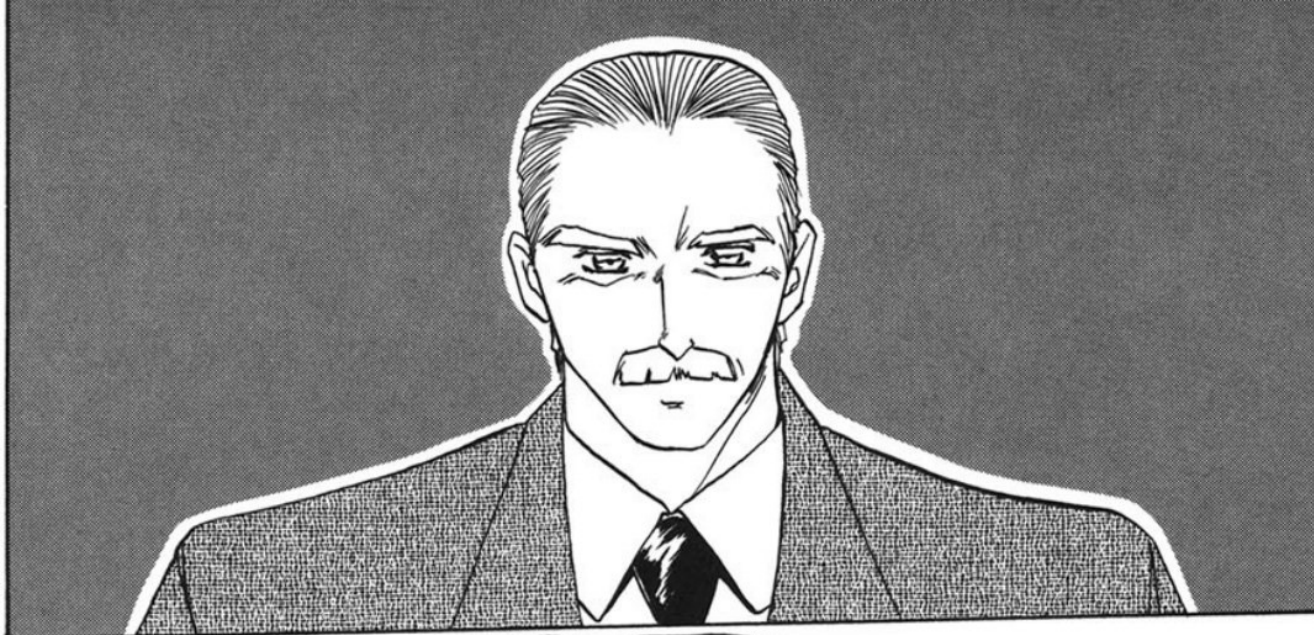
いつ見ても
いやらしいな...
お前の肢体は...

まるで

体全体で
男を誘って
いる様だ...









ごあいさつを
しろッメス犬ッ

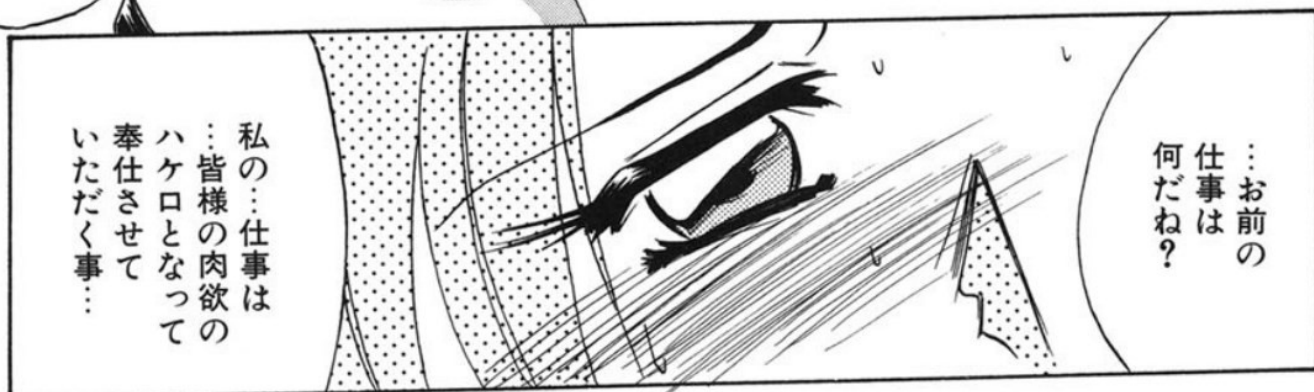
ひっ…緋沙子は
淫らな事が好きな
メス犬です…

あッ…あは
…はあッ

緋沙子はオトコ
無しではいられない
淫悦な体なのです…



ごっ…
御主人様…

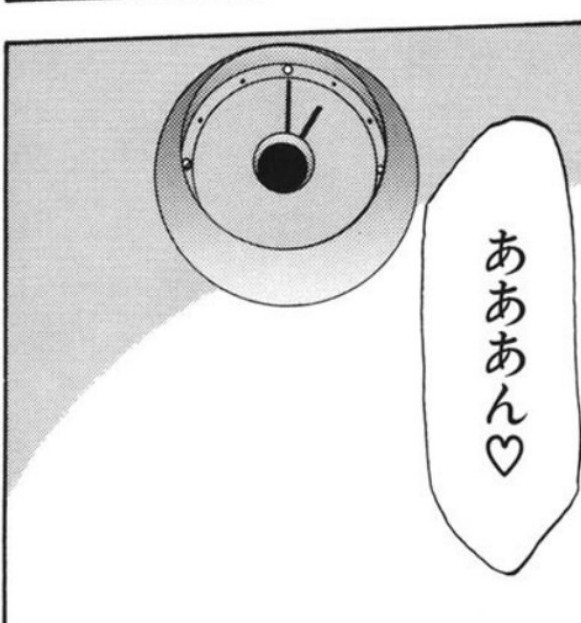


…お前の
仕事は
何だね？

私の…仕事は
…皆様の肉欲の
ハケ口となって
奉仕させて
いただく事…



……
……
……
……





は…

あ……ッ

あ…



…快楽は
精神をマヒさせる



理性を持って
現実^{ソノ}に直面する
事に恐れを抱き…

ビクン

現実の事象が
歪みきっていれば
いるほど



自ら快楽に
おぼれてゆく…



無意識に
考える事を
拒絶し…

かつての
才色兼備の
麗女も…

ッ
ッ
ッ

もはや
肉欲の虜だ

…我が社の
筆頭株主
白鳥健吾の
愛娘…

その愛娘からの
調査資料
それに基づく
要望を受け…

彼は秋の
株主総会において
アメリカ視察中の
鳩沢常務と

総務の鴨川を中心
としたその一派を
排除する動きを起こす！

彼女が彼等を
突き堕とす先兵と
なるのですな…







はぁ
ぁぁ
ぁぁ♡



はッ

いつ…
入れてえ…

オチ♡チン
入れて
下さあーい



はぁ

はッ

はぁ

はッ

欲しいなら
なんとか
言ッてよッ

ホラ
もっとお尻を
上げて…!

フルフルフルフル



なぜあれほど
嫌悪していたの
だろう……

ああッ

あッ

あはッ

はあ♡

今までの生活の方が
虚空にさえ感じられる
満ち足りた世界

自分でも
気付かなかった
メスの本性……ッ

自分と云うすべてを
捨て去った今の淫乱な
姿が本当の私に……

あッ

あん

あは♡

ほらっ

お待ちかね
だぞ？

自分ばかり
感じて……

この狂おしい
肉の悦び
無しには...

もう...私
生きては
ゆけないわ♡

んんん♡

——ハイ
こちら
開発室！

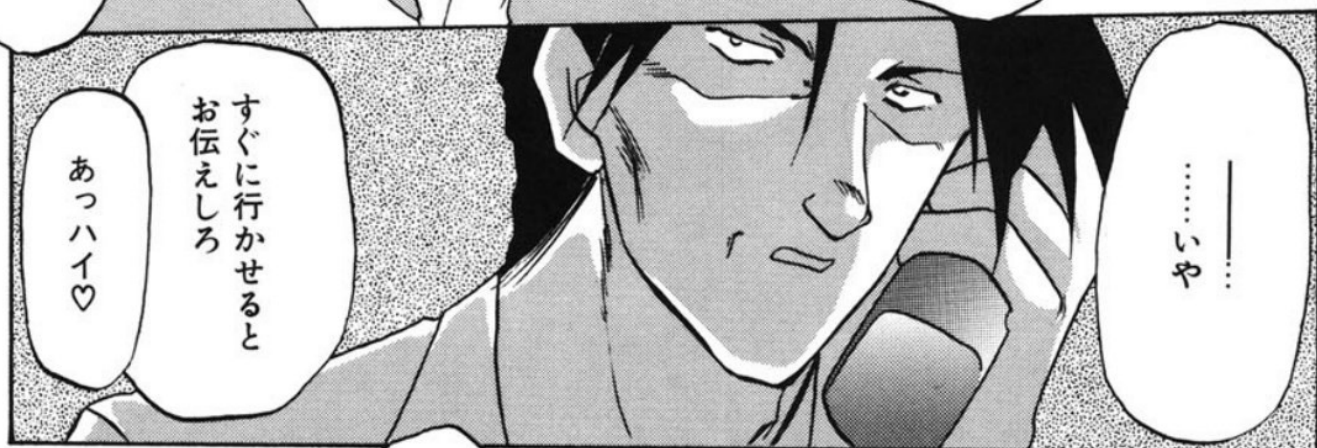
.....

！

——ハイ

んんん♡







あはああ♡



ああッ

ダメっイクッ
イツちやう！



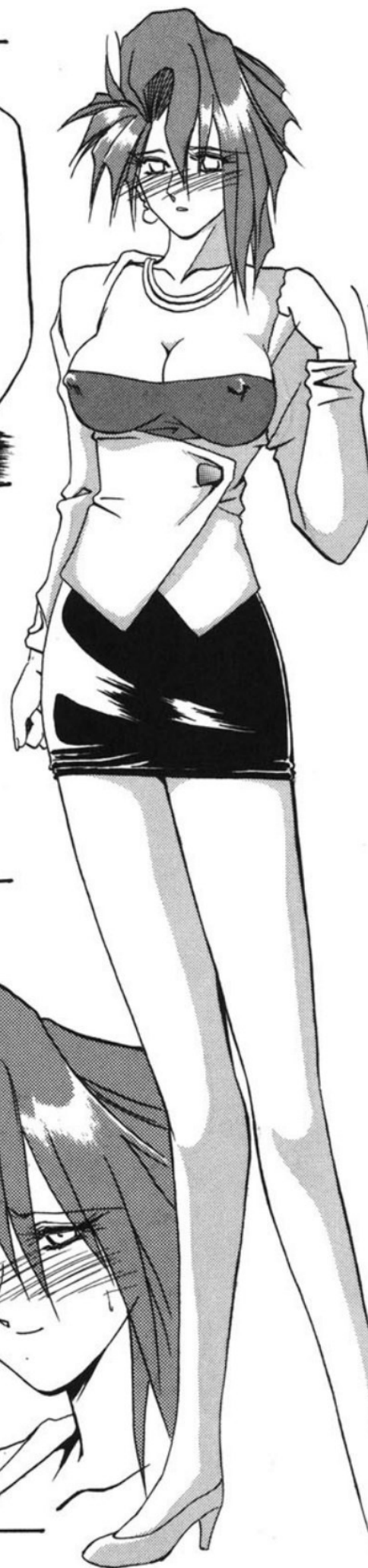
いい機会
です…

シミュレーションと
いたしましょう

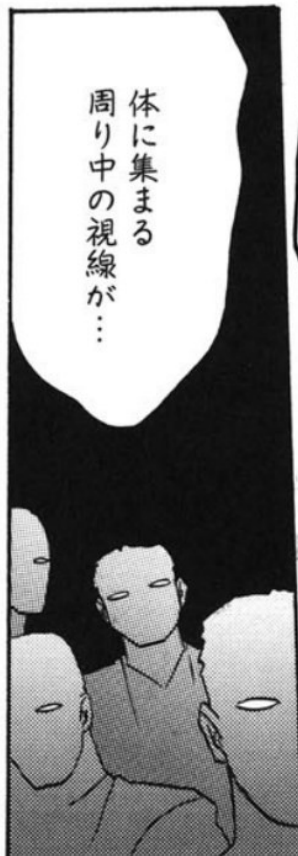


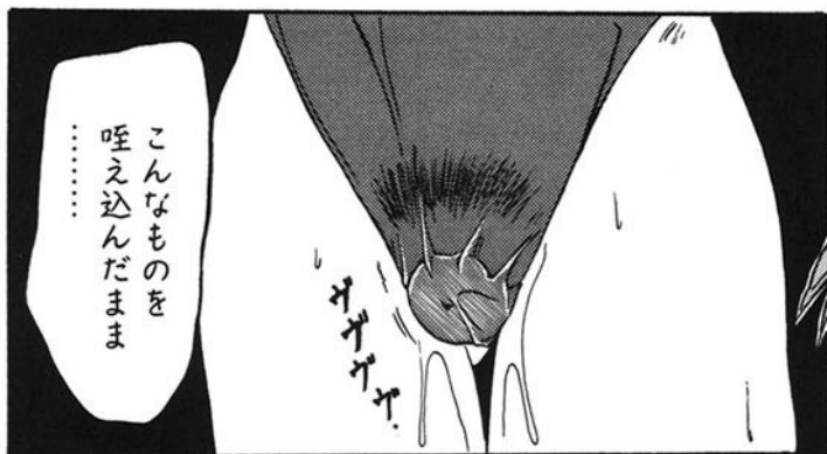
我々の奴隷と
しての…

初仕事だ♡

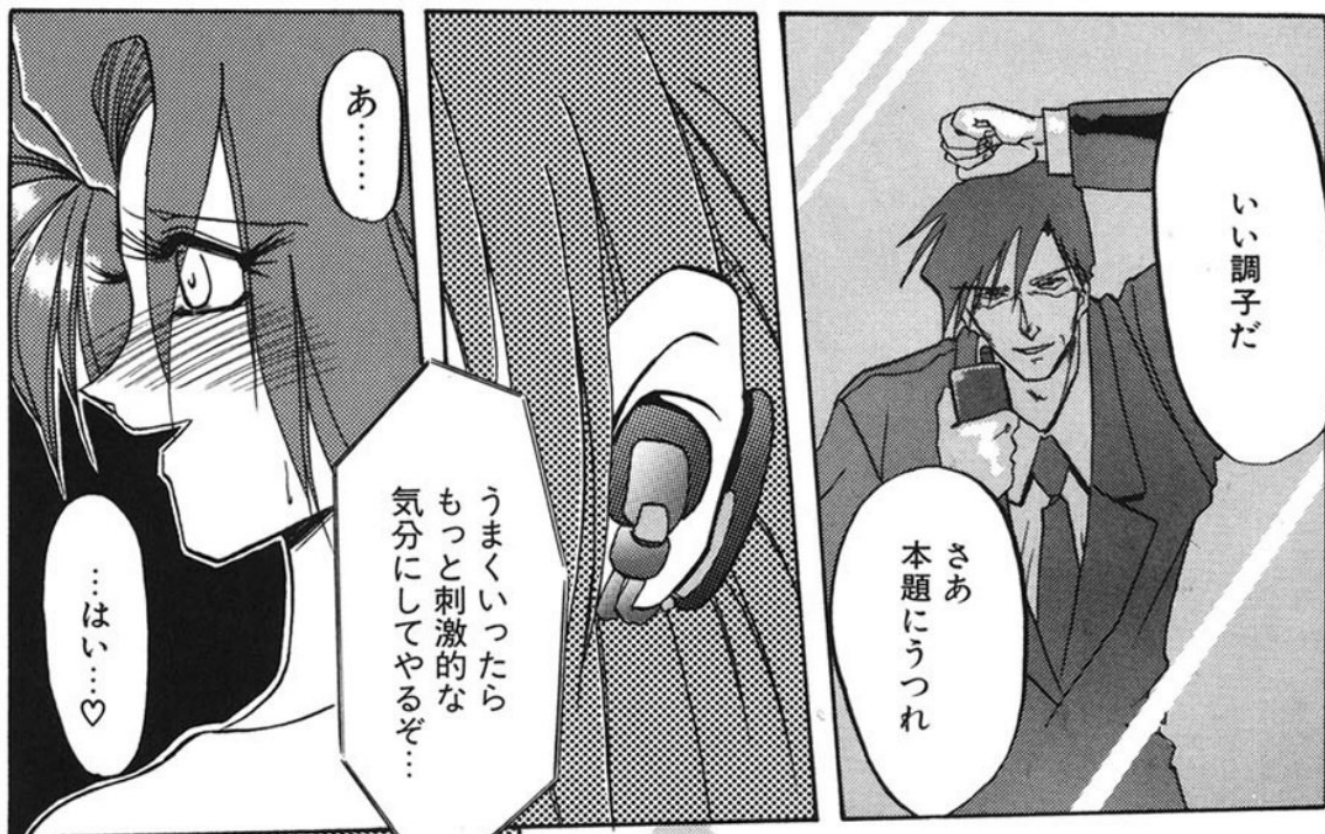


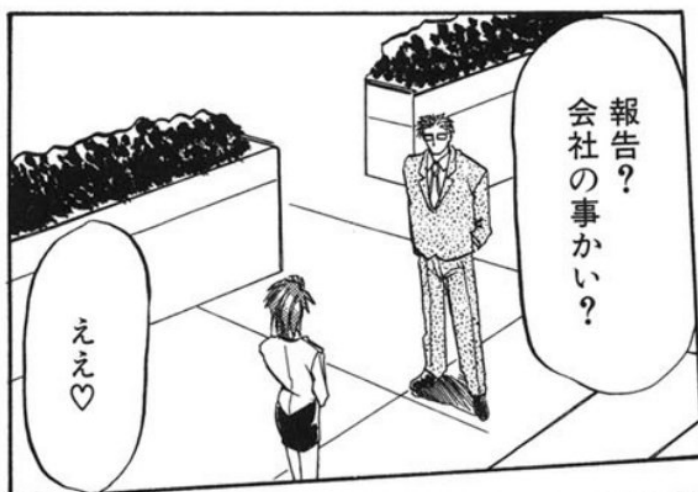
第七章 「昔日」



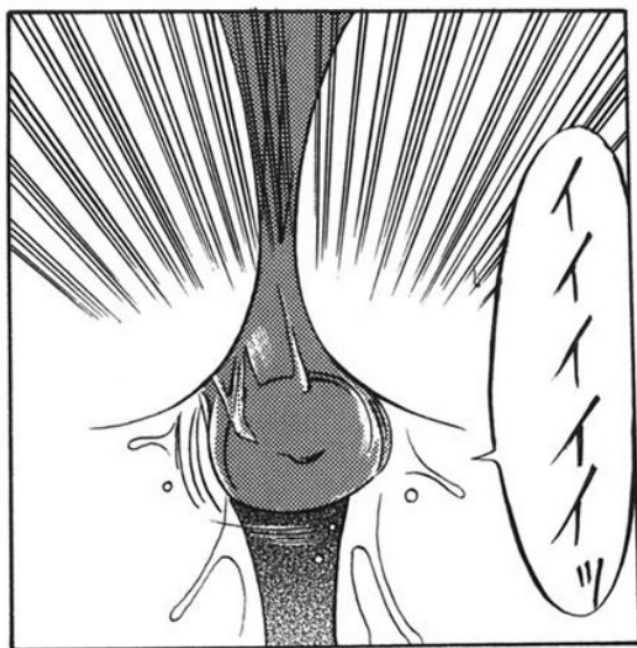














私…
とっても
忙しいのよ!!

はっ…早くッ
早くしてえ…



お父様だって
白鳥さんを心配して
来て下さったのだから…

でっ…
いえ…



本日は責任を持って
自宅の方へ
お嬢様をお送り
致しますので…

ここ最近っ少々
たて込んだ仕事が
続きました…
白鳥さんも
疲れぎみの御様子

申し訳
ありません





イキそう...

ダメ...も...
立ってられない...



ええ そうして
やって下さい...
すまんねっ

ブルブル...



ぎゅ



イ...イキたい...

は は



今...
一番...ッ



えっ...ええ...
そうなの...
私...



白鳥さんも今が一番
充実していると
言われていました...



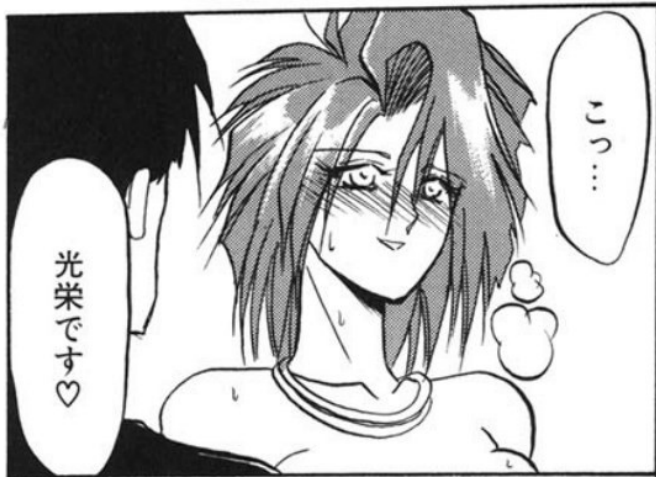




来週からは
我々の下僕としての
働き方をじっくりと
覚えさせてやる…



今日の所は
自宅へ帰りたいまえ



光栄です♡



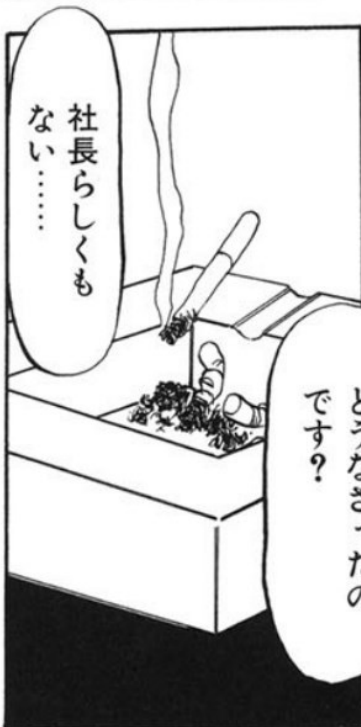
御主人様…



はい…



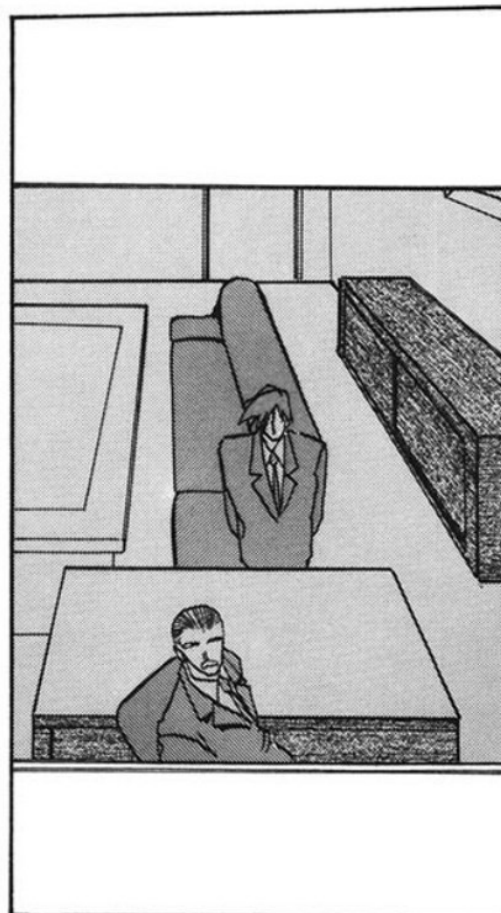
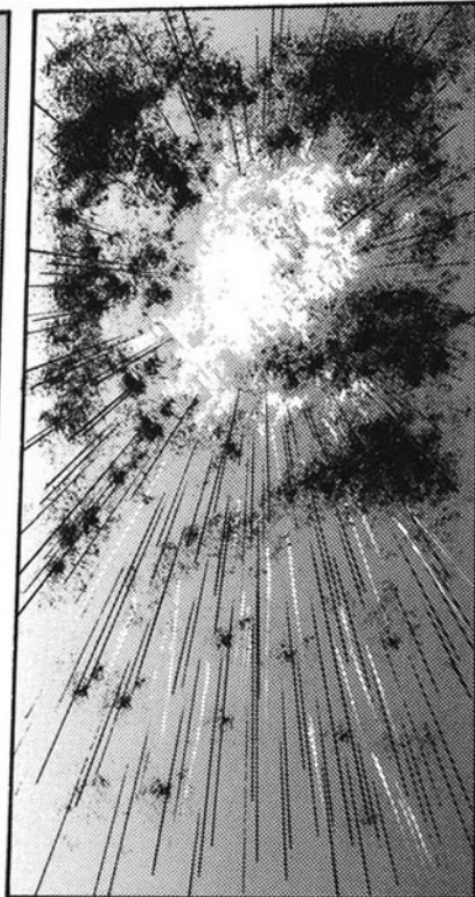
月曜は…また…
たくさん可愛がって
下さ…



社長らしくも
ない……

どうなさったの
です？











名前が彫ってあるでしょ
どんな理由で
捨てたにせよ
こんな事までしてあげた
子だものきつとこの子を
愛していたと思うの



でも
止むに止まれぬ
事情があつて…



だからきつと
この雨を心配して
戻ってきてると
思うから…



大丈夫です
って教えて
あげなきや♡

—!!
でも…私

どんな理由でも
捨てるなんて
許せないわ!!
ぷん



緋沙子…物事を
自分の尺度だけで
考えちゃだめよ

でもそんなの
きつとロクな
人じゃないわ!

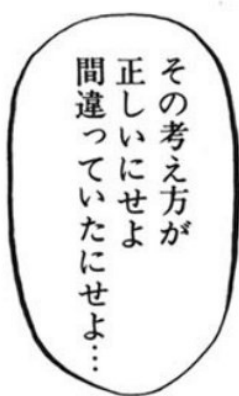


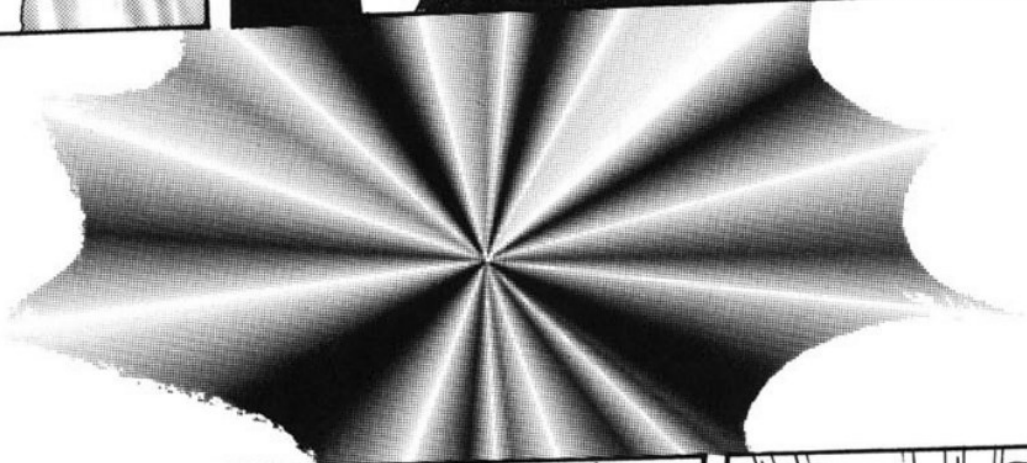
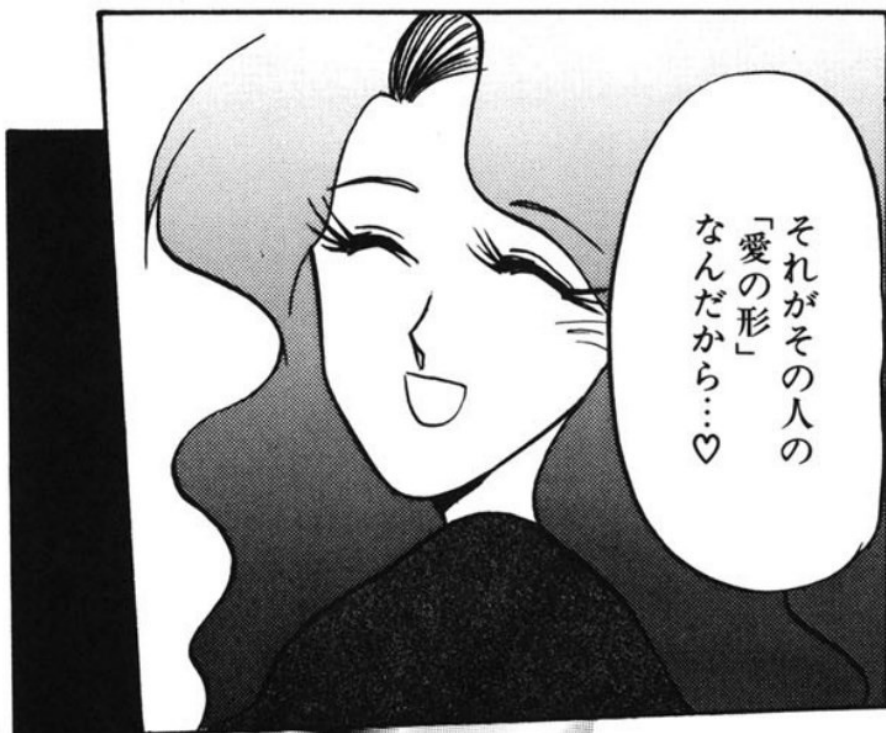
緋沙子…!!

この人はきつと
そうする事が
一番このコのため
だって考えたのよ



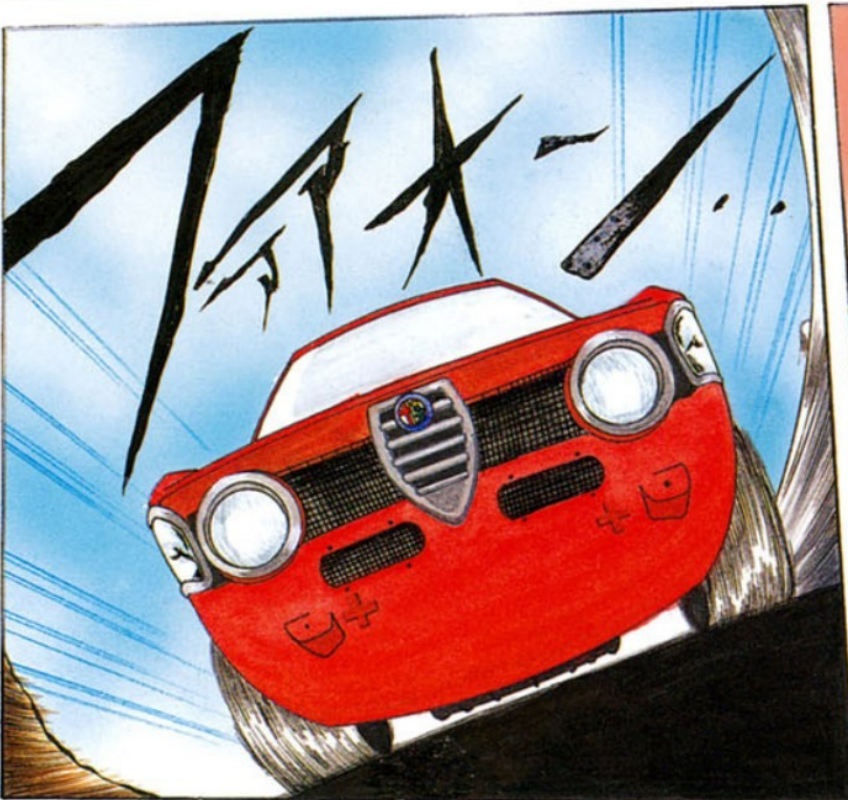
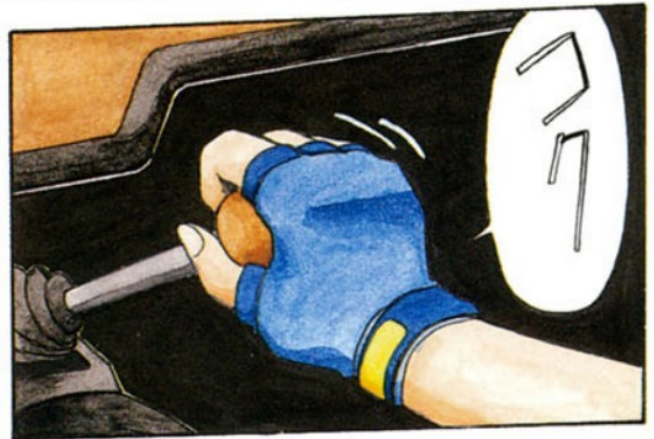
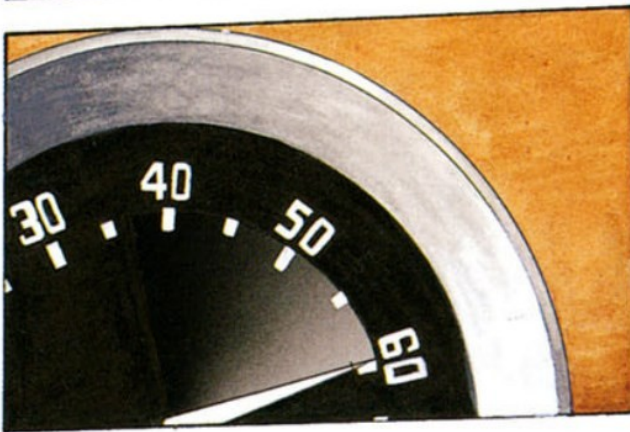
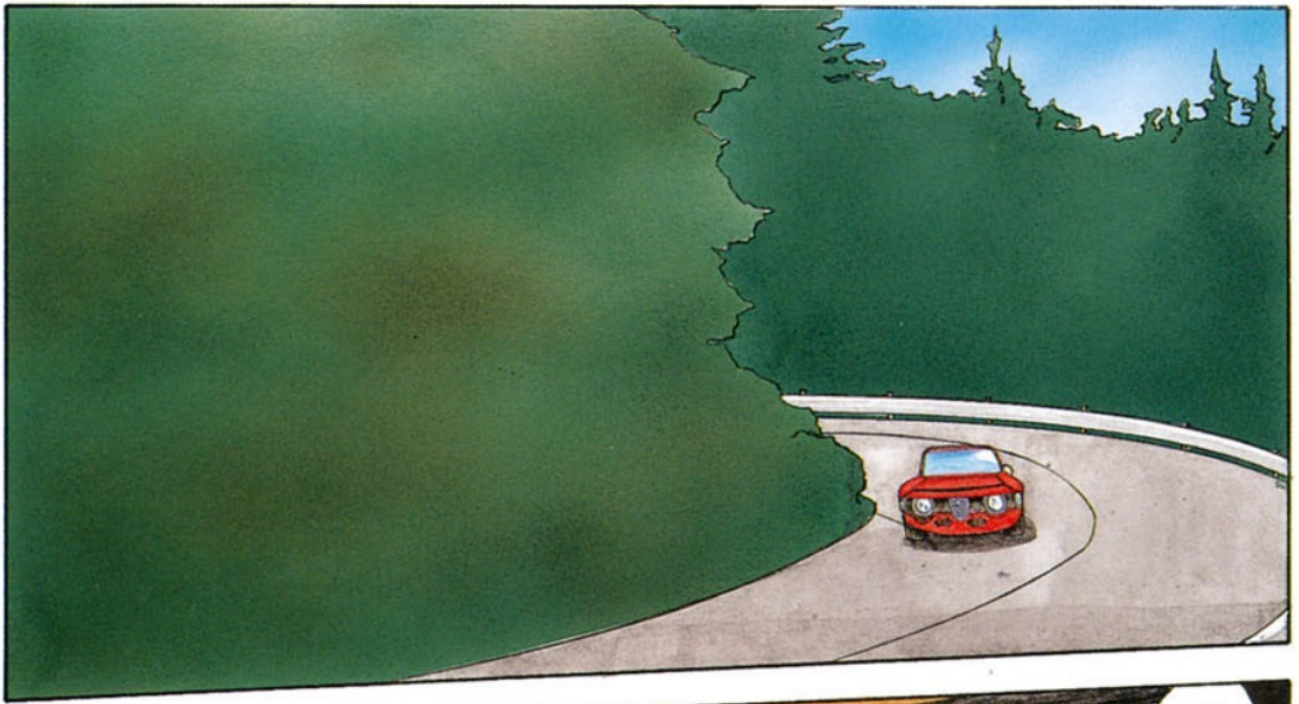
その考え方が
正しいにせよ
間違っていたにせよ…

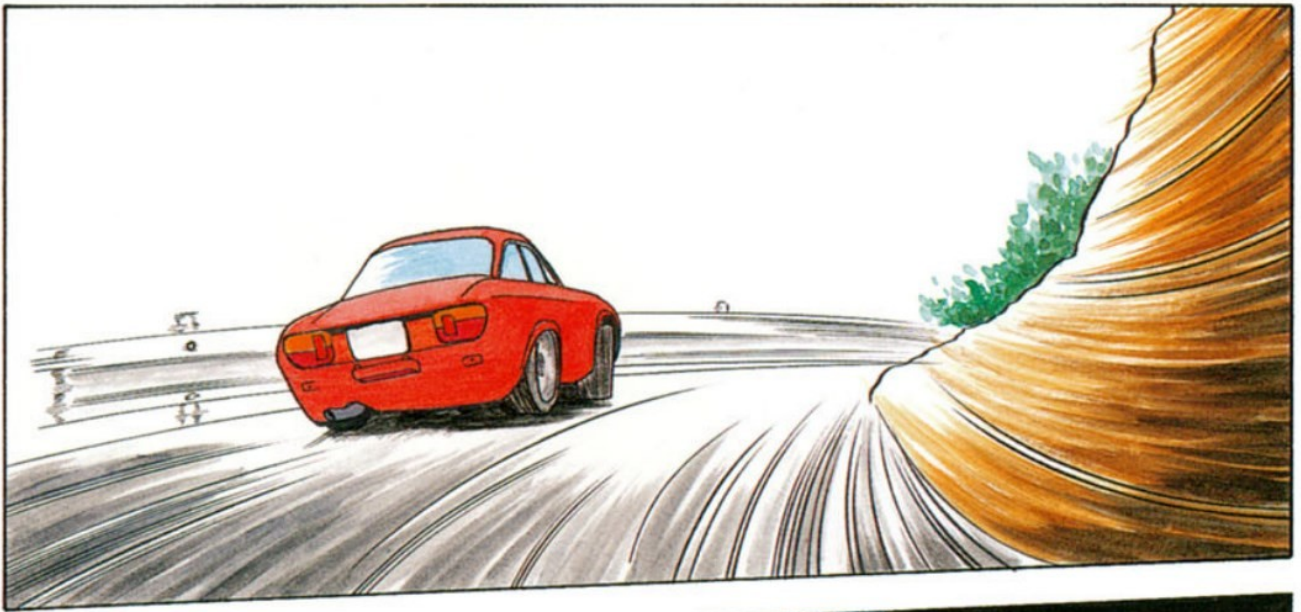






第七章 終



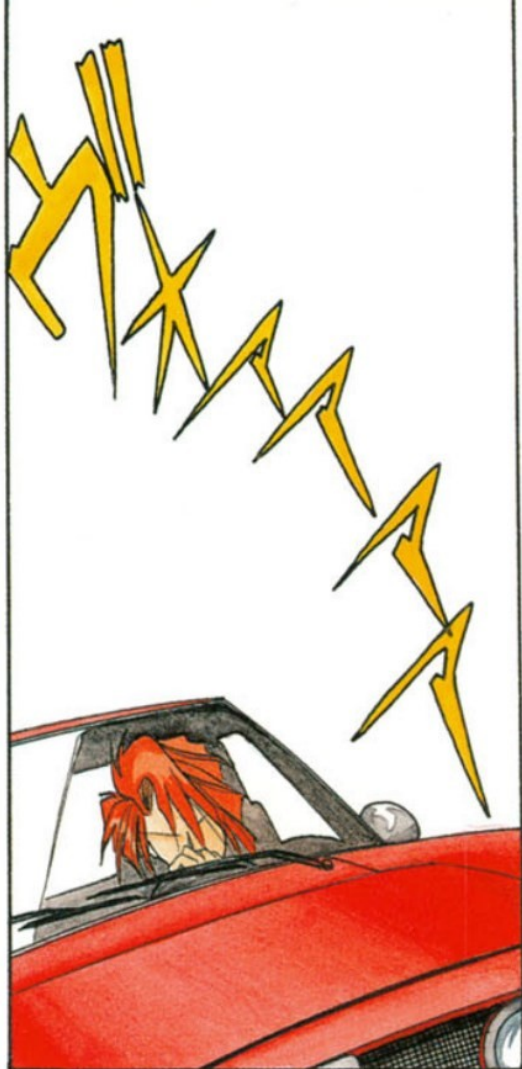


君にはずいぶんと
苦勞させられたよ



新薬の認可証に
ついてお話が...





これを社長からと
お渡しすれば
いいんですね？



父親に進言するのだ
常務の派閥を一掃する
ために…



君を手放すと
思うと私は…

第八章「急転」

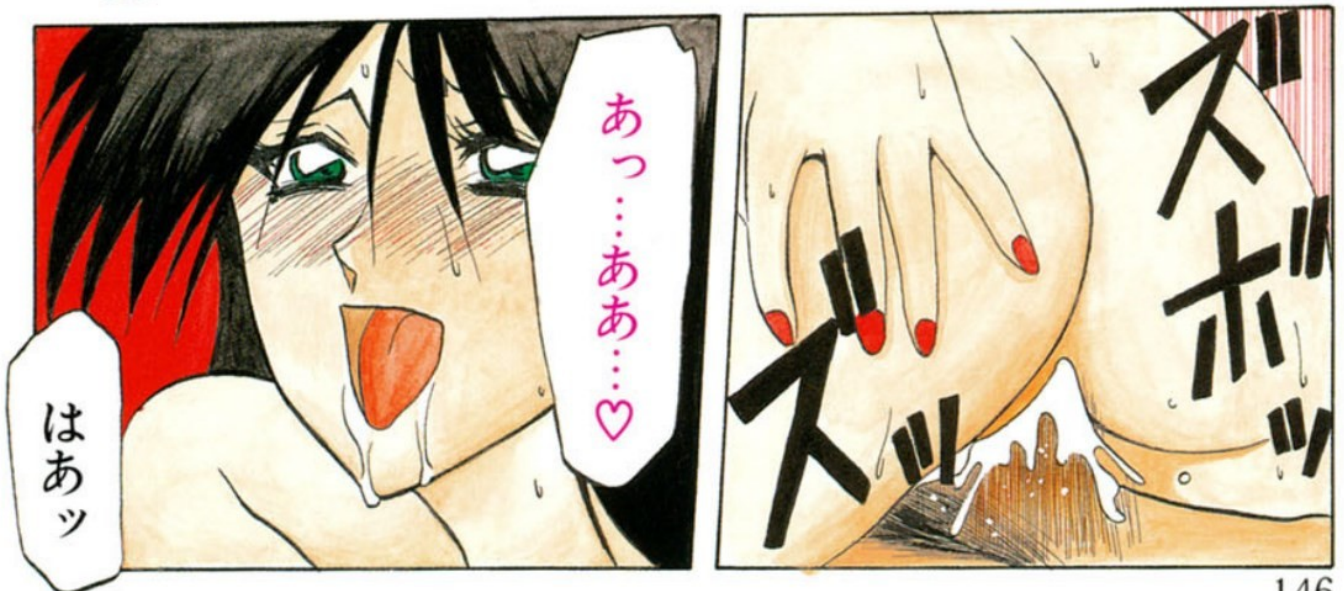
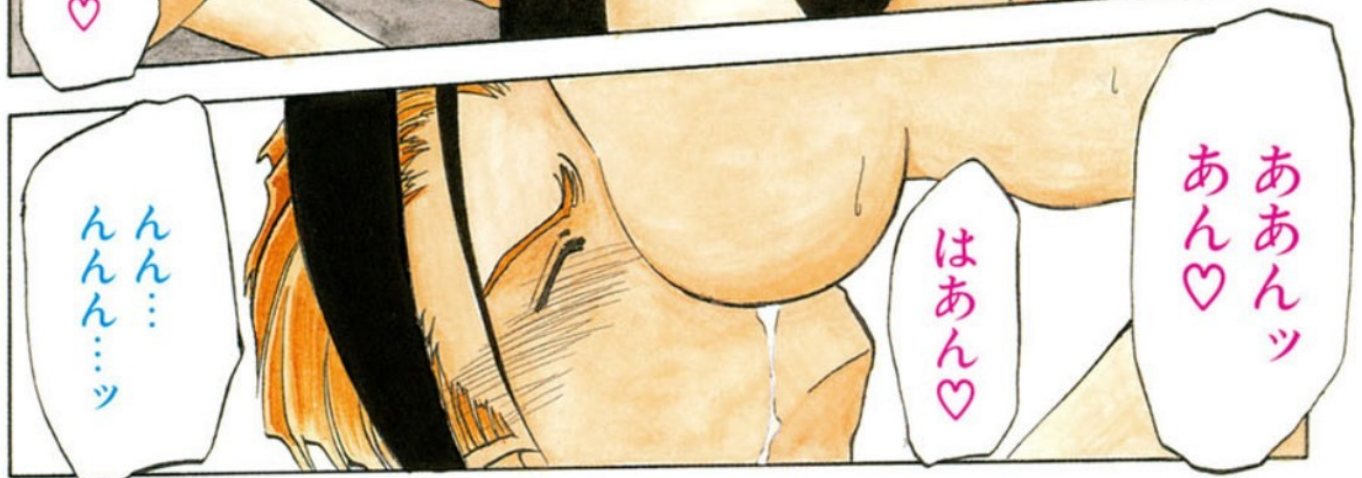
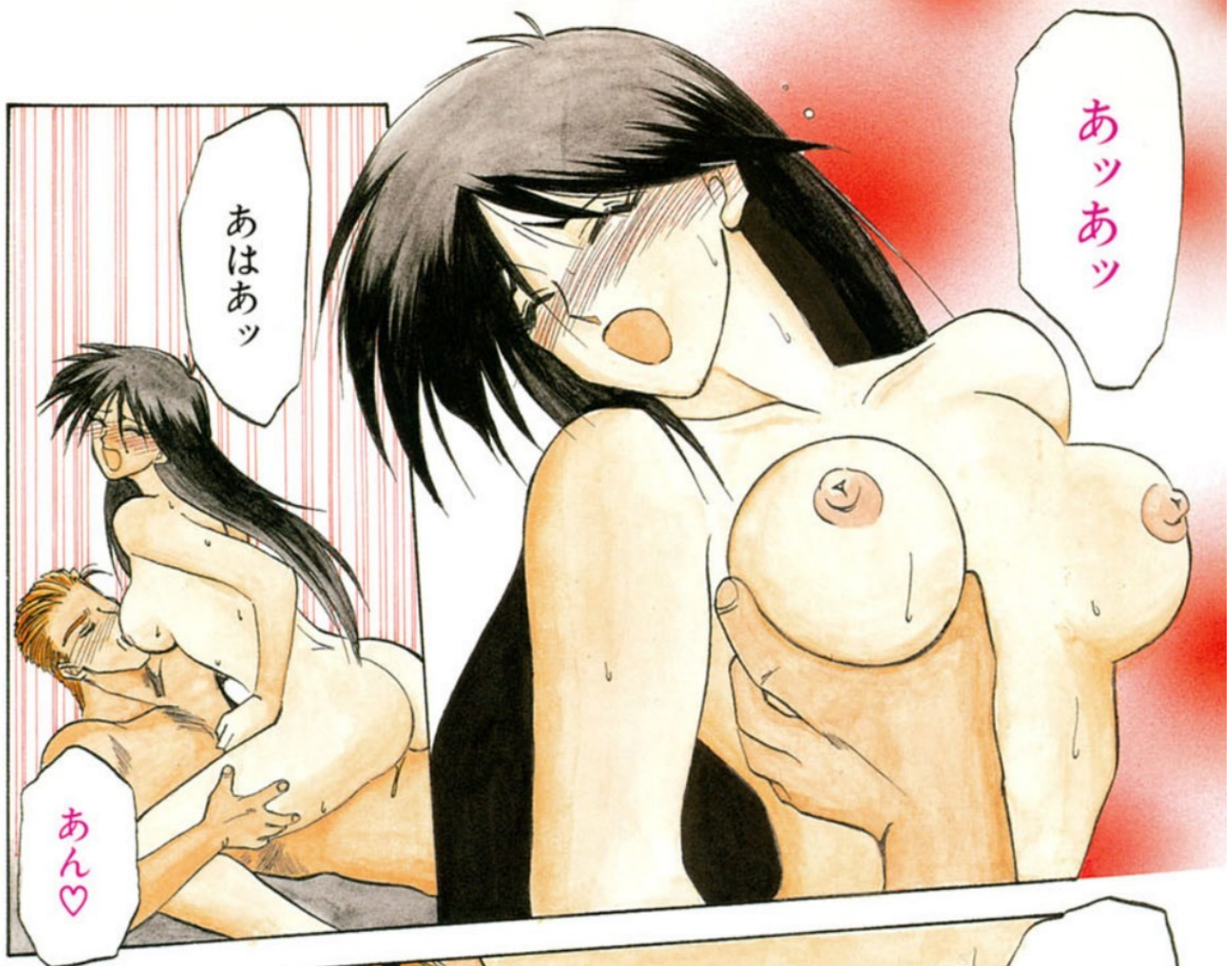


自宅には
居ない様です

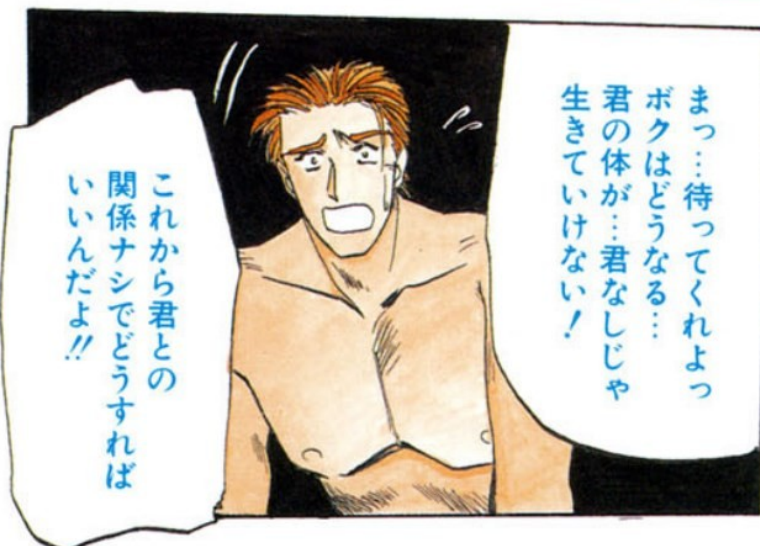
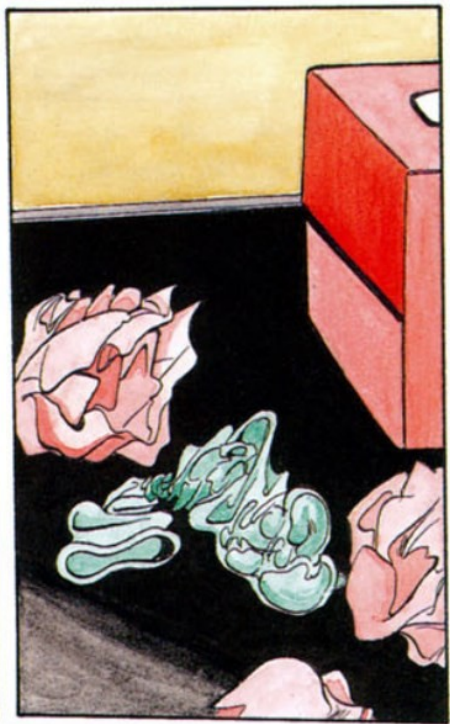
どう言う事だ
なぜ白鳥は
出社して来ない!?





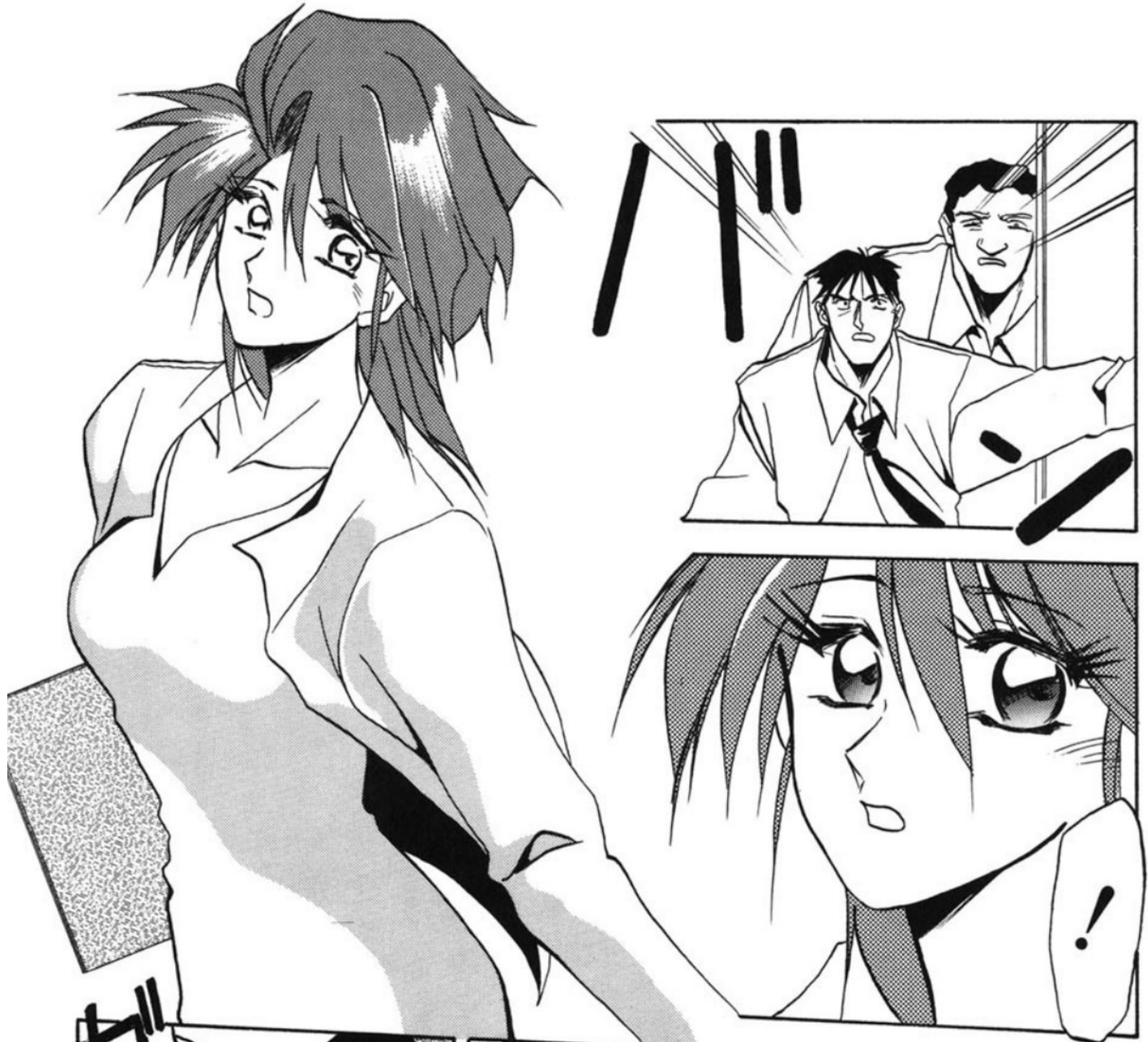












君達には少し
おとなしくしてい
てもらうよ

何!?

薬品認可に対する
疑惑がはつきり
するまでねっ

すみません…!

ガンバって下さい!
我々も薬品の回収に
全力をあげます!!

なあに…!

さあ気合い
入れるぞ!

おお—ッ



…緋沙子…



ごめんよっ…
最近連絡も
しないで…

仕事が
重なってね…
わかるだろ？



今夜…
その…
いいだろ？
お互いひさし
ぶりに…
語り明かそう
……



もう寂しい
想いは
させないよ…

どうだろう



……





——部長……！
部長聞こえますか！？

販売部長らが
研究員と開発室の
ファイルを広げて
しまっ……！

広報課が
部長を出せと
いきまいてます！

鴨川が中心の
ようです！

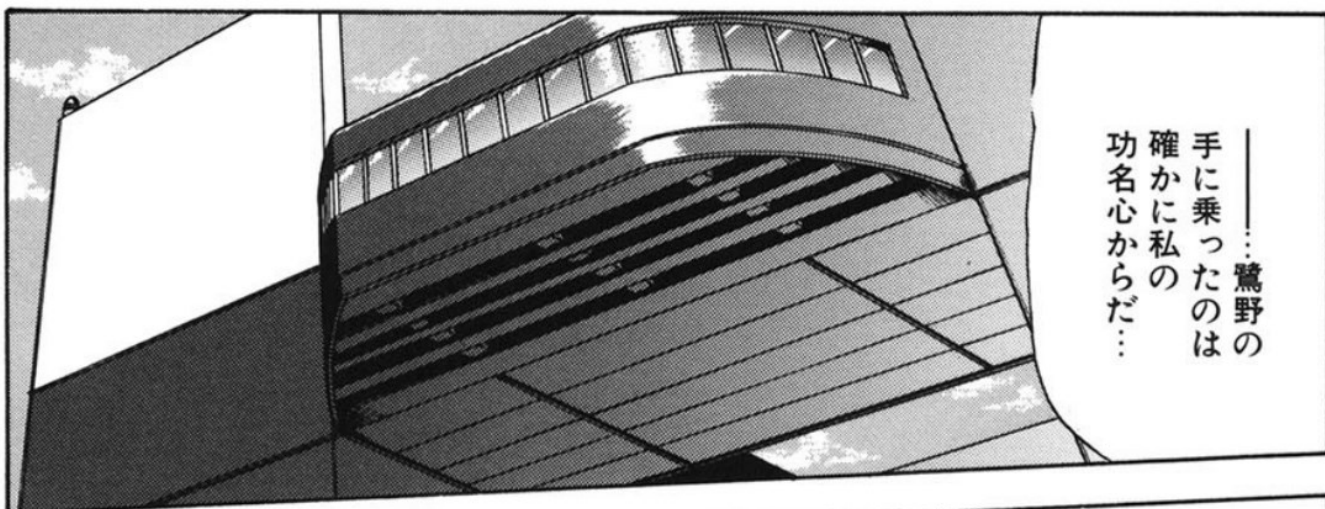
我々だけでは
……

部長……！
……部長！！

おのれ
白鳥緋沙子……

……おっ

おのれ……っ



……鷺野の
手に乗ったのは
確かに私の
功名心からだ……



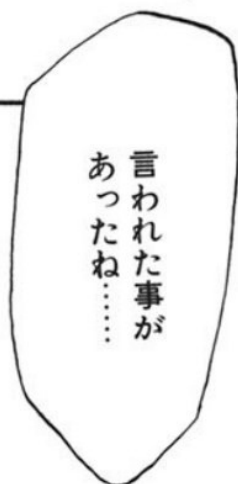
対立派閥の
常務らの居ぬ間に
業績が上昇すれば
それは私の功績と
なり……

白鳥氏を味方に
つければ私の
地位は安泰



しかし
……私は……

やはり私は
……





薬品発注先への連絡
すべて終わりました

チャッ

これで問題の薬剤は
全て押さえられた
ハズです

OK

外部に洩れずに
すべて回収できた
のは奇跡だな

あと少し遅れ
てたら一大事だ

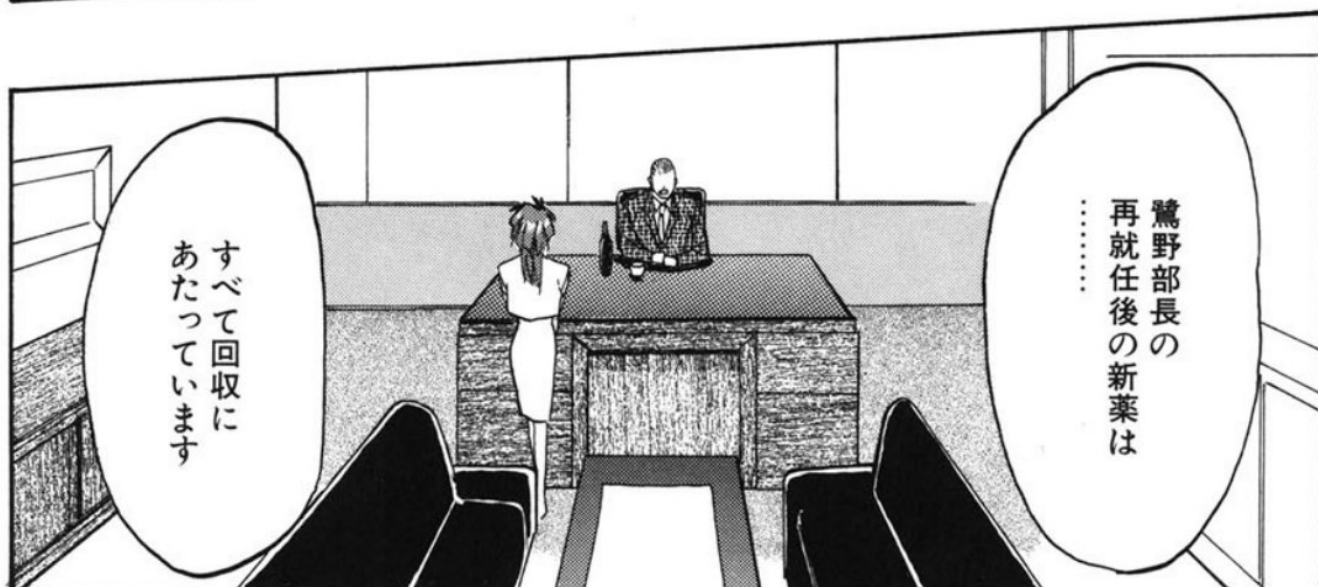
…白鳥さん
のおかげだよ…

まったく…

—…もう
戻っては来ない
だらうな……

ああ……
そうだな

…しかし……
多分これは……

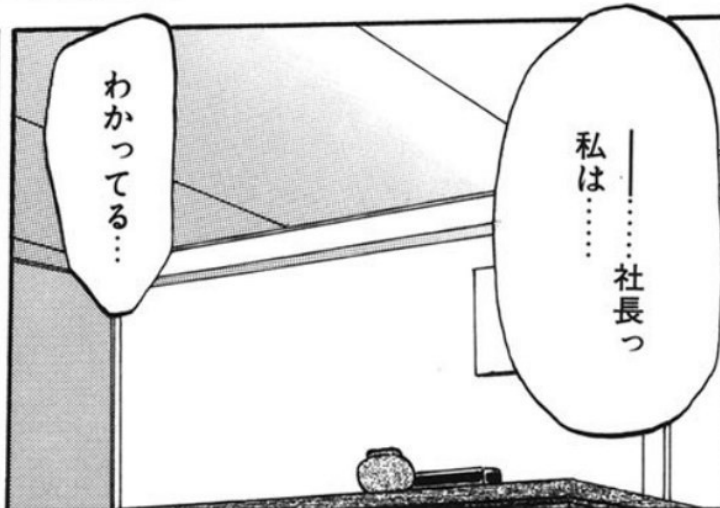




すでに回収された
八種類の薬剤の内
四種類から不審な
臨床結果を発見
しました



——私はすべて
を手に入れた
かった



——社長っ
私は……

わかってる……



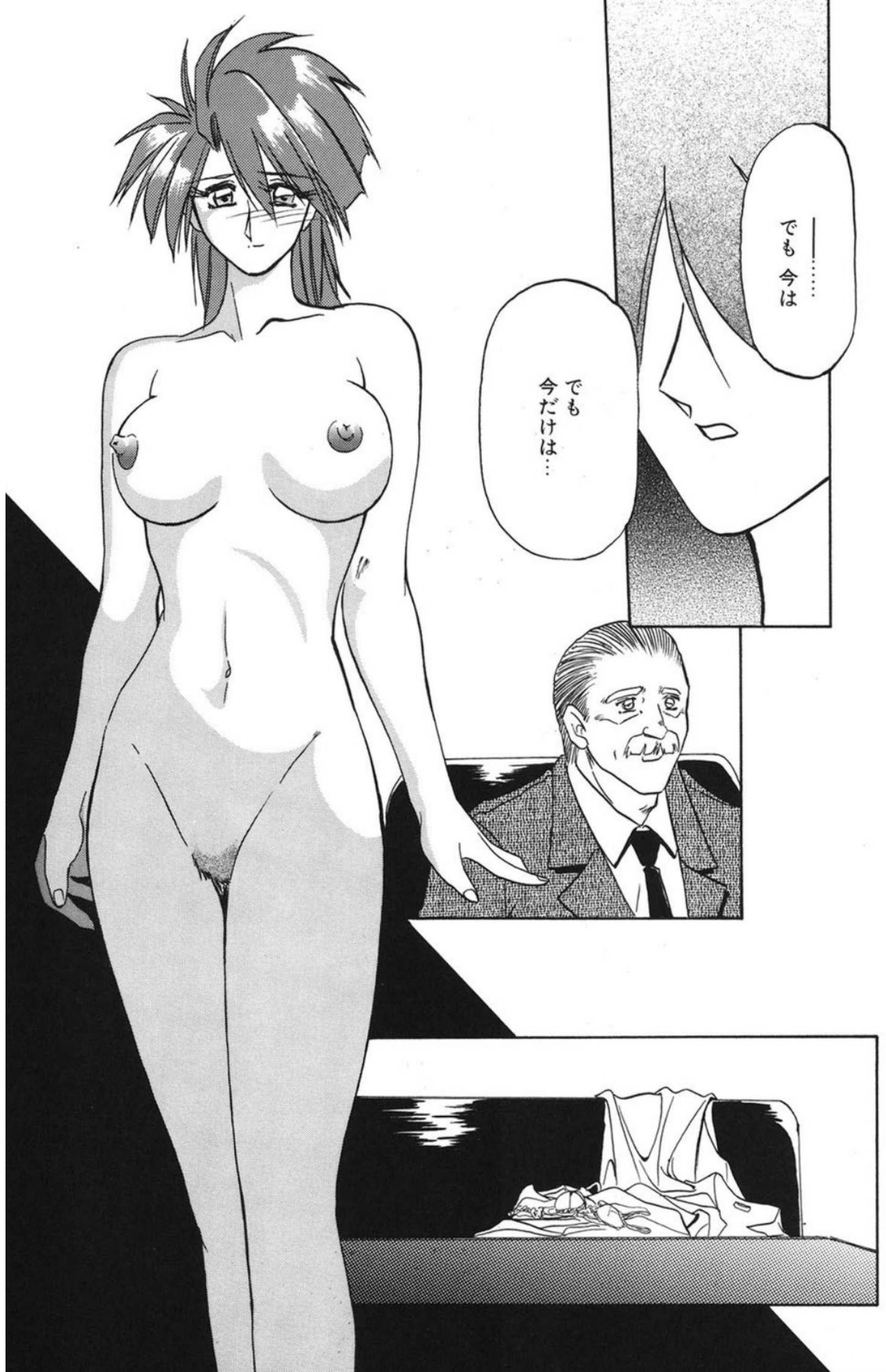
わかって
いるよ



富も……
権力も……

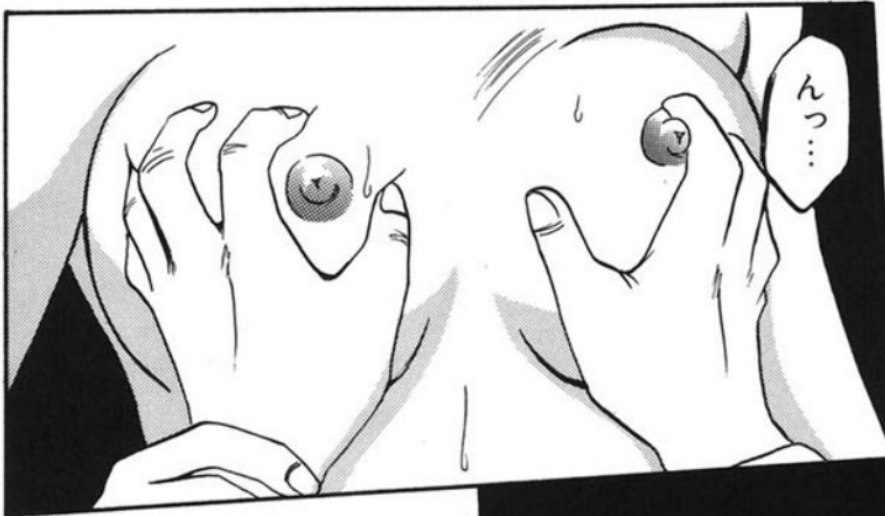
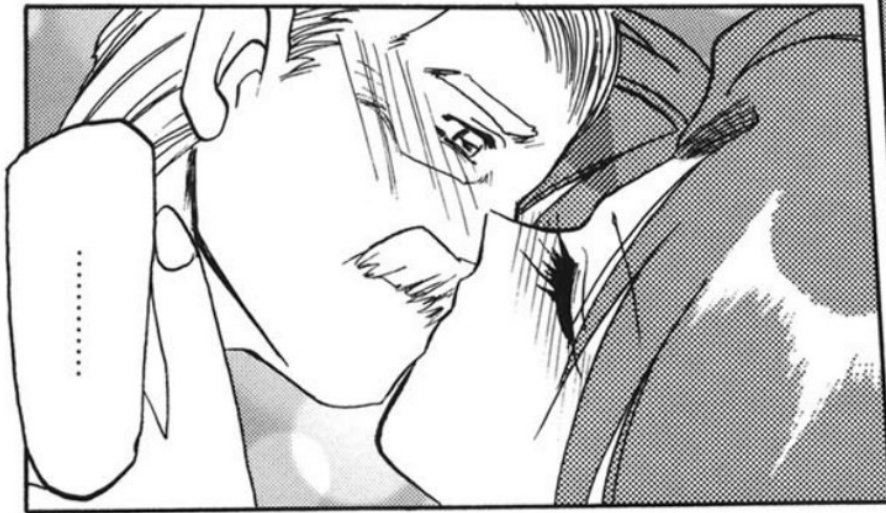
そして
愛も……





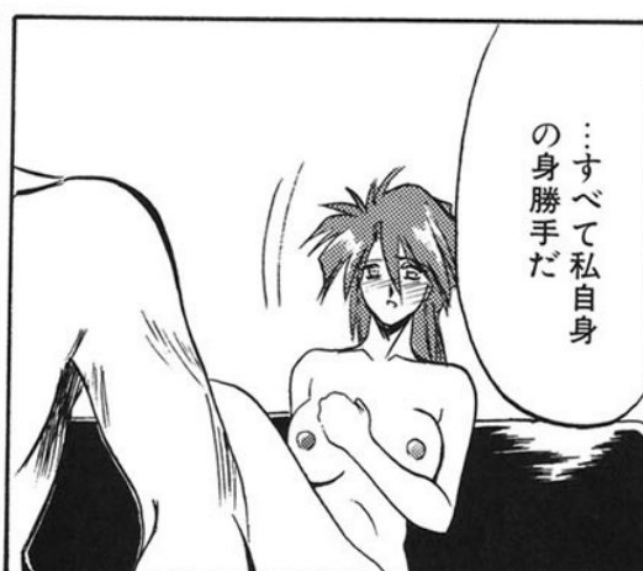
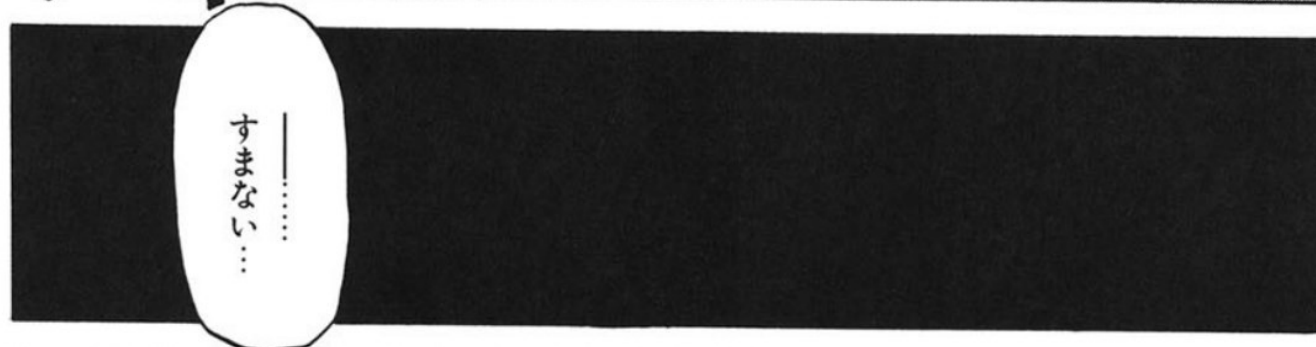
でも今は……

でも
今だけは……











—……もう
終りですか？



……もっと愛しては
下さらないんですか？



緋沙子
クン……



私は……

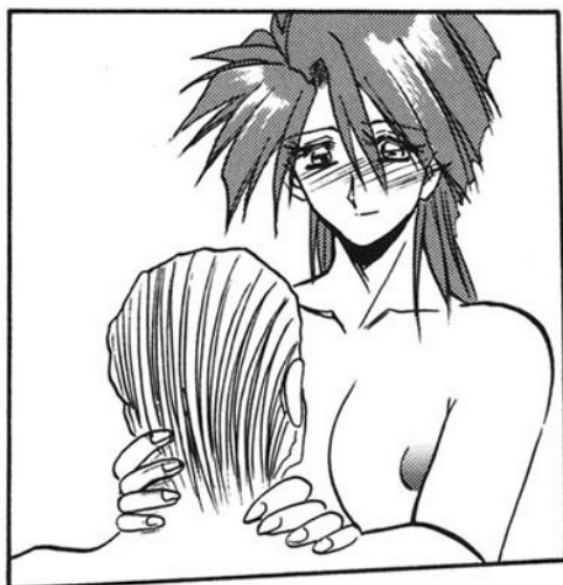


もっと貴方を
感じていたいです……



そう……

今度は……







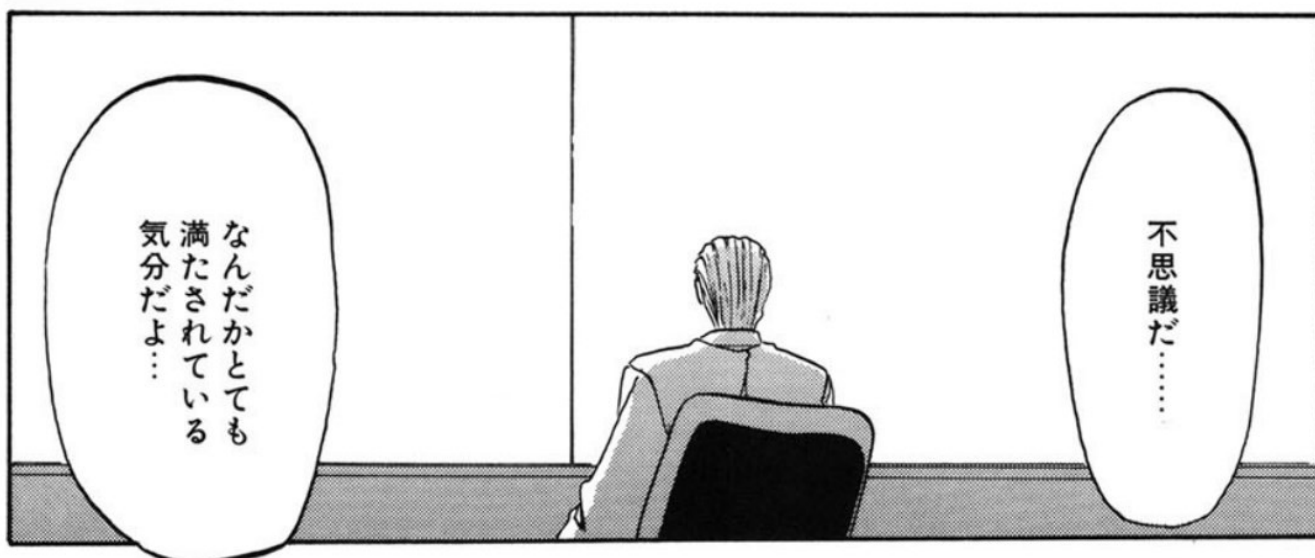


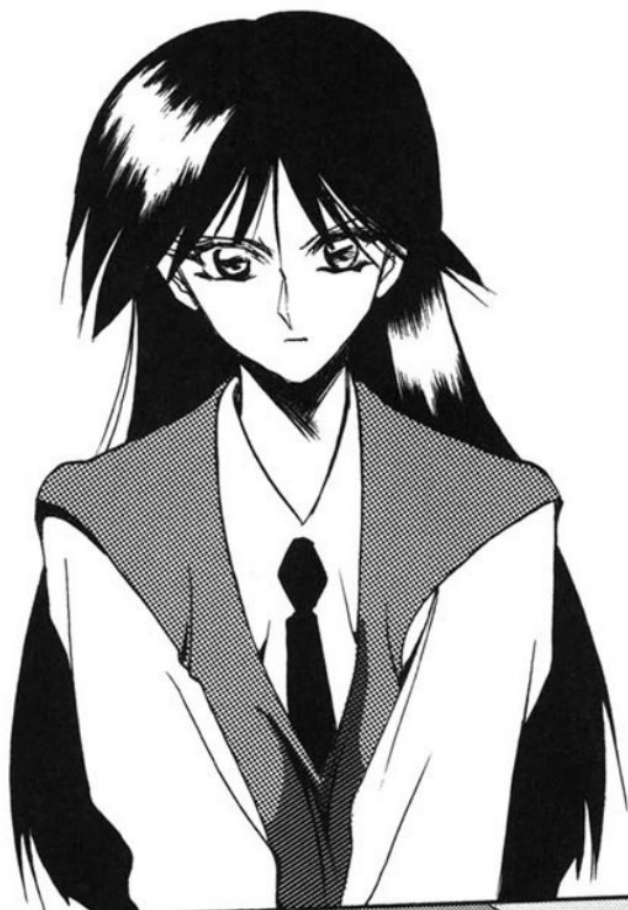
——すべて
話す…警察に…

共謀犯である
私と鷲野の
辞任も加われば
悪くても一ヵ月の
営業停止処分
で済むだろう…

厚生省への
認可承諾の事
…実験デー
タの事……







！…あの人には
そばに居て
くれる人が
必要なの





あなたに…!

なってみせるわ…



!…私…

まっ
ゅ
ッ



……

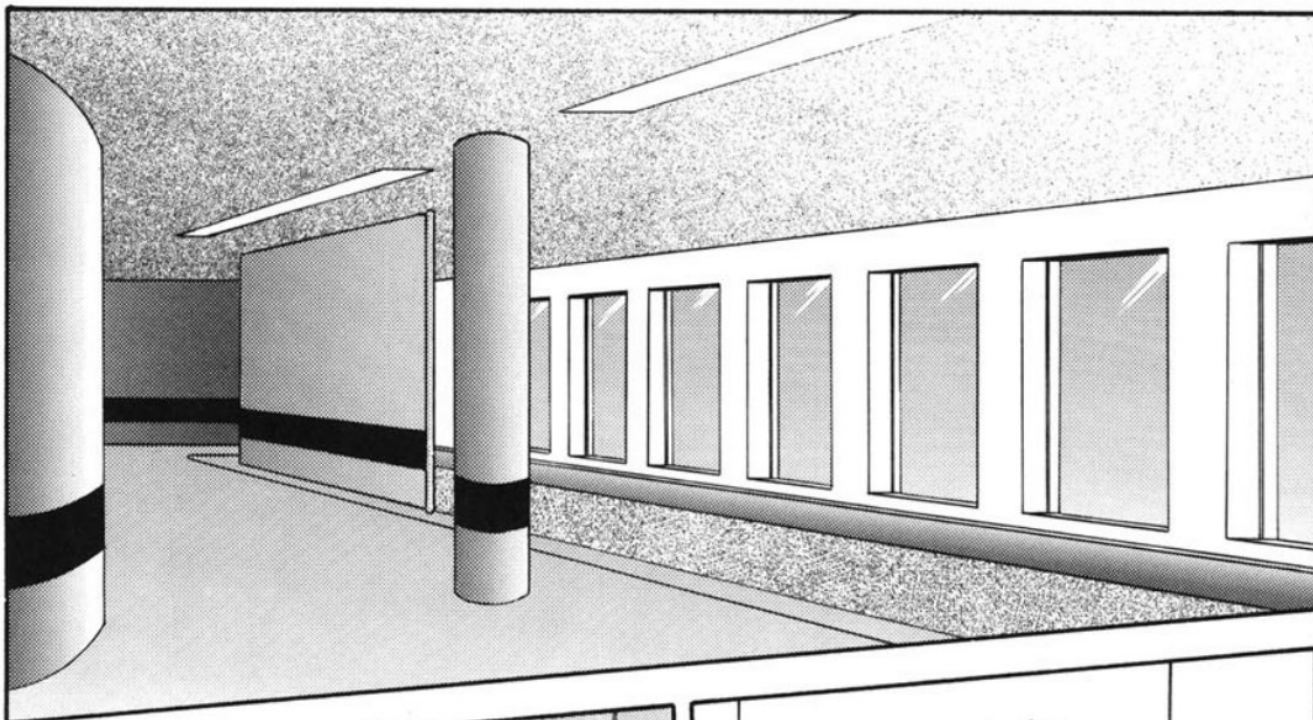


今は無理
でも…

必ず…!!



社長…ッ



—…これはこれは
…我らが姫君の
御帰還か…



—…たった
あれだけの時間で
まさかこれだけの
事をするとは……

まったくもって
感服するよ
白鳥くん

こらっ……!



…つい今しがた
社長室から警察
の方へ電話がいった
そうです……

じきに調書
取りに来ると
思います……



—……
そうですか……

これですべて
終わったと思うな
よ……?

ギッ



私は必ず戻ってくる
……そして今度は
必ず

お前を……!

……



貴方の時間は未だ
二年前で止まっ
ているわ……



いいえ……

もう
終わりだわ部長……

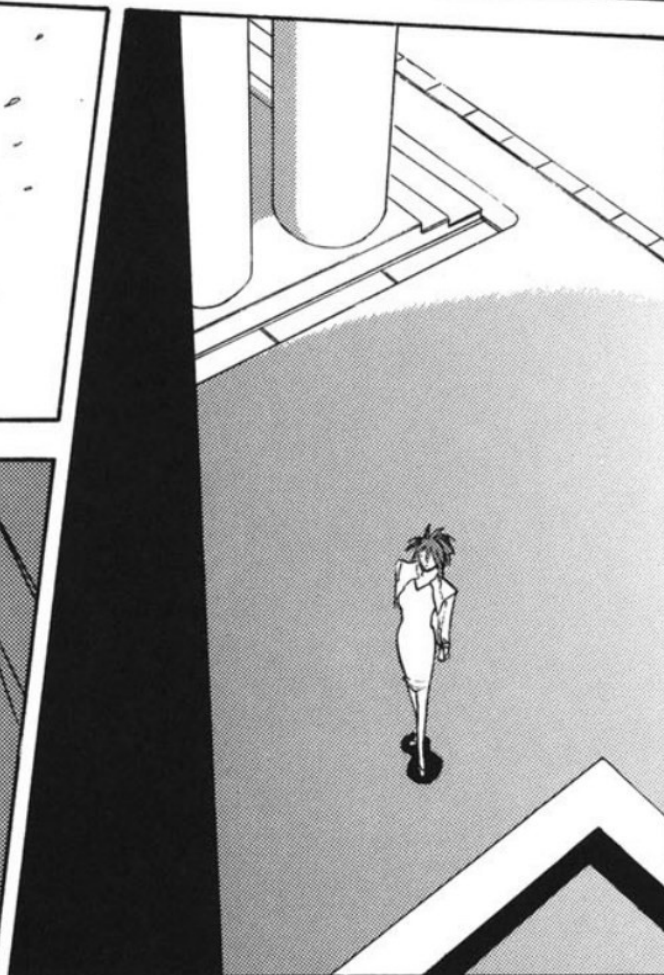
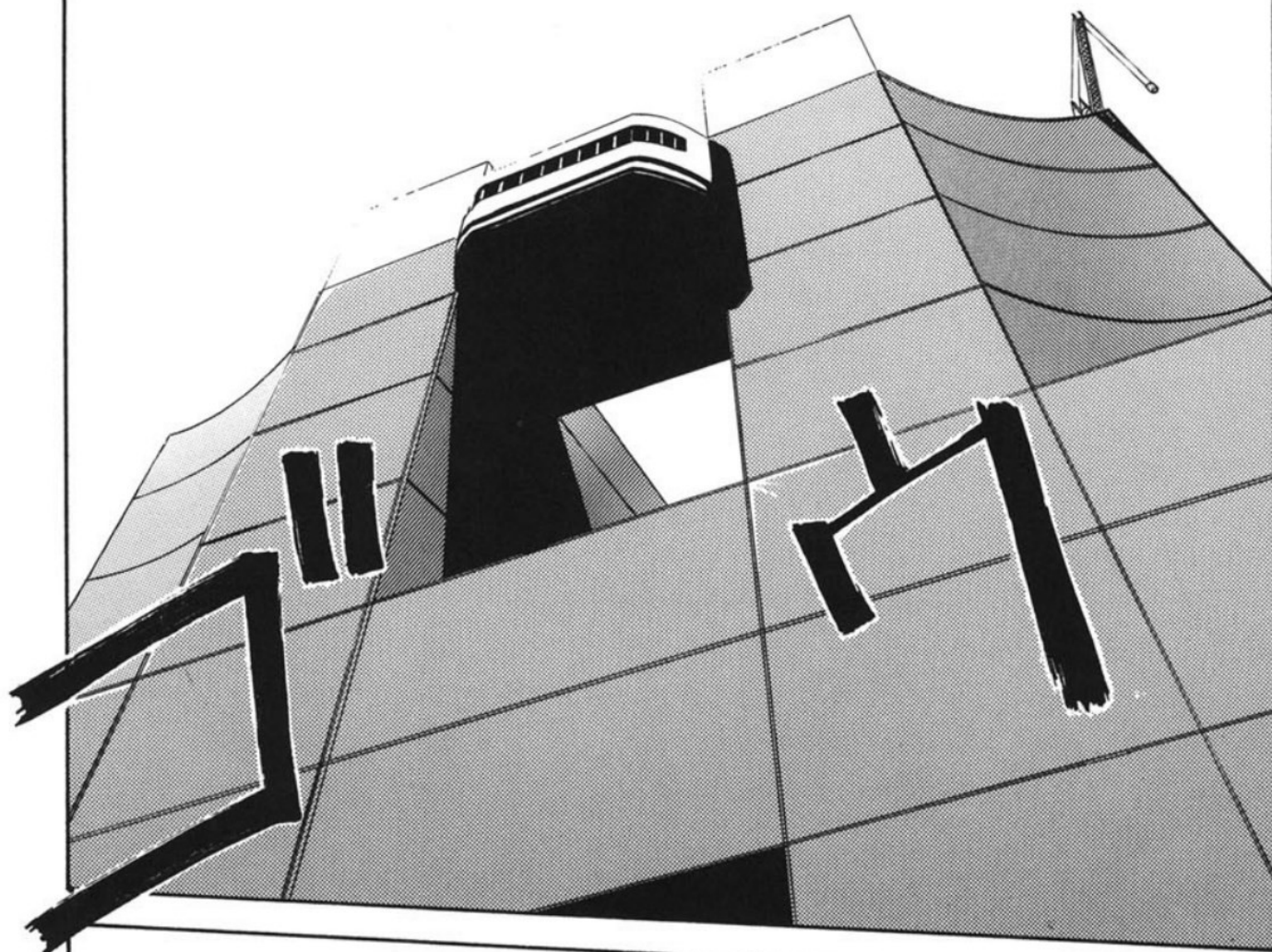
何だと……!

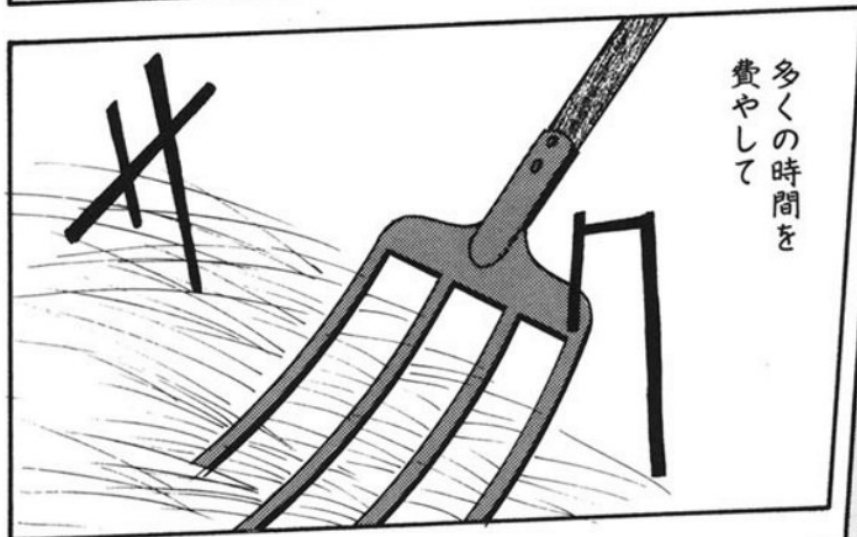
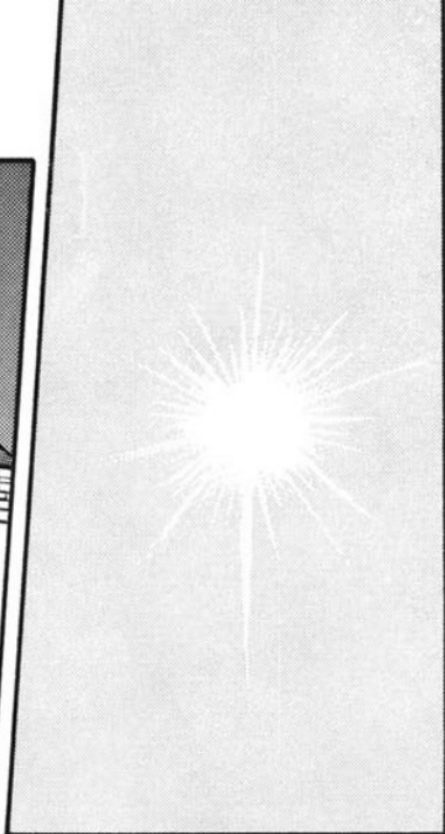
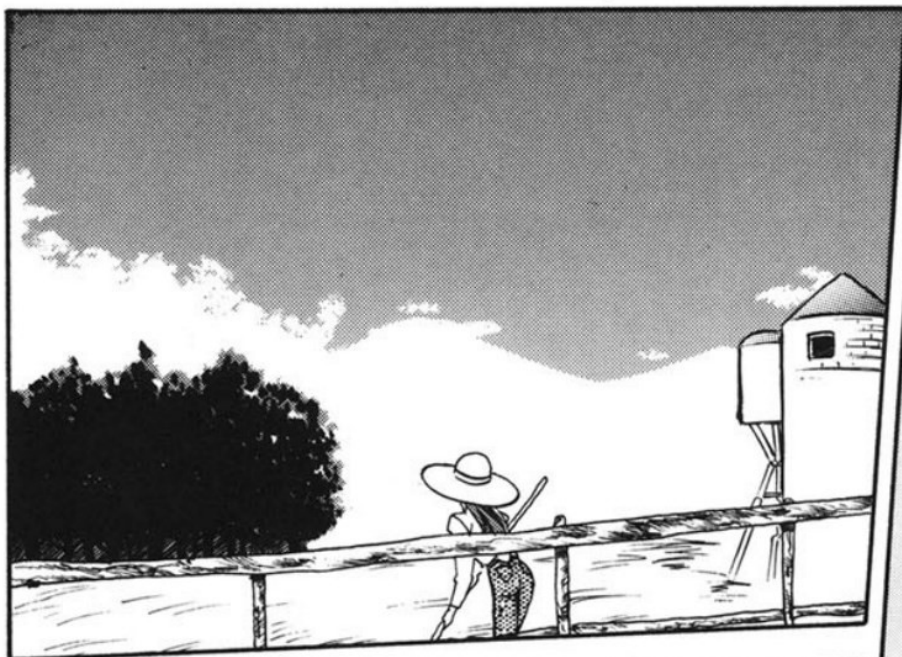


結局貴方を
縛り続けているのは

貴方自身
ですもの……







多くの時間を
費やして

すべてを悔んで
ただ生きてゆくのは
簡単だと思う

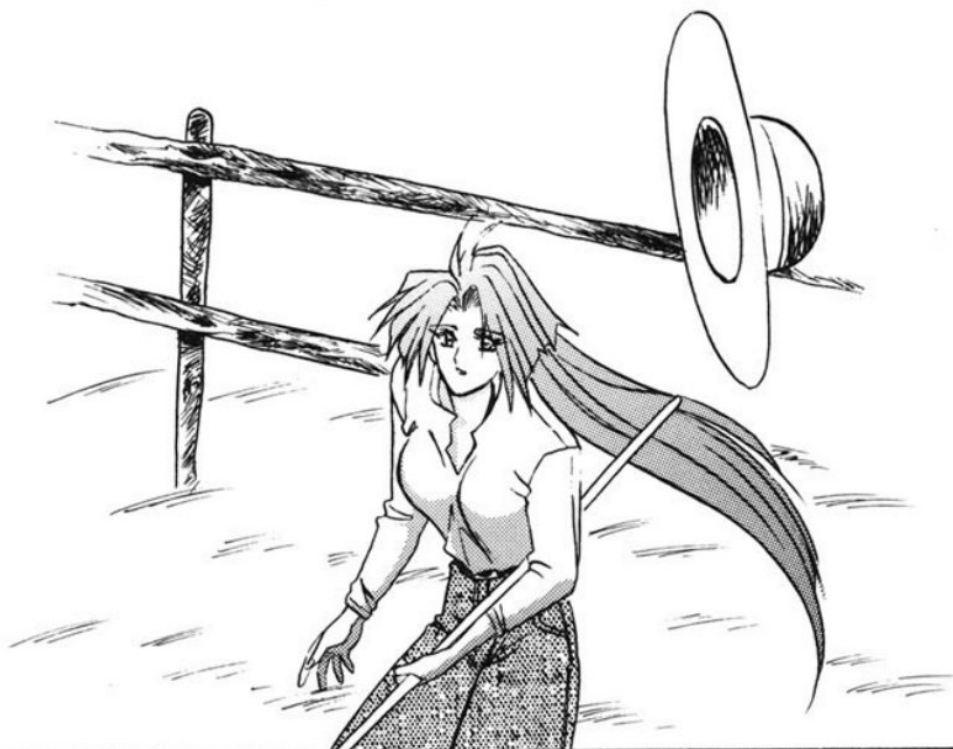


たとえすべてを忘れられたと
しても 忘れてはいけないんだ...



愛情も憎しみも
私自身がその想いや
その経験を

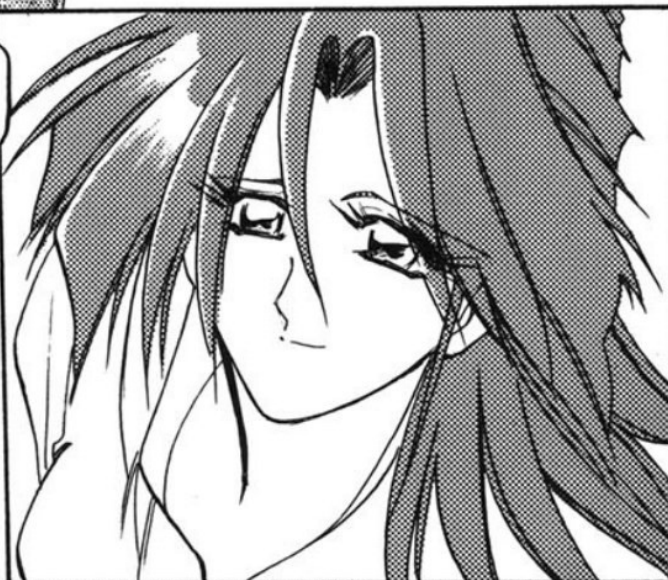
やさしさに変えて
いけるように…



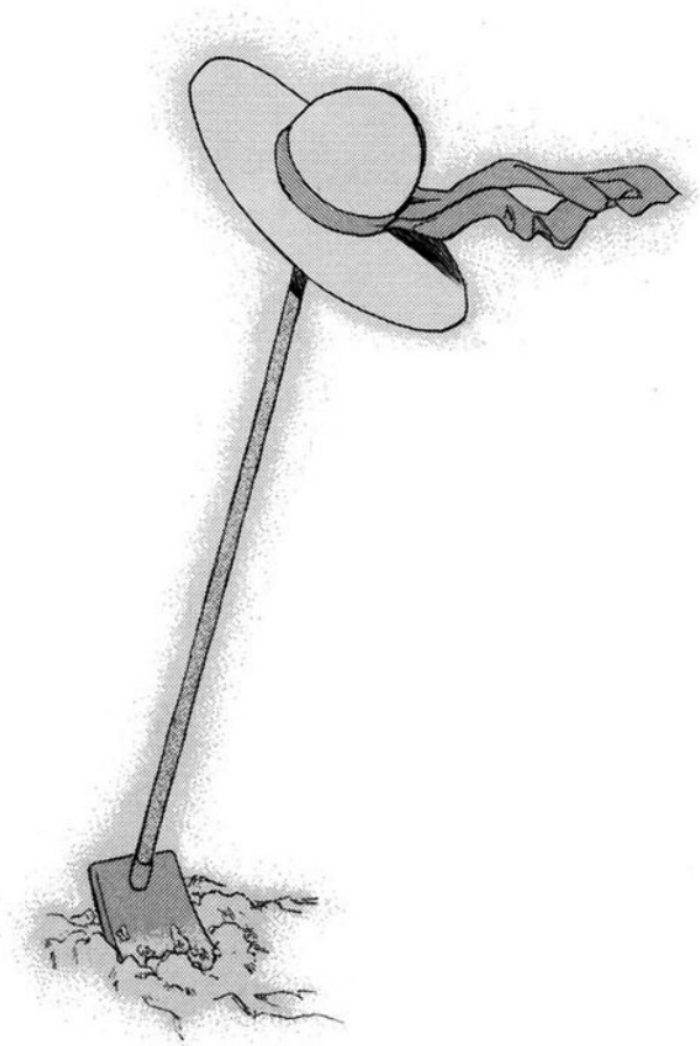
ヒサコさあーん
お茶が入ったわよおー

一服するべっ

はあーい♡



—灼熱の炎・終—



灼熱の炎

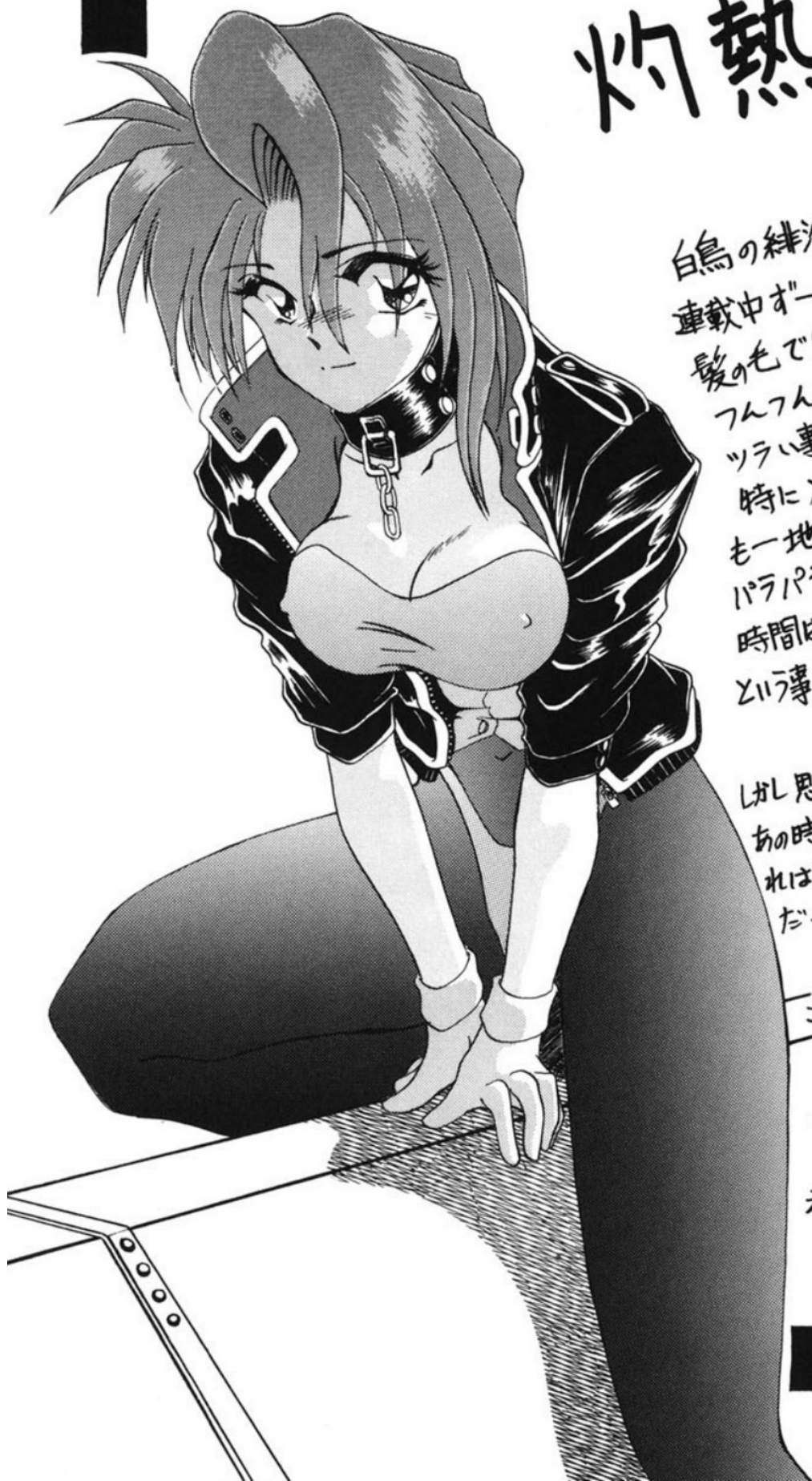
といえは...
白鳥の緋沙さんな訳ですが
車載中オー、と苦労したのが
髪のもでした...
フムフムした頭にはるトーンの
ツライ事 ツライ事...
特にメ切り直前の作業は
もー地獄...
切方が甘い
パラパラはがれるし...
時間はせまってくるし...
という事が一番心に残ってます...

しかし思い出せば19の春
あの時 山君と出会って、いなければ、
もうかしましな人生...
だったって♡(ウソウソ)

これがもー諸に
頑張りましょー!!

えとがん 有無 5ひ
でした

1995.5.16



あしがき

えー…みなさんはじめまして… 山文京伝です
まずはこの本を手に取って下さった皆さんに…
「ありがとうございます!!」

マンガを描きはじめ、右も左もわからない状態で、はじめて持った連載でした…
こんな青二才にいきなり連載を持たせて下さった編集長のNO沢さんには本当に
迷惑しかかけていませんよね…「ダメなヤ、もともと短編として「堕ちてEND」
…と云う話だったモ1を少しづつ、少しづつ考えて構築した結果…こう云う形に仕上がって
しまった訳で、やはり何もかもはじめてだったせいか 見せ方 語り方、どれをとっても中途半端に
なりました気がします… (このページもそうです…)

昔々…TVやマンガを見て「自分だったらこうするのにな…」とか考えていたボクは、既にあるモ1を
いじるのとゼロからモ1を作るのかこれだけ違い、またムズかしい物かと今更ながら自分の
浅はかさを自覚する毎日です… (なんかいい訳がましいですなあ…)

—…物語の主人公 白鳥緋沙子嬢は 自分の中(ストーリーとは別モ1として)では
思い入れが強く、自分の中の1つの理想形なのだとごく最近実感しました…
もう少し、自分の中にある彼女の 魅カを引き出せるカがあれば…なんて思いもあり
この思いを別の形としてまた違う物語で 生かし皆様へ伝える事ができれば…
と思っております…。

最後に我が師匠、天玉寺先生と共に修羅場をかいくぐってくれてる らひん
つたない作品を応援し励ましのお手紙を下した方々、
そしてこの本を手にとって下さった皆様に感謝を込めて……

山文京伝



この度は、山文京伝作品集「灼熱の炎」をお買い上げ頂きありがとうございます。この作品を読まれた感想がありましたら、次の住所までお送り下さい。〒171-0033 東京都豊島区高田3-29-3-7F(株)コアマガジン メガプラス編集部「灼熱の炎」係まで。心よりお待ちしております。



ホットミルクコミックスシリーズ②⑦
しゃくねつ ほのお
灼熱の炎

1995年6月1日初版第1刷発行

2005年12月19日第8刷発行

著 者 さんぶんきょうでん 山文京伝 ©SANBUN KYODEN 1995

装 幀 長谷川哲治

発行人 中沢慎一

編集人 山崎鉄夫

印刷／製版 三共グラフィック株式会社

発行所 〒171-8553 東京都豊島区高田3-7-11
電話 (03) 5950-5100

株式会社 コアマガジン

無断複写・複製・転載を禁じます。
乱丁・落丁本はおとりかえします。